



## Cisco Spaces 連邦サポート設定ガイド

最終更新：2026年7月7日

### シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスココンタクトセンター  
0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（[www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

THE SPECIFICATIONS AND INFORMATION REGARDING THE PRODUCTS IN THIS MANUAL ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. ALL STATEMENTS, INFORMATION, AND RECOMMENDATIONS IN THIS MANUAL ARE BELIEVED TO BE ACCURATE BUT ARE PRESENTED WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED. USERS MUST TAKE FULL RESPONSIBILITY FOR THEIR APPLICATION OF ANY PRODUCTS.

THE SOFTWARE LICENSE AND LIMITED WARRANTY FOR THE ACCOMPANYING PRODUCT ARE SET FORTH IN THE INFORMATION PACKET THAT SHIPPED WITH THE PRODUCT AND ARE INCORPORATED HEREIN BY THIS REFERENCE. IF YOU ARE UNABLE TO LOCATE THE SOFTWARE LICENSE OR LIMITED WARRANTY, CONTACT YOUR CISCO REPRESENTATIVE FOR A COPY.

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

NOTWITHSTANDING ANY OTHER WARRANTY HEREIN, ALL DOCUMENT FILES AND SOFTWARE OF THESE SUPPLIERS ARE PROVIDED "AS IS" WITH ALL FAULTS. CISCO AND THE ABOVE-NAMED SUPPLIERS DISCLAIM ALL WARRANTIES, EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THOSE OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NON-INFRINGEMENT OR ARISING FROM A COURSE OF DEALING, USAGE, OR TRADE PRACTICE.

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

All printed copies and duplicate soft copies of this document are considered uncontrolled. See the current online version for the latest version.

Cisco has more than 200 offices worldwide. Addresses and phone numbers are listed on the Cisco website at [www.cisco.com/go/offices](http://www.cisco.com/go/offices).

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/trademarks.html>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

© 2026 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



## はじめに

ここでは、このマニュアルの対象読者、構成、および使用されている表記法について説明します。

このマニュアルの構成は、次のとおりです。

- [対象読者](#) (iii ページ)
- [表記法](#) (iii ページ)
- [略語の一覧](#) (iv ページ)
- [通信、サービス、およびその他の情報](#) (iv ページ)

## 対象読者

このガイドは、Cisco Spaces のユーザーアカウントを管理し、Cisco Spaces に必要な設定を行うアカウント管理者を対象としています。また、このガイドは、Cisco Spaces を使用してプロキシミティールールを作成し、顧客やビジネスユーザーに通知を送信する事業および店舗の管理者を対象としています。

その他の対象者には、ポータルデザイナーとアクセスコードマネージャが含まれます。

## 表記法

このマニュアルでは、以下の表記法を使用しています。

表 1: 表記法

表記法	説明
太字	コマンド、コマンドオプションおよびキーワードは太字で示しています。
イタリック体	ユーザーが値を指定する引数は、イタリック体で示しています。

表記法	説明
[Option] > [Option]	一連のメニュー オプションを説明するときに使用します。



(注) 「注釈」です。役立つ情報や、このドキュメント以外の参照資料などを紹介しています。



ヒント 読者に提供されるヒントを意味します。ヒントには、問題の解決に役立つ提案が含まれています。

## 略語の一覧

表 2: 略語の一覧

略語	説明
ACL	Access Control List
BLE	Bluetooth Low Energy
CUWN	Cisco Unified Wireless Network
CNA	Captive Network Assistant
RSSI	受信信号強度インジケータ
SSID	Service Set Identifier
UUID	汎用一意識別子

## 通信、サービス、およびその他の情報

- シスコからタイムリーな関連情報を受け取るには、[Cisco Profile Manager](#) でサインアップしてください。
- 重要な技術によりビジネスに必要な影響を与えるには、[Cisco Services \[英語\]](#) にアクセスしてください。
- サービスリクエストを送信するには、[Cisco Support \[英語\]](#) にアクセスしてください。
- 安全で検証済みのエンタープライズクラスのアプリケーション、製品、ソリューション、およびサービスを探して参照するには、[Cisco DevNet \[英語\]](#) にアクセスしてください。

- 一般的なネットワーク、トレーニング、認定関連の出版物を入手するには、[Cisco Press](#) [英語] にアクセスしてください。
- 特定の製品または製品ファミリの保証情報を探すには、[Cisco Warranty Finder](#) にアクセスしてください。

## シスコバグ検索ツール

[シスコのバグ検索ツール](#) (BST) は、シスコ製品とソフトウェアの障害と脆弱性の包括的なリストを管理するシスコバグ追跡システムへのゲートウェイです。BSTは、製品とソフトウェアに関する詳細な障害情報を提供します。

## マニュアルに関するフィードバック

シスコの技術マニュアルに関するフィードバックを提供するには、それぞれのオンラインドキュメントの右側のペインにあるフィードバックフォームを使用してください。



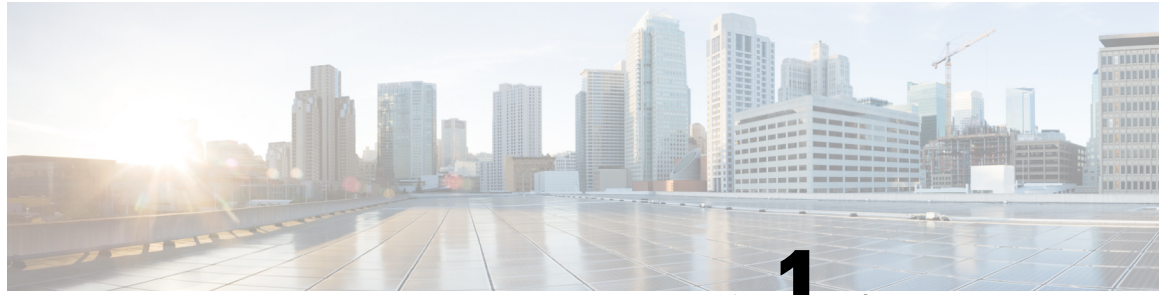


## 第 1 部

# 前提条件

- [Cisco DNA Spaces の前提条件](#) (1 ページ)





# 第 1 章

## Cisco DNA Spaces の前提条件

この章では、Cisco Digital Network Architecture (DNA) Spaces のシステム要件、Cisco DNA Spaces を展開するための帯域幅要件、および Cisco DNA Spaces のポートと IP アドレスについて説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [システム要件 \(1 ページ\)](#)
- [Cisco DNA Spaces を展開するための帯域幅要件 \(2 ページ\)](#)
- [アクセス可能なポートと IP アドレス \(3 ページ\)](#)
- [Cisco Spaces IP アドレス \(3 ページ\)](#)

## システム要件

Cisco Spaces のシステム要件を次の表に示します。

表 3: システム要件

項目	システム要件
オペレーティング システム	<ul style="list-style-type: none"><li>• Microsoft Windows XP またはそれ以降のバージョン</li><li>• macOS X 10.6 以降のバージョン</li></ul>

項目	システム要件
ブラウザ	Windows OS <ul style="list-style-type: none"> <li>• Firefox バージョン 30 以降</li> <li>• Chrome バージョン 34 以降</li> <li>• Safari バージョン 5.1.7 以降</li> </ul> macOS <ul style="list-style-type: none"> <li>• Firefox バージョン 30 以降</li> <li>• Chrome バージョン 34 以降</li> <li>• Safari バージョン 5.1.7 以降</li> </ul>
Cisco AireOS ワイヤレスコントローラ	8.3 以降のバージョン (注) 8.3はサポート終了 (EOL) です。次の場所にある Cisco Wireless Software Release Product Bulletin のガイドラインに従って、推奨リリースのいずれかに移行することをお勧めします。 <a href="https://www.cisco.com/c/en/us/products/collateral/wireless/wireless-controllers/bulletin-c25-738147.html">https://www.cisco.com/c/en/us/products/collateral/wireless/wireless-controllers/bulletin-c25-738147.html</a>
Cisco Connected Mobile Experiences (CMX) : これは、Cisco CMX と一緒に使用される Cisco AireOS/Catalyst コントローラにのみ必要です。	10.6 以降のバージョン
Cisco Spaces : コネクタ (Cisco AireOS/Catalyst コントローラにのみ適用)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• vCPU : 2/4/8</li> <li>• RAM : 4/8/16 GB</li> <li>• ハードディスク : 60 GB</li> </ul>

## Cisco DNA Spaces を展開するための帯域幅要件

次の表は、ロケーション情報の更新を送信するための Cisco DNA Spaces コネクタおよび Cisco Wireless Controller Direct Connect のインターネット帯域幅要件を示しています。

表 4: 帯域幅の要件

テスト データ	タイプ	必要な帯域幅
5000 台の AP 60000 台のクライアント	Cisco Wireless Controller Direct Connect	250 Kbps
5000 台の AP 60000 台のクライアント	Cisco DNA Spaces コネクタ	4 Mbps

## アクセス可能なポートと IP アドレス

Cisco Spaces はクラウドベースソリューションであり、物理的な設置作業は必要ありません。そのため、Cisco Meraki などのクラウドベースのワイヤレスネットワークに Cisco Spaces を展開するためのポートを開く必要はありません。

クラウドベースではない Cisco AireOS や Cisco Catalyst などの一部のネットワークの場合は、ワイヤレスネットワークとの間の接続を確立するためのポートを開く必要があります。この接続は、パブリック IP または VPN により確立することができます。加えて、顧客のインフラストラクチャでいくつかの Cisco Spaces IP アドレスを許可する必要があります。許可される IP アドレスの詳細については、[Cisco Spaces IP アドレス \(3 ページ\)](#) を参照してください。



- (注) デフォルトの Cisco Unified Wireless Network インストールでは、ポート 443 が開かれ、パブリックアクセスが可能になっている必要があります。

Cisco Spaces と Cisco CMX への接続を確立する必要がある次のシナリオでは、Cisco CMX へのパブリックアクセスが可能になっている必要があります。

- Cisco CMX への接続
- ロケーションおよびアクセスポイントのインポート
- Cisco CMX マップの表示
- Cisco Spaces レポートの表示

## Cisco Spaces IP アドレス

Cisco AireOS または Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラと Cisco Spaces 間の接続を確立するには、使用するネットワークインフラストラクチャで一定の Cisco Spaces IP アドレスを許可する必要があります。

VPN 接続を確立するには、Cisco Spaces サポートチームにお問い合わせください。



---

(注) Cisco Spaces に接続するのに、パブリックに解決可能なドメイン名は必要ありません。

---

顧客のネットワークに展開された Cisco CMX インスタンスが Cisco Spaces の分析および通知サーバーと通信できるようにするには、顧客のインフラストラクチャで特定のドメイン名も許可する必要があります。許可する必要があるドメイン名を確認するには、Cisco Spaces ダッシュボードで、[SSIDs] ウィンドウの [Configure Manually] リンクをクリックします。



## 第 II 部

# FedRAMP セキュアの設定

- [FedRAMP セキュアの設定 \(7 ページ\)](#)





## 第 2 章

# FedRAMP セキュアの設定

この章では、セキュアな設定に関する Cisco Spaces FedRAMP の要件の概要について説明します。

- [ダッシュボードの管理者と権限の管理 \(7 ページ\)](#)
- [ダッシュボード管理者ロール \(8 ページ\)](#)
- [アプリケーションロール \(9 ページ\)](#)
- [カスタムロケーション制限ロール \(9 ページ\)](#)
- [管理者の管理ワークフロー \(10 ページ\)](#)
- [ユーザー管理ワークフロー \(20 ページ\)](#)
- [ガバナンスとベストプラクティス \(26 ページ\)](#)

## ダッシュボードの管理者と権限の管理

この章では、ダッシュボード内のさまざまな権限レベルと、管理ユーザーの管理方法について説明します。管理ユーザーは、ダッシュボードにログインして、アカウント内のアプリケーション、ロケーション、デバイス、およびロールベースのアクセスを表示および管理できます。

### 管理者管理

新しいユーザーとして Cisco Spaces にオンボーディングする際、Cisco Spaces サポートチームがアカウント情報の設定や、初期オンボーディング要件の完了をサポートします。Cisco Spaces サポートチームは、新しいアカウントの作成、テナント ID の生成、アカウント番号の割り当て、および適切なライセンスタイプのプロビジョニングを行います。

新しいアカウントが作成されると、**[Default Admin Role]** (**[Dashboard Admin Role]**) が自動的にプロビジョニングされます。

このロールは、アカウントの作成時に設定されたユーザーの電子メールに割り当てられます。**[Default Admin Role]** は、ユーザーとロールを管理するための最上位の管理者ロールです。

# ダッシュボード管理者ロール

新しいアカウントが作成されると、デフォルトの管理者ロール（ダッシュボード管理者ロール）が作成され、アカウント作成時に使用されるユーザーの電子メールに割り当てられます。このロールは、ユーザー/ロール管理における最上位の管理者ロールとして機能します。

## デフォルトの管理ロール：機能

このロールを持つユーザは、次のこともできます。

- デフォルトの管理者ロールを持つ新しいユーザーを招待し、完全な場所または制限された場所の権限を割り当てます。
- 新しいユーザーを招待し、場所ベースの制限があるカスタムロールに割り当てます。
- カスタムユーザーロールを管理します（ユーザーロールの変更を含む）。
- 他のデフォルト管理者またはカスタムロールユーザーをアカウントアクセスから削除します。
- 次のいずれかのカスタムロールを作成します。
  - デフォルト管理者ロールアクセスのミラーリング、または
  - アプリケーション固有のアクセス権やロケーションベースの制限を付与します。
- ロールの割り当てを管理します。これには、ロールのマッピングの作成、アプリケーション/ロケーションアクセスの変更、カスタムロールの削除が含まれます。
- アカウントライセンスの権利を持つすべてのロケーション、デバイス、および Cisco Spaces アプリケーションにアクセスできます。



(注) 管理者管理セクションを介して招待されたユーザーは、アクセスが特定のアプリケーションまたは場所に制限されているかどうかにかかわらず、ユーザーとロールを管理するための Cisco Spaces アカウントで完全な管理者と見なされます。さらに、アクセスが制限されている管理者は、制限のないフル管理者を招待する機能を保持します。

## デフォルト管理ロール：制限事項

このロールを持つユーザーは **次のことをできません**。

- デフォルトの管理者ロールの定義を削除または編集します。
- アカウントから自分自身を削除します。
- アカウントのライセンスまたはサブスクリプションを変更する。

# アプリケーションロール

アプリケーション ロールは、表示専用アクセスから完全な設定およびデータ管理まで、ユーザーが Cisco Spaces アプリケーション内で実行できることを定義します。**Read-Only** アプリケーション ロールを使用すると、ユーザーは変更を加えることなくアプリケーション UI にアクセスし、設定、レコード、および詳細を表示できます。**[Read/Write]** アプリケーション ロールを使用すると、ユーザーはアプリケーション UI にアクセスして、アプリケーション関連の設定やデータを追加、編集、または削除できます。また、**[User Management]** オプションを使用して、追加のユーザー（読み取り専用または読み取り/書き込み）を招待することもできます。招待者の許可されたロケーション境界に制限されます。

## 読み取り専用アプリケーション ロール

ロールがアプリケーションへの **[Read-Only]** アクセスを許可している場合、次のことができます。

- アプリケーション UI にアクセスします。
- 設定、レコード、および詳細を表示します。



(注) 設定/データを追加、編集、または削除することはできません。

## 読み取り/書き込みロール

ロールがアプリケーションへの **[Read/Write]** アクセスを許可している場合、次のことができます。

- アプリケーション UI にアクセスします。
- そのアプリケーションに関連付けられたデータ/設定を追加、編集、および削除します。
- **User Management** オプションを **読み取り専用** または **読み取り/書き込み** として使用して、他のユーザーを招待します。範囲は、招待するユーザーの許可された場所の範囲に限定されます。

# カスタムロケーション制限ロール

場所に制限があるユーザーは次のことができます。

- 割り当てられた場所のみを表示、設定、および管理します。
- それらの場所に限定してデータおよび操作アクションを実行します。

場所に制限されたカスタムロールを持つユーザーは、割り当てられた範囲外の場所にアクセスできません。

## 管理者の管理ワークフロー

Cisco Spaces の管理ワークフローは、管理ユーザーとそのロールを管理するためのプロセスと手順です。これらのワークフロータスクの範囲には、新しい管理ユーザーの追加、カスタムロールの管理、ユーザーロールの変更、ロールの削除、ユーザーアクセスの取り消しが含まれます。

これらのワークフローは Cisco Spaces、アカウント内のユーザーとロールを管理するために必要な手順を定義することにより、管理のセキュリティ、組織性、効率を向上させることを目的としています。

このアプローチは、Cisco Spaces アカウントのアクセス制御が適切であり、ロール権限が遵守されることを確認するのに役立ちます。必要に応じて場所の制限を管理します。これらのワークフローを実行することで、管理者は、管理アクセスを持つユーザーを制御し、組織のニーズに応じてロールを管理し、管理プロセスの完全性とセキュリティを確保することができます。

## 新しい管理ユーザーの招待

管理者が、適切な権限とアクセス範囲を持つ新しいユーザーをシステムに安全に追加できるようにします。これにより、制御されたロールベースのアクセス管理を実行できます。

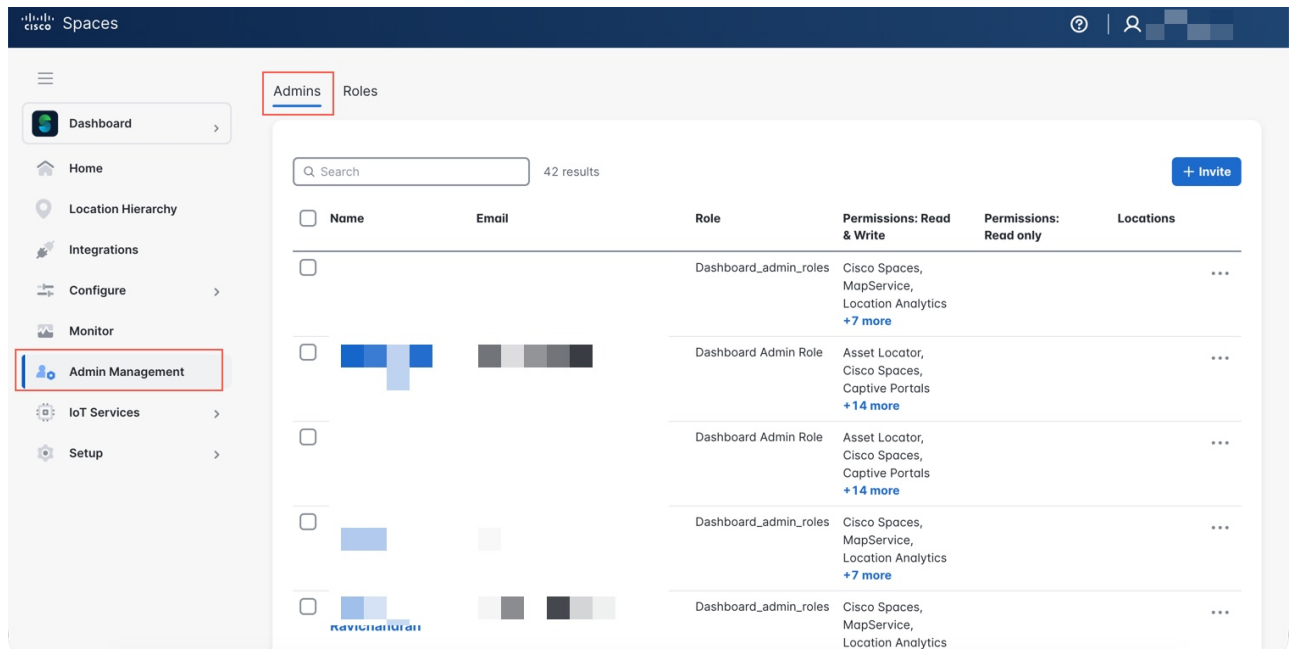
このタスクでは、電子メールを指定し、ロールを割り当て、必要に応じて場所の制限を設定することにより、新しい管理者ユーザーを招待するプロセスを管理者に説明します。

新しい管理者ユーザーを Cisco Spaces に招待するには、次の手順を実行します。

### 手順

---

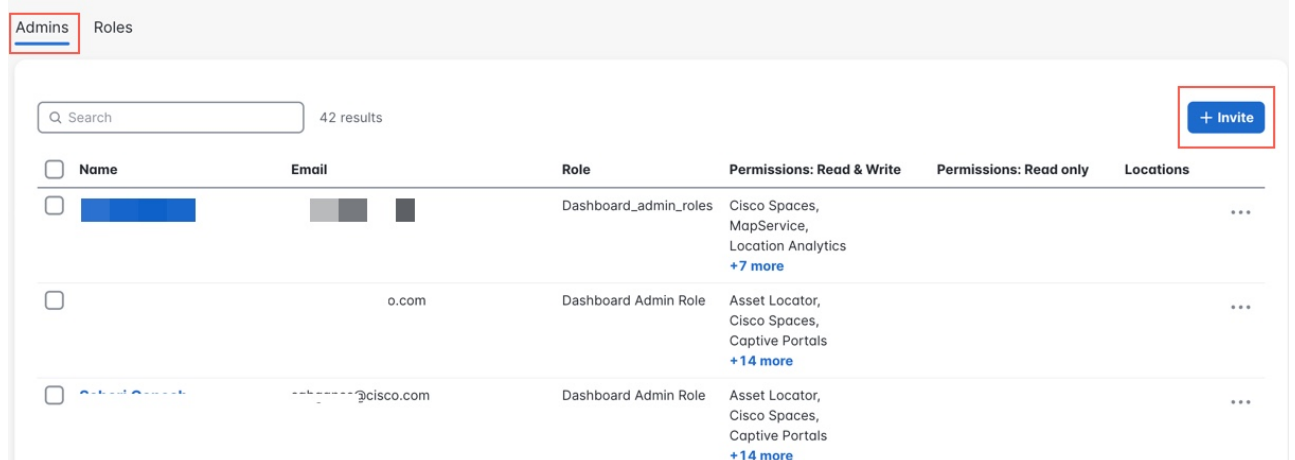
**ステップ 1** 左側のペインで、[Admin Management] をクリックします。



[Admin Management] ウィンドウが表示されます。

ステップ2 [Admins] タブをクリックします。

ステップ3 新しい管理ユーザーを招待するには、[招待] をクリックします。



[Invite User] ウィンドウが表示されます。

ステップ4 [Email] フィールドに、新しい管理者ユーザーの電子メールアドレスを入力します。

ステップ5 [Role Name] ドロップダウンリストから、[Default Admin Role] またはカスタムロールとしてロールを選択します。

← Admin Management

### Invite User

Email

---

ROLE NAME

---

Restrict this role to specific locations

ステップ6 (オプション) チェックボックスをオンにして場所の制限を有効にし、該当する場所を選択します。

ステップ7 **[Invite]** をクリックして招待を送信します。



招待メールが新しいユーザーに送信されます。

## カスタム ロールの作成

管理者が組織のニーズに合わせて調整されたロールを定義できるように、管理者権限を詳細に制御し、ロールのカスタマイズによってセキュリティを強化できるようにします。

このタスクでは、カスタム管理者ロールに名前を付け、読み取り専用、読み取り/書き込みなどの特定のアプリケーション権限を選択することで、カスタム管理者ロールを作成する方法について説明します。

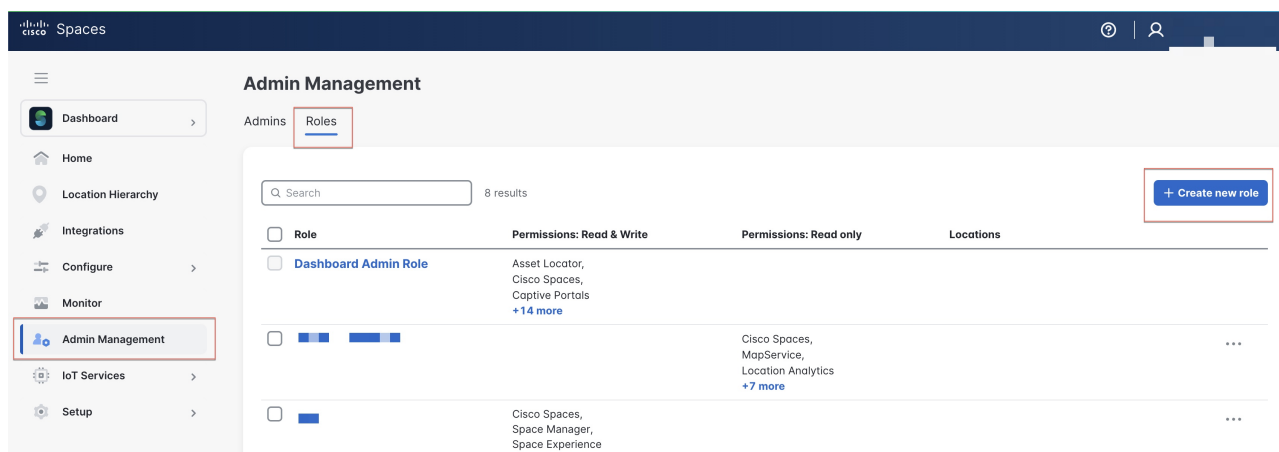
新しいカスタム管理者ロールを作成するには、次の手順に従います。

### 手順

**ステップ 1** 左側のペインで、[Admin Management] をクリックします。

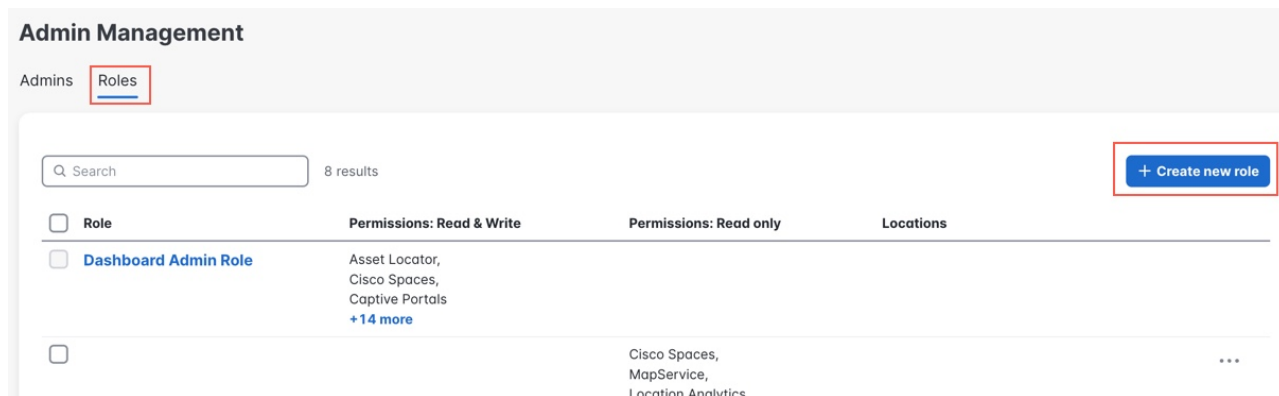
[Admin Management] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [Roles] タブをクリックします。



[Roles] タブが表示されます。

**ステップ 3** 新しいカスタム管理者ロールを作成するには、[Create new role] をクリックします。



**ステップ 4** [Role Name] フィールドに、新しいロールの名前を入力します。

← Admin Management  
Create New Role

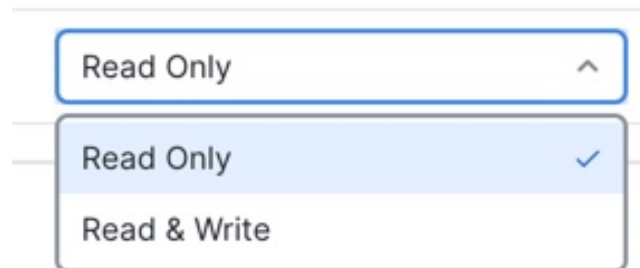
ROLE NAME  
Role Name

Application	Permission Type
<input checked="" type="checkbox"/> Cisco Spaces	Read Only ^
<input type="checkbox"/> MapService	Read Only ✓
<input type="checkbox"/> Location Analytics	Read & Write v
<input type="checkbox"/> Right Now	Read Only v
<input type="checkbox"/> Detect and Locate	Read Only v
<input type="checkbox"/> IoT Services	Read Only v
<input type="checkbox"/> Space Manager	Read Only v
<input type="checkbox"/> Space Experience	Read Only v
<input type="checkbox"/> Space Utilization	Read Only v
<input type="checkbox"/> proximity	Read Only v

Restrict this role to specific locations

Cancel Create Role

ステップ5 [Permission Type] ドロップダウンリストから、権限タイプとして [Read Only] または [Read & Write] アク



セスを選択します。

ステップ6 (オプション) チェックボックスをオンにして場所の制限を有効にし、該当する場所を選択します。

ステップ7 [Create Role] をクリックして、ロールを作成します。  
新しいカスタムロールが正常に作成されました。

## ユーザーロールの割り当ての編集

正確かつ最新のロール割り当てを維持し、管理者ユーザーがその責任に合わせた適切な権限とアクセス権を持つようにします。

このタスクでは、既存の管理者ユーザーのロールやロケーション範囲を変更する手順について詳しく説明しています。

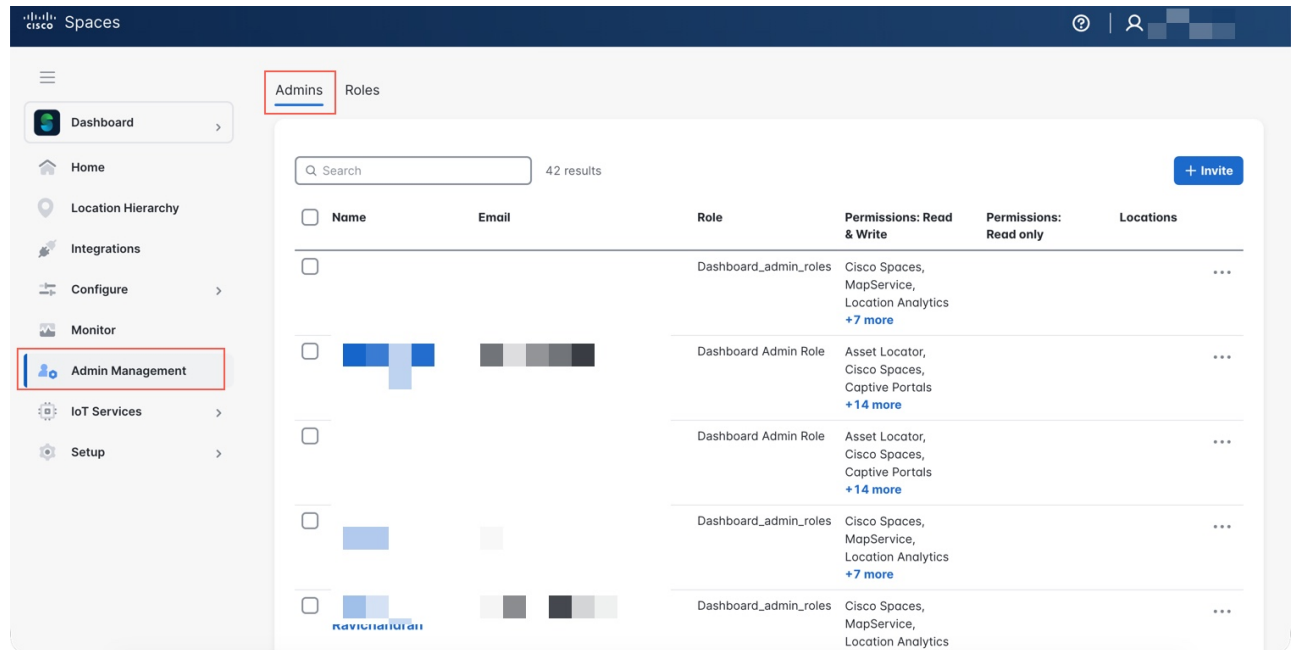
既存の管理者ユーザーのロールの割り当てを編集するには、次の手順を実行します。

## 手順

ステップ1 左側のペインで、[Admin Management] をクリックします。

[Admin Management] ウィンドウが表示されます。

ステップ2 [Admins] タブをクリックします。



The screenshot shows the Cisco Spaces Admin Management interface. The left sidebar contains navigation options: Dashboard, Home, Location Hierarchy, Integrations, Configure, Monitor, Admin Management (highlighted with a red box), IoT Services, and Setup. The main content area is titled 'Admins Roles' and shows a search bar with '42 results' and a '+ Invite' button. Below the search bar is a table with columns: Name, Email, Role, Permissions: Read & Write, Permissions: Read only, and Locations. The table lists several roles, including 'Dashboard\_admin\_roles' and 'Dashboard Admin Role', with their respective permissions and location access.

<input type="checkbox"/>	Name	Email	Role	Permissions: Read & Write	Permissions: Read only	Locations
<input type="checkbox"/>			Dashboard_admin_roles	Cisco Spaces, MapService, Location Analytics <a href="#">+7 more</a>		...
<input type="checkbox"/>			Dashboard Admin Role	Asset Locator, Cisco Spaces, Captive Portals <a href="#">+14 more</a>		...
<input type="checkbox"/>			Dashboard Admin Role	Asset Locator, Cisco Spaces, Captive Portals <a href="#">+14 more</a>		...
<input type="checkbox"/>			Dashboard_admin_roles	Cisco Spaces, MapService, Location Analytics <a href="#">+7 more</a>		...
<input type="checkbox"/>			Dashboard_admin_roles	Cisco Spaces, MapService, Location Analytics		...

ステップ3 編集するユーザー名を選択して [Edit] をクリックします。

ステップ4 必要に応じて、ユーザーのロールや場所の範囲を更新します。

← Admin Management

### Edit User

Email



---

ROLE NAME



---

BASED ON THE ROLE YOU SELECTED, THIS ADMIN WILL HAVE THE FOLLOWING PRIVILEGES :

Apps	Permission Type
Cisco Spaces	Read & Write
MapService	Read & Write
Location Analytics	Read & Write
Right Now	Read & Write
Detect and Locate	Read & Write
IoT Services	Read & Write
Location Personas	Read & Write
Space Manager	Read & Write
Space Experience	Read & Write
Space Utilization	Read & Write

ステップ5 [Update] をクリックして変更を適用します。

## カスタムロールの削除

廃止されたロールや不要なロールを削除することにより、管理ロールを管理およびクリーンアップすると同時に、適切なアクセス権を持たないユーザーが存在しないようにして、システムの完全性を維持します。

このタスクでは、カスタム管理者ロールを削除する方法と、必要に応じて影響を受けるユーザーを再割り当てすることの重要性について説明します。

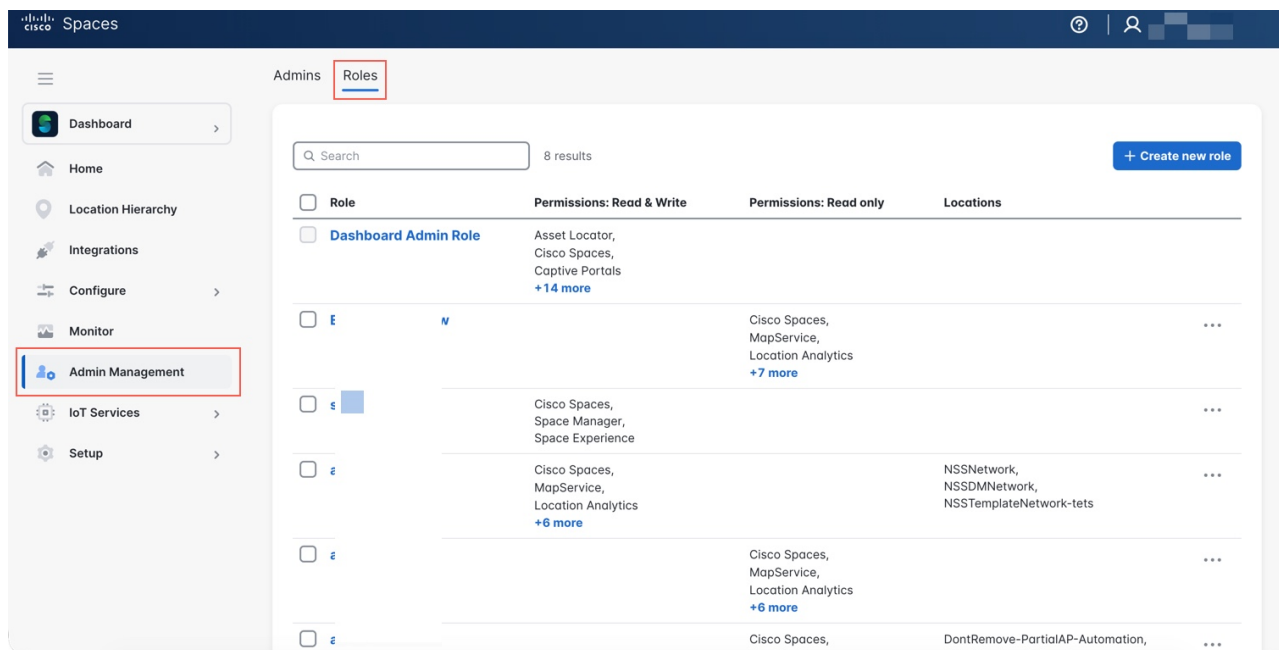
カスタム管理者ロールを削除するには、次の手順に従います。

## 手順

ステップ1 左側のペインで、[Admin Management] をクリックします。

[Admin Management] ウィンドウが表示されます。

ステップ2 [Roles] タブをクリックします。



ステップ3 削除するカスタムロールを選択します。

The screenshot shows the Cisco Spaces Admin Management interface. On the left is a navigation menu with 'Admin Management' selected. The main area displays a table of roles with columns for Role, Permissions: Read & Write, Permissions: Read only, and Locations. The role 'sws' is selected, and a 'Remove' button is highlighted in a yellow box. A confirmation dialog is shown below the table.

Role	Permissions: Read & Write	Permissions: Read only	Locations
<input type="checkbox"/>	Asset Locator, Cisco Spaces, Captive Portals <a href="#">+14 more</a>		
<input type="checkbox"/>		Cisco Spaces, MapService, Location Analytics <a href="#">+7 more</a>	...
<input checked="" type="checkbox"/>	Cisco Spaces, Space Manager, Space Experience		...
<input type="checkbox"/>	Cisco Spaces, MapService, Location Analytics <a href="#">+6 more</a>		NSSNetwork, NSSDMNetwork, NSSTemplateNetwork-tets
<input type="checkbox"/>		Cisco Spaces, MapService, Location Analytics <a href="#">+6 more</a>	...
<input type="checkbox"/>		Cisco Spaces, MapService, Location Analytics	DontRemove-PartialAP-Automation, NSS-Wireless-Network, NSSTemplateNetwork-tets

ステップ4 [Remove] をクリックして、削除を確認します。



Are you sure you want to delete the selected role(s)? This action cannot be undone.

Cancel Delete

ステップ5 この削除の影響を受けるユーザーが必要に応じて他のロールに再割り当てされていることを確認してください。

## ユーザーのアクセスを削除

管理者権限を必要としないユーザーのアクセスを安全に取り消し、不正アクセスや潜在的なセキュリティリスクからシステムを保護します。

このタスクでは、システムから管理ユーザーのアクセスを削除する手順の概要を説明します。

管理者ユーザーのアクセスを削除するには、次の手順を実行します。

## 手順

ステップ1 左側のペインで、[Admin Management] をクリックします。

[Admin Management] ウィンドウが表示されます。

ステップ2 [Admins] タブをクリックします。

ステップ3 アクセスを削除するターゲットユーザーを選択します。

ステップ4 [Remove] をクリックして、アクションを確認します。



Are you sure you want to delete the selected users(s)? This action cannot be undone.

Cancel

Remove

## ユーザー管理ワークフロー

ユーザー管理ワークフローは、管理者がアプリケーション内のユーザーアクセスとロールを管理できるようにする一連の構造化プロセスです。これらのワークフローには、新規ユーザーの招待、ユーザーのアクティベーションステータスの管理、招待の再送信、招待の有効期限の処理が含まれ、安全で制御されたアクセスを維持します。

ユーザー管理ワークフローの目的は、管理者がユーザーを効率的にオンボーディングするための明確で反復可能な手順を提供する一方、ロールの割り当てや場所の制限など、適切な権限とセキュリティ策を適用することです。これらのワークフローにより、招待が一定期間有効であり、必要に応じて更新できます。

### 主要な属性

- **[Invitation Process]** : 管理者は、電子メール、ロール（読み取り/書き込みユーザーまたは読み取り専用ユーザーなど）、および場合によっては場所の制限を指定して、新しいユーザーを招待します。
- **[Invitation Resend]** : ユーザーが招待に応答しなかった場合、管理者はその招待を再送信できます。これにより、新しいトークンが生成され、招待の有効期間が再開されます。
- **[Invitation Expiry]** : 招待は一定期間(5日)後に期限切れになります。その後、新しい招待が送信されない限り、トークンは無効になります。
- **[User Status Tracking]** : 招待を受け入れるまで、ユーザーは「招待済み - 未応答」状態になり、保留中のユーザーアクティベーションの明確な可視性が確保されます。

ユーザー管理ワークフローは、アプリケーション内のセキュアで組織的なアクセス制御を維持するために重要です。これは、管理者が、承認されたユーザーのみが正しい権限でアクセスできること、および期限切れまたは未承認の招待によってセキュリティリスクが生じないことを確認するのに役立ちます。これらのワークフローには、ユーザー招待を組織的に管理および更新するためのメカニズムが用意されているため、業務の効率性も向上します。

- 電子メールを入力し、ロールを選択することによる、新しいユーザーの招待。

- まだ受け入れていないユーザーに招待を再送信すると、以前のトークンが無効になり、新たな有効期限を持つ新しいトークンが発行されます。
- タイムリーなユーザーアクティベーションを適用するための、5 日後に自動的に期限切れになる招待。

## 新しいアプリケーションユーザーの招待

適切なアクセスロールとオプションの場所の制限を含む招待メールを管理者が送信することにより、新しいユーザーをアプリケーションに追加できるようにします。

新しいユーザーの招待は、ユーザー管理の基本的な部分であり、アプリケーションへの制御されたアクセスを可能にします。このプロセスにより、ユーザーはシステムの使用を開始する前に、正しい権限と必要なロケーションベースの制限を付与できます。

### Before you begin

このタスクを開始する前に、[User Management] セクションへの管理アクセス権と、招待するユーザーの電子メールアドレスを確認してください。

新しいアプリケーションユーザーを Cisco Spaces に招待するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** Cisco Spaces : Space Manager アプリケーションの左側のペインで、[User Management] をクリックします。  
[User Management] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [Users] タブをクリックします。
- ステップ 3** 新しいアプリケーションユーザーを招待するには、[Invite User] をクリックします。

[Invite User] ウィンドウが表示されます。

ステップ4 **[Email]** フィールドに、新しいアプリケーションユーザーの電子メールアドレスを入力します。

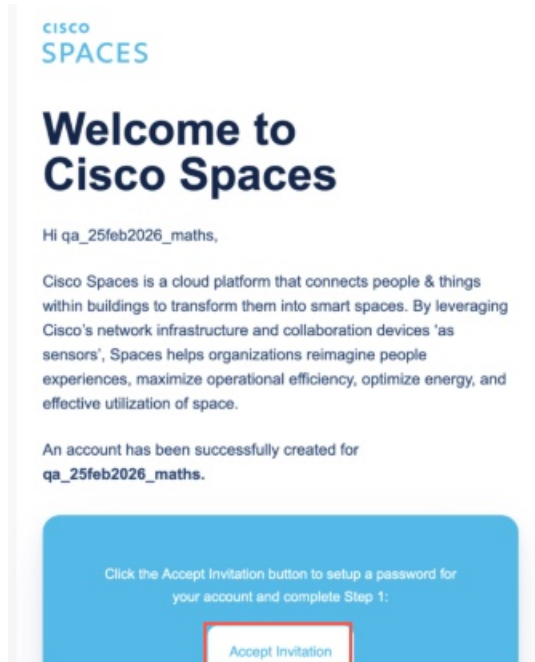
ステップ5 **[Role]** ドロップダウンリストから、ロールとして **[Read Write User]** または **[Read Only User]** を選択します。

ステップ6 (オプション) チェックボックスをオンにして場所の制限を有効にし、該当する場所を選択します。

ステップ7 **[Send Invitation]** をクリックして、招待を送信します。

招待メールが新しいユーザーに送信されます。ユーザーが同意するまで、ユーザーステータスは **[Invited - Not yet responded]** に設定されます。

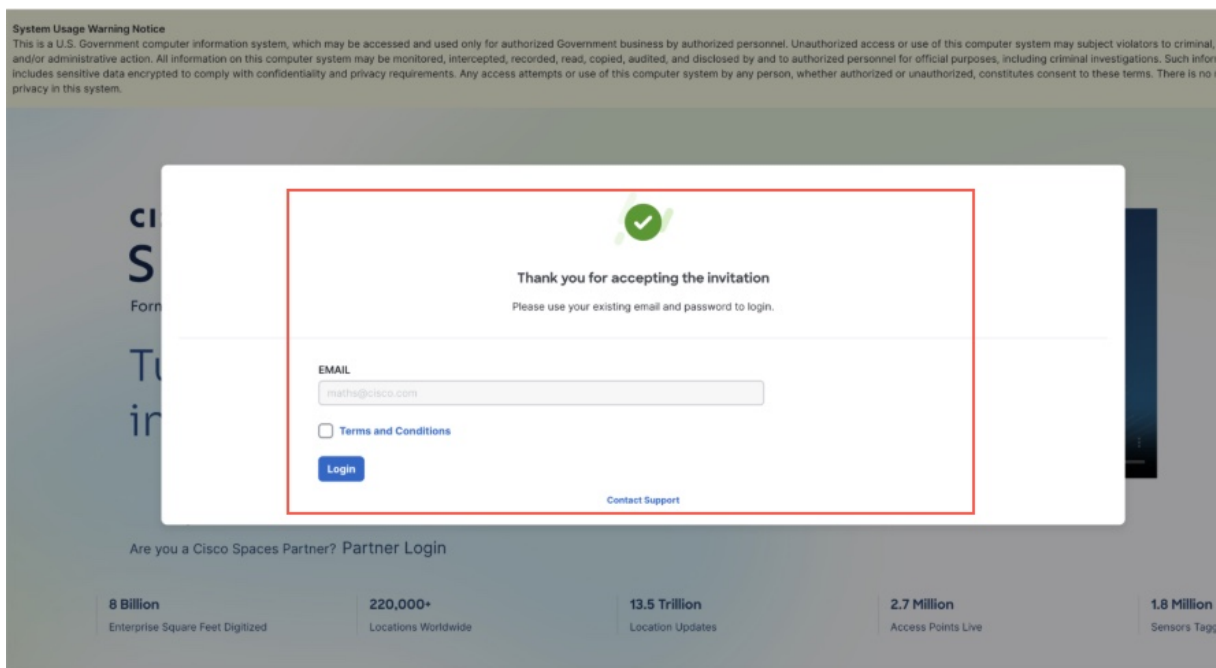
ウェルカムメールがユーザーに送信されたら、[Accept Invitation] をクリックしてアカウント



のパスワードを設定する必要があります。

### 次のタスク

電子メールとパスワードを使用してログインし、[Select Customer] ドロップダウンリストからアカウントを選択します。



## 招待状を再送信

管理者がまだ応答していないユーザーに招待を再送信できるように、有効な招待トークンがあることを確認し、招待の有効期間を延長します。

場合によっては、ユーザーが有効期間内の最初の招待に応答しない場合があります。招待を再送信すると、新しいトークンが生成され、5日間の有効期限が再開されます。これにより、安全かつ最新のアクセス制御を維持できます。

このタスクを開始する前に、ダッシュボードへの管理アクセスが必要であり、ユーザーのステータスが [Invited - Not yet responded.] である必要があります。

招待状を再送信するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** 左側のペインで、[Admin Management] をクリックします。

[Admin Management] ウィンドウが表示されます。

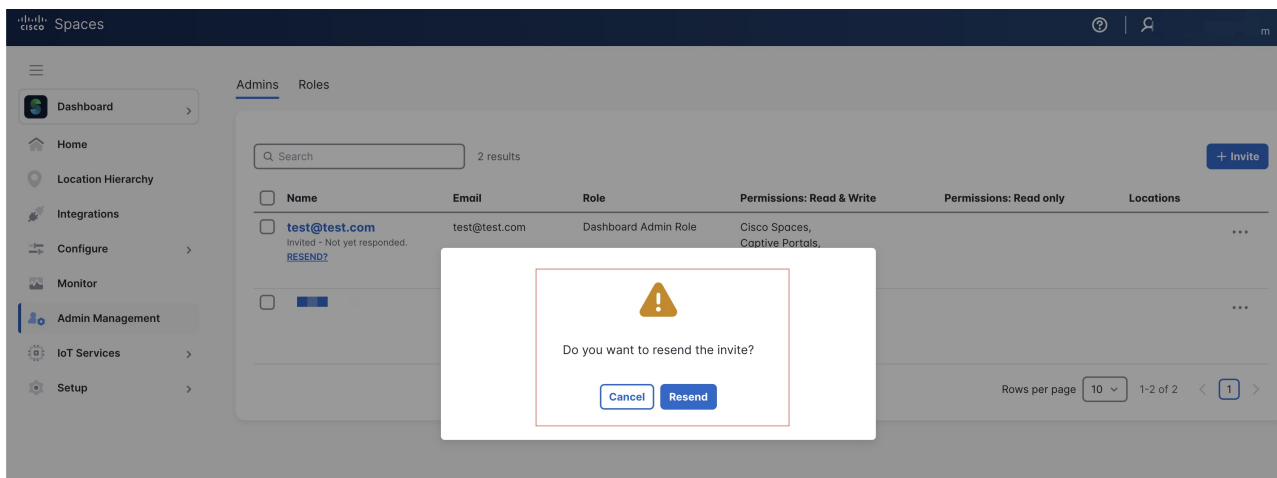
**ステップ 2** [Admins] タブをクリックします。

**ステップ 3** 招待するユーザーを再度選択し、[RESEND?] をクリックします。

The screenshot shows the Cisco Spaces Admin Management interface. The left sidebar contains navigation options: Dashboard, Home, Location Hierarchy, Integrations, Configure, Monitor, Admin Management (selected), IoT Services, and Setup. The main content area is titled 'Admins Roles' and displays a table with 2 results. The first row is for a user with email 'test@test.com' and role 'Dashboard Admin Role'. The user's status is 'Invited - Not yet responded.' and a 'RESEND?' button is highlighted with a red box. The table columns are Name, Email, Role, Permissions: Read & Write, Permissions: Read only, and Locations. The second row is partially visible, showing a role 'Dashboard Admin Role' and permissions for 'Cisco Spaces, Captive Portals, MapService +15 more'.

Name	Email	Role	Permissions: Read & Write	Permissions: Read only	Locations
<input type="checkbox"/> test@test.com	test@test.com	Dashboard Admin Role	Cisco Spaces, Captive Portals, MapService +15 more		...
<input type="checkbox"/>		Dashboard Admin Role	Cisco Spaces, Captive Portals, MapService +15 more		...

**ステップ 4** 確認ポップアップで、[RESEND?] をクリックします。



招待が再送信されると、新しい招待トークンが生成され、古いトークンは無効になり、使用できなくなります。招待の有効期限は、再送信した時点から5日間にリセットされ、ユーザーが招待を受け入れるまで、招待された状態のままになります。

#### 次のタスク

招待の有効期限ルールの詳細については、[招待の有効期限ルール \(25 ページ\)](#) を参照してください。

## 招待の有効期限ルール

トークンにはセキュリティを強化するために有効期間が制限されているため、管理者がユーザーアクセスを効果的に管理するには、招待の有効期限を理解しておくことが重要です。招待を再送信すると、新しいトークンが生成されてこの期間が更新されます。これにより、ユーザーアクセスの制御が維持され、有効な招待のみがアクティブになります。目的は、ユーザー招待プロセスで使用される招待トークンの有効期限と有効性を制御するルールと動作を明確にすることです。ユーザー招待プロセスの招待トークンに関連する2つの主な属性は次のとおりです。

- **[Token Expiry]** : 招待トークンの有効期間は、送信日から5日間です。現在時刻が期限切れ時刻未満である場合、トークンは有効であり、現在時刻が期限切れ時刻と同等以上になると期限切れになります。
- **[Token Invalidation on Resend]** : 招待が再送信されると、新しい招待トークンが生成され、古いトークンは無効になり、使用できなくなります。このアクションにより、招待の有効期限が再送信時間から5日間にリセットされます。一方、ユーザーは招待を受け入れるまで、招待された状態のままです。

#### ルール

- 有効期限 = 招待の送信時間 + 5 日 (432,000 秒)。

- トークンは、現在時刻から有効期限まで有効です。
- トークンは、現在時刻が有効期限以上になった時点で、有効期限が切れます。

**[Behavior on Resend]**

- 再送信すると、新しい発行時刻 (iat) と有効期限 (exp) の新しいトークンが生成されません。
- 古いトークンが無効です。
- 招待の有効期限ウィンドウが、再送信時間から 5 日間再開されます。

## ガバナンスとベストプラクティス

これらのガバナンスガイドラインとベストプラクティスに従って、Cisco Spaces アカウントの安全かつ迅速な管理を実現します。

- 運用の継続のために、少なくとも2人の **[Default Admin]** ユーザーを維持してください。
- 最小権限の原則を適用し、不必要に広範な書き込みアクセス権を回避してください。
- デフォルトでは最も低い権限を使用し、不必要に広範な書き込みアクセスを回避してください。
- ビジネス境界で必要な場合は、場所の制限を使用します。
- 定期的なアクセスレビューを実行します (月次、四半期)。
- オフボーディング中にアクセスをすぐに削除します。
- ロールの作成、割り当ての変更、およびユーザーの削除の監査レコードを保持します。



## 第 III 部

# 使用する前に

- [Cisco DNA Spaces を試してみる](#) (29 ページ)





## 第 3 章

# Cisco DNA Spaces を使ってみる

この章では、Cisco Digital Network Architecture (DNA) Spaces の概要、その機能、プロセスフロー、ライセンスパッケージ、および Cisco DNA Spaces のシステム要件について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [Cisco Spaces の概要 \(29 ページ\)](#)
- [ログイン \(30 ページ\)](#)
- [Cisco Spaces での操作開始 \(30 ページ\)](#)
- [オンボードワークフロー \(31 ページ\)](#)
- [Cisco Spaces : コネクタ 3.0 \(32 ページ\)](#)
- [Cisco Spaces アイドルタイムアウト \(32 ページ\)](#)
- [Cisco Spaces Federal サポートに連絡する \(33 ページ\)](#)
- [Cisco Spaces マニュアル \(34 ページ\)](#)

## Cisco Spaces の概要

Cisco Spaces は、物理的なビジネス拠点にいる訪問者を把握し、訪問者とつながり関与することを可能にするマルチチャネル エンゲージメント プラットフォームです。

Cisco Spaces は、顧客が大規模なビジネス成果を達成できるようにする、業界で最も拡張性のあるエンドツーエンドの屋内ロケーション サービス クラウド プラットフォームです。包括的なサービススイートにより、すべてのロケーションベースのニーズに向けた強力なソリューションを提供します。

Cisco Spaces また、施設内の資産を監視および管理するためのソリューションも提供します。

次のようなさまざまな業種 (分野) が対象です。

- 小売
- manufacturing
- サービス業
- ヘルスケア

- 教育 (Education)
- 金融サービス
- 企業ワークスペースなど。

## ログイン

Cisco Spaces ユーザーとして、既存のアカウントログイン情報を使用して Cisco Spaces にログインできます。Cisco Spaces にログインするためのドメイン固有の URL は <https://spaces-gov.cisco/> です。

## Cisco Spaces での操作開始

Cisco Spaces の操作を開始する前に、[システム要件 \(1 ページ\)](#) に記載されている [前提条件](#) を満たしていることを確認してください。



- (注) 最初に、Cisco Spaces サポートチームに連絡して Cisco Spaces アカウントを作成する必要があります。電子メールで Cisco Spaces アカウントをアクティブ化するための招待状を受け取ります。[Accept Activate] ボタンをクリックし、表示されるウィンドウでログイン情報を構成し、[Activate Account] をクリックします。現在 Cisco Spaces にログインしています。ダッシュボード管理者であれば、他の Cisco Spaces ユーザーを招待できます。

Cisco Spaces の使用を開始するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** Cisco Spaces にログインします。

- (注)  
Cisco Spaces のシングルサインオンを有効にできます。

**ステップ 2** ワイヤレスネットワークに接続し、Cisco Spaces ダッシュボードの **[Setup]** セクションの手順を参照して、Cisco Spaces のワイヤレスネットワークを設定します。

セットアップ手順は、このガイドの次のセクションでも説明しています。

- **Meraki** : Cisco Meraki ネットワークの設定については、「[Cisco Spaces を使用するための Cisco Meraki の設定](#)」を参照してください。
- **Cisco Unified Wireless Network と Cisco CMX** : Cisco Spaces を Cisco AireOS コントローラに Cisco CMX を介して接続するには、「[Cisco CMX を介して Cisco DNA Spaces をシスコ ワイヤレス コントローラに接続する \(46 ページ\)](#)」を参照してください。

- Cisco AireOS ワイヤレスコントローラまたは Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ (Cisco CMX なし)。

(注)

シスコワイヤレスコントローラの直接接続方式による接続は、小規模な展開でのみ推奨されます。すべての大規模な実稼働展開では、Cisco Spaces : コネクタ が必要です。

- シスコ ワイヤレス コントローラ **Direct Connect** を使用 : Wireless Controller Direct Connect を使用して Cisco Spaces とシスコワイヤレスコントローラを設定するには、「[WLC直接接続またはCisco DNA Spaces コネクタを使用した、Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラまたはシスコワイヤレスコントローラの Cisco DNA Spaces への接続 \(48 ページ\)](#)」セクションを参照してください。

(注)

Cisco Spaces はユニバーサルアカウントを提供しており、Cisco Spaces を複数のワイヤレスネットワークに接続できます。

- ステップ 3** チームメンバーを追加し、ロールと権限を割り当てます。Cisco Spaces ユーザーの追加の詳細については、「[Cisco Spaces ユーザーの管理 \(131 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 4** ワイヤレスネットワークで定義されているロケーション階層を Cisco Spaces にインポートします。ロケーション階層の設定に関する詳細については、「[ロケーション階層の概要](#)」のセクションを参照してください。
- ステップ 5** [Monitor] セクションを使用して、Cisco Spaces ドメインとアプリケーションを監視します。

## オンボードワークフロー

以下の手順に従って、Cisco Spaces にログインします。

### 始める前に

FRMOD オンボーディングプロセスを完了し、FRMOD のログイン情報を用意していることを推奨します。正常なオンボーディングエクスペリエンスを得るには、ドメインを設定して、組織固有のアイデンティティプロバイダー (IDP) を使用します。

### 手順

- ステップ 1** FRMOD オンボーディングプロセスを完了します。
- ステップ 2** IDP を使用し、ドメインを設定します。

たとえば、シスコでは、実稼働オンボーディングには frmod-cisco ドメインが使用され、ステージング環境には fedmod-cisco ドメインが使用されます。

- ステップ3 組織の電子メールアドレスを使用して、Cisco Spaces ダッシュボードおよび管理者管理アクセスへの招待を要求します。
- ステップ4 `frmod-company.com` の電子メールアドレスを使用し、アクティベーション手順を実行します。
- ステップ5 同じ `frmod-company.com` のログイン情報を使用して Cisco Spaces にログインします。

---

次のタスク

## Cisco Spaces : コネクタ 3.0

Cisco Spaces : コネクタ（このドキュメントで以降は単にコネクタと表記）は、シスコワイヤレスコントローラやデータ用のスイッチなどのさまざまなネットワークデバイスに接続する複数のサービスを効率的に管理する機能を備えた完全に再設計されたバージョンのコネクタです。コネクタプラットフォームを使用すると、クラウドに新しいサービスを簡単に追加/削除できます。クラウドからのデバッグ、ログのアップロード、および再起動機能により、高度なトラブルシューティングが可能になります。コネクタは、CPU、メモリ、接続、およびアップ/ダウンステータスを含む各サービスの詳細なメトリックも提供します。

コネクタは Cisco Spaces の次世代コネクタであり、拡張されたユーザーエクスペリエンス、複数のサービスをサポートするアーキテクチャ、シンプルさ、モジュール性、シームレスなアップグレード、およびハイアベイラビリティを提供します。コネクタは、アクティブ/アクティブ高可用性セットアップをサポートします。コネクタ 2.x の以前のリリースとは異なり、高可用性ペアを具体的に設定および監視できます。すべてのサービスとデバイス構成はコネクタレベルで管理されるため、高可用性と簡単にペアリングできます。

コネクタとデバイスのステータスも、各インスタンスからコネクタレベルで集計されるため、簡単に監視できます。コネクタは、高可用性ペアの各インスタンスに完全な可視性を提供します。各インスタンスでのサービスの実行状況、アップグレードステータスなどを表示できます。サービスの再起動など、特定のインスタンスでアクションを実行することもできます。

## Cisco Spaces アイドルタイムアウト

Cisco Spaces ダッシュボードにログインしているユーザーが操作しないでいられるのは一定時間だけです。15分間非アクティブな場合、そのユーザーはダッシュボードから自動的にログアウトされます。アイドルタイムアウトの5分前に通知が表示され、Cisco Spaces アプリケーションが開いているブラウザウィンドウのタイトルが `INACTIVE: You will be logged out in 5 mins` に変わります。対応するウィンドウで実行されたアクションは、ユーザーのセッションを拡張します。


# Cisco Spaces Federal サポートに連絡する

Cisco Spaces Federal サポートに連絡するには、Support Case Manager を使用してケースを作成する必要があります。

サポートケースを作成するには、次の手順に従います。

## 手順

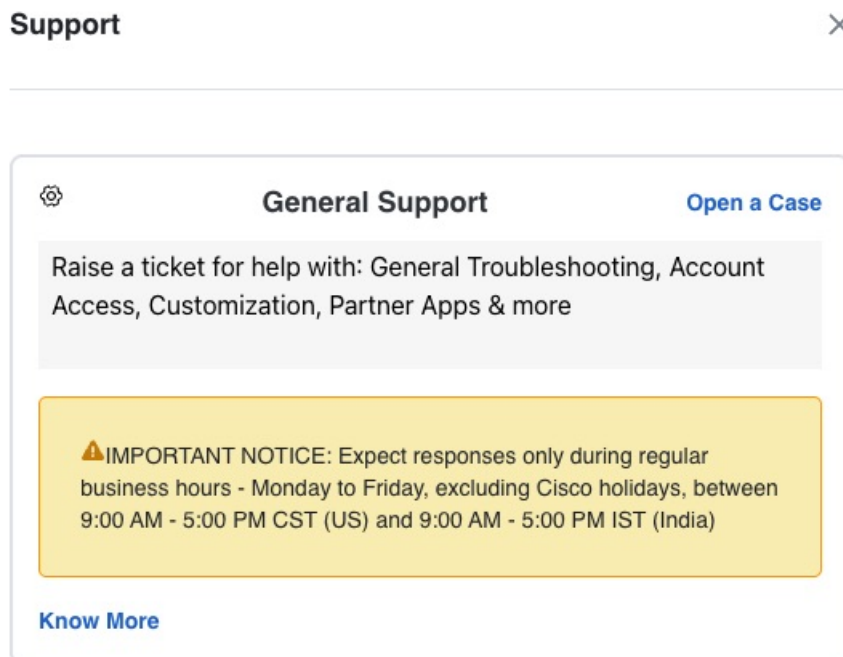
**ステップ 1** Cisco Spaces にログインします。

**ステップ 2** [Home] ページで、右上に表示される  ([Support]) アイコンをクリックします。

**ステップ 3** [Support] をクリックします。[Support] スライドインペインが表示されます。

**ステップ 4** [General Support] セクションで、[Open a Case] をクリックして、SCMを使用してケースを発生させます。

図 1: 一般サポートオプション



# Cisco Spaces マニュアル

Cisco Spaces の右上に表示される **[Cisco Spaces Support]** アイコン (  ) を使用して、設定ガイドやリリースノートを含む Cisco Spaces ダッシュボードのマニュアルにアクセスできます。

次のドキュメントサポートリソースにアクセスしてください。

- ヘルプセンター
- マニュアル
- サポートを受ける
- 最新のリリースノート
- リリースノートの履歴



## 第 **IV** 部

### **Cisco Spaces Home**

- [Cisco Spaces ダッシュボード](#) (37 ページ)
- [Cisco DNA Space](#) におけるシスコワイヤレス コントローラおよび Cisco Catalyst 9800 シリーズ コントローラの設定 (45 ページ)
- [Cisco DNA Spaces](#) を使用するための Cisco Meraki の設定 (53 ページ)





## 第 4 章

# Cisco Spaces ダッシュボード

- [Cisco Spaces ナビゲーション](#) (37 ページ)
- [Cisco Spaces ダッシュボード](#) (39 ページ)
- [Cisco DNA Spaces の機能](#) (40 ページ)
- [ユーザー プロファイル](#) (43 ページ)
- [Cisco Spaces アカウント詳細の表示](#) (44 ページ)

## Cisco Spaces ナビゲーション

Cisco Spaces ダッシュボードにログインすると、**[Home]** ページが表示されます。

すべての Cisco Spaces アプリケーションが Cisco Spaces **[Home]** ページに表示されます。Cisco Spaces のこれらの機能にアクセスするには、左側のナビゲーションペインを活用します。

- ロケーション階層
- 統合
- 設定
- モニター
- 管理者管理
- セットアップ

**[Dashboard]** オプションをクリックして、使用可能なアプリケーションにアクセスできます。

**[Home]** ページの左上に表示される三行メニューアイコンを使用して、左側のナビゲーションペインを展開したり折りたたんだりできます。

ダッシュボードの左上に表示される **Cisco Spaces** ロゴをクリックするか、**[Home]** オプションを使用して、ホームページに移動できます。

新しく改善された Cisco Spaces ダッシュボード - **[Home]** ページでは、ユーザー体験とナビゲーションを強化するための変更が導入されています。アプリケーションは、**[Starter Apps]**、**[Employee Experience]**、**[Space Analytics]** に分類されます。

アプリケーションをお気に入りとしてマークする機能。アプリケーションタイトルに表示される [Add to Favorites] (ハート型のアイコン) をクリックして、お気に入りとして追加します。新しいセクション、[Favorite Apps] には、お気に入りとしてマークされたアプリケーションが表示されます。

アプリケーションタイトルに表示されている情報アイコンをクリックすると、スライドインウィンドウにアプリケーションの概要が表示されます。

図 2: 自宅 (Home)

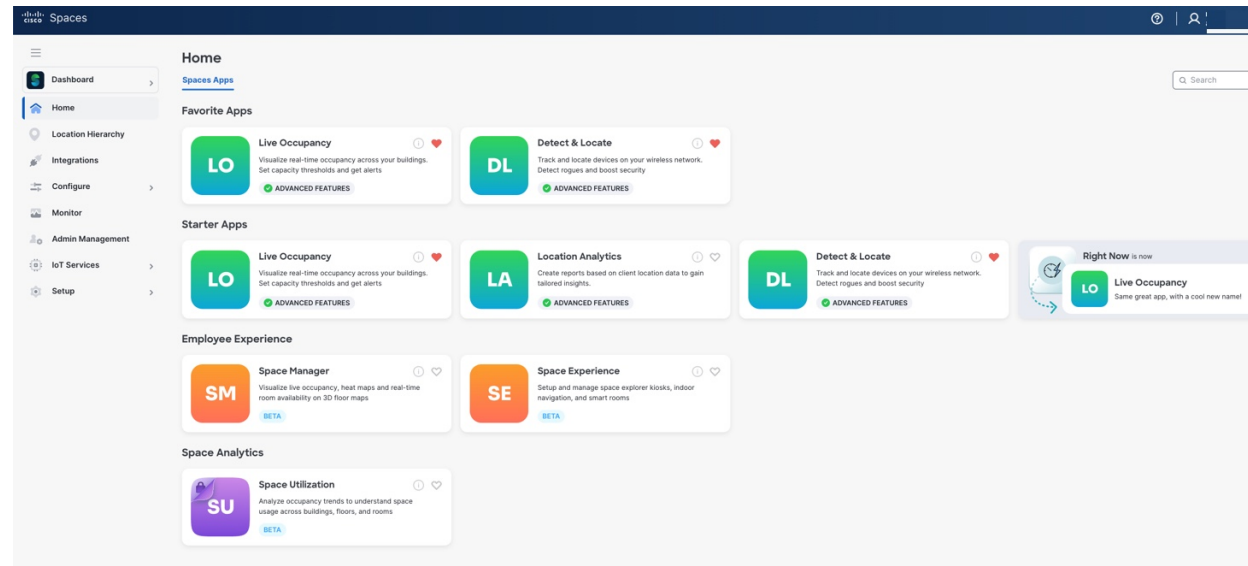
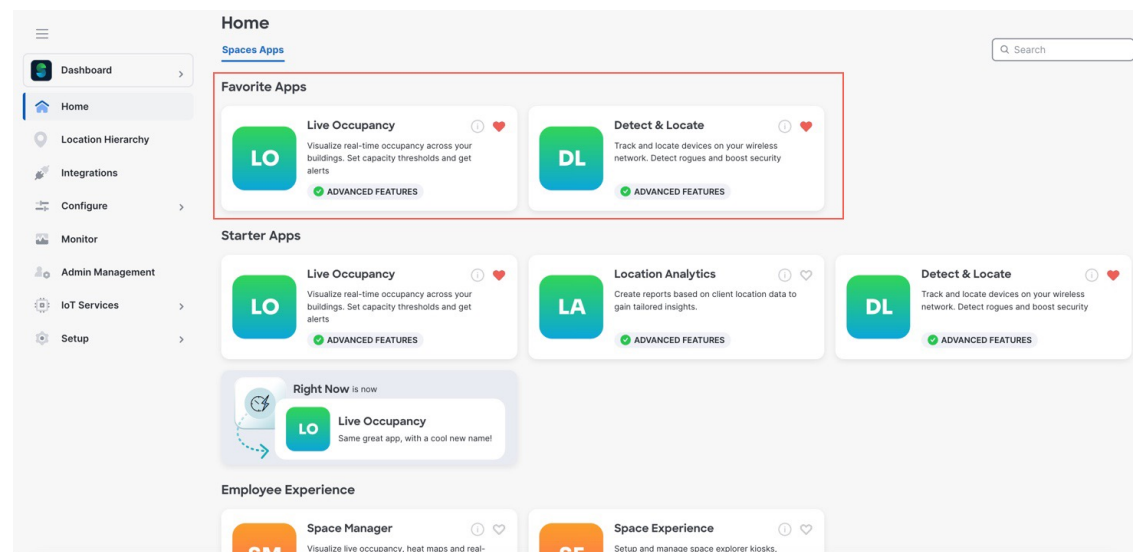


図 3: お気に入りのアプリケーション

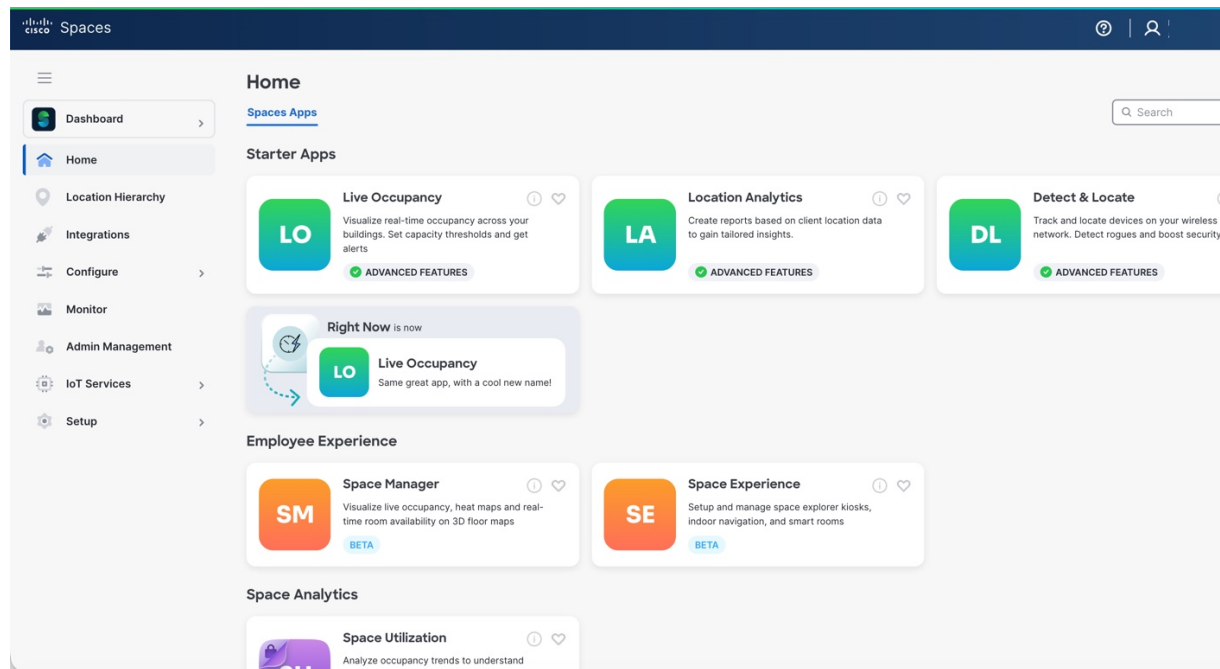


# Cisco Spaces ダッシュボード

Cisco Spaces ダッシュボードは Cisco Spaces アプリケーションのデフォルトのホームページです。Cisco Spaces GUI には、Magnetic 設計の実装が採用されています。Magnetic 設計は、固定されたヘッダーと折りたたみ可能な左側のナビゲーションウィンドウに従います。

Cisco Spaces にログインした後に、次の図に示すように **[Home]** ウィンドウが表示されます。

図 4: Cisco Spaces ホーム



Cisco Spaces **[Home]** ウィンドウには、**[Dashboard]** ドロップダウンリスト（左側のナビゲーションペイン）が含まれており、Cisco Spaces ライセンスごとに利用可能なアプリケーションを検索して表示できます。

**[Dashboard]** ドロップダウンリストを使用して、選択したアプリケーションを選択して移動します。Cisco Spaces **[Home]** ウィンドウに戻るには、ドロップダウンリストから **[Dashboard]** オプションを選択します。

ダッシュボードには、次の主要な領域があります。メニューバー、情報アイコン、プロフィールアイコン、およびサブスクリプションに応じて利用可能なさまざまなアプリケーション。

## 左側のナビゲーションペイン



これらの機能にアクセスするには、左側のナビゲーションペインを使用します。

- 自宅 (Home)
- ロケーション階層

- 統合
- 設定 (Configure)
- モニター
- 管理者管理
- IoT サービス
- 設定

### アイコン

一般的なタスクを実行するには、メニューバーの右側にあるアイコンをクリックします。

アイコン	説明
	[Support] : ヘルプセンター、サポート、およびドキュメントのリンクを表示します。
	User Profile : アカウントおよびログアウトオプションを表示します。ライセンス情報は、 <b>[My Account &gt; License Info &gt; License Units Consumed]</b> で確認できます。 詳細については、 <a href="#">ユーザープロファイル (43 ページ)</a> を参照してください。

## Cisco DNA Spaces の機能

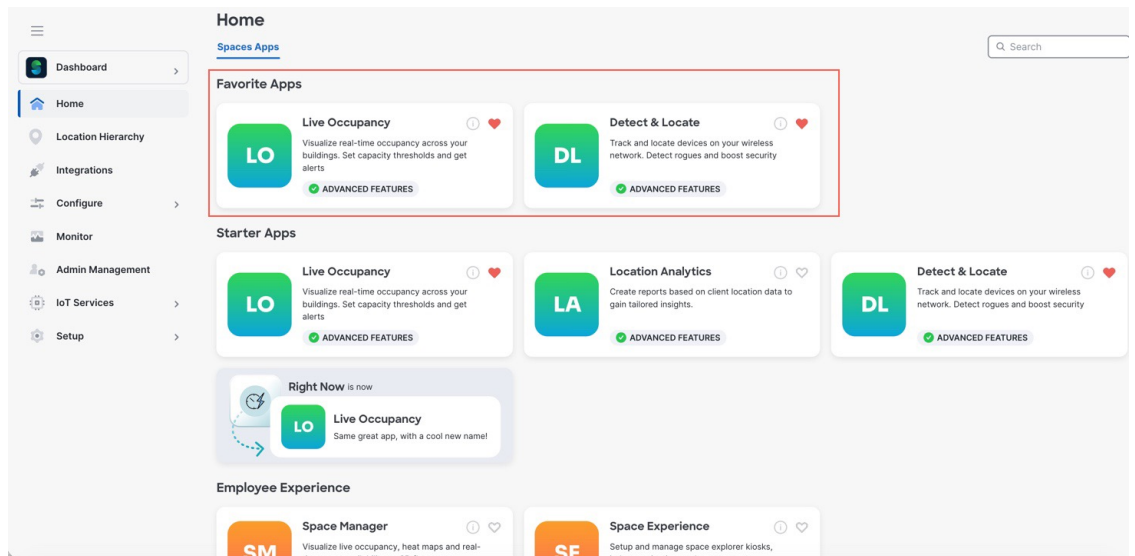
Cisco DNA Spaces ダッシュボードの主な機能は次のとおりです。

### Cisco Spaces アプリケーション

Cisco Spaces **[Home]** ページでは、使用可能なすべてのアプリケーションを表示できます。左側のナビゲーション ウィンドウで、**[Dashboard]** をクリックします。

**[Home]** ページでは、アプリケーションがユースケース別にグループ化されています。**[Search]** フィールドを使用して、アプリケーションや機能を検索します。

図 5: 機能

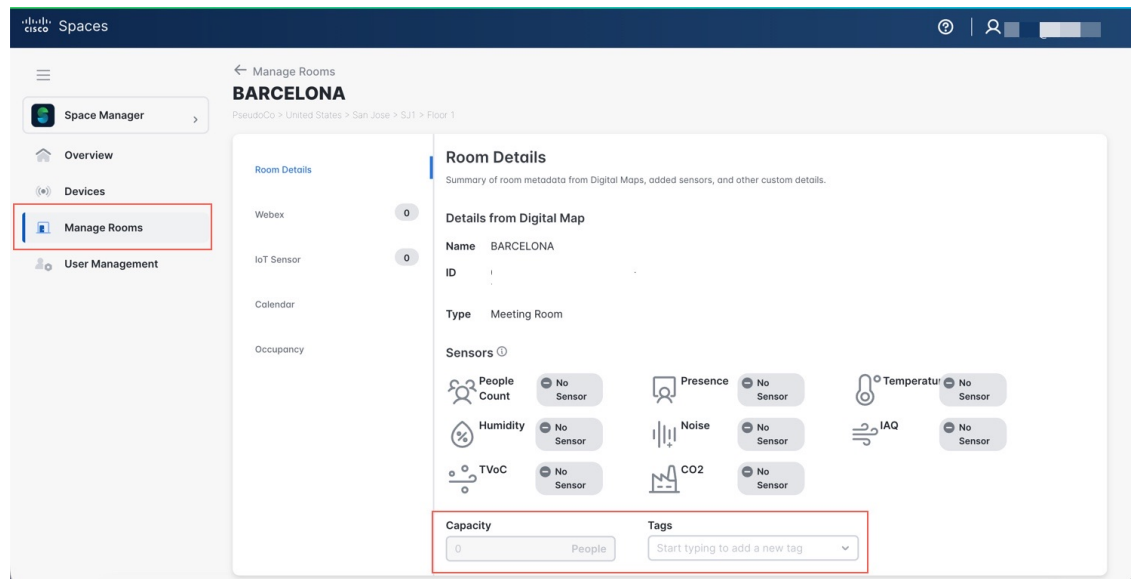


(注) **Right Now** は **Live Occupancy** アプリケーションに変更されました。

### Space Manager アプリケーション

**Space Manager** アプリケーションで、**[Space Management]** タブの名前が **[Manage Rooms]** に変更されます。すべての機能は同じままです。新しい **[Export]** 機能を使用して、部屋の詳細を CSV ファイルとしてダウンロードできます。選択した部屋について、**[Capacity]** および **[Tag]** のメタデータを部屋の詳細に追加して、追加情報を確認できます。これらの変更は、部屋をより効率的に管理できるように設計されています。

図 6: 部屋の管理



## ロケーション階層

**[Location Hierarchy]** オプションを使用して、Cisco Spaces でビジネスロケーションを定義できます。ワイヤレスネットワークでロケーションが定義されている構造と同じ構造でロケーションをインポートできます。

## 統合

**[Integrations]** 機能を使用すると、Catalyst Center、Office 365、Google カレンダーなど、さまざまなシスコおよびサードパーティアプリケーションと Cisco Spaces を統合できます。この統合により、占有率、スペースの使用状況、およびアクセスデータの共有が可能になり、会議室の予約が同期されます。これにより、Spaces 展開の価値と効率を最大化できます。

## 設定 (Configure)

**[Configure]** 機能オプションを使用すると、Cisco Spaces での **[Notifications]** を設定できます。

## モニター

**[Monitor]** 機能では、Cisco Spaces とそのアプリケーションのパフォーマンスステータスを監視できます。また、アプリの遅延と異常も表示されます。

## 管理者管理

[Admin Management] 機能を使用すると、Cisco Spaces ユーザーを作成できます。各ユーザーの権限をロールに基づいて制限できます。

## 設定

### 無線ネットワーク

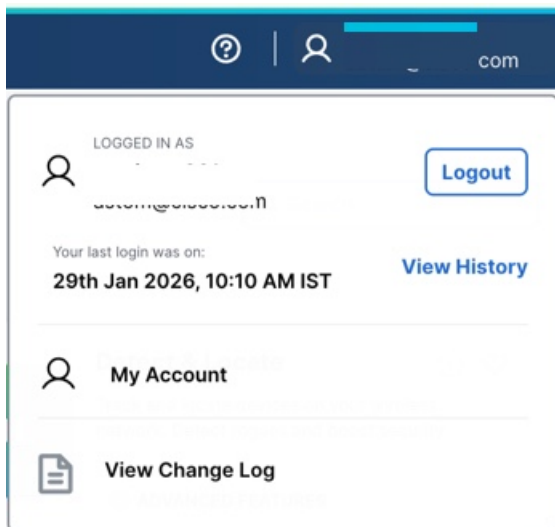
#### ワイヤレス ネットワーク

さまざまな方法で Cisco Spaces を特定のワイヤレスネットワークに接続するための機能と手順を表示します。詳細については、「さまざまなワイヤレスネットワークで動作する Cisco Spaces の設定」を参照してください。

## ユーザー プロファイル

Cisco Spaces ダッシュボードの右上にある [User Profile] オプション (  ) は、アカウントおよびログアウトのオプションを表示するのに役立ちます。

図 7: ユーザー プロファイル



前回のログインとタイムスタンプの詳細を表示できます。[View History] をクリックして、最近および失敗したログイン試行を表示します。

ユーザープロフィール機能には次のオプションがあります。

- [My Account] : クリックして、[My Account] ウィンドウを表示します。詳細については、[Cisco Spaces アカウント詳細の表示 \(44 ページ\)](#) を参照してください。

- **[View Change Log]** : クリックすると、特定のアカウントの全ユーザーに関するアクティビティの詳細を表示する **[Change Log]** タブが **[My Account]** ウィンドウで開きます。詳細については、[Cisco Spaces アカウント詳細の表示 \(44 ページ\)](#) を参照してください。

## Cisco Spaces アカウント詳細の表示

**[My Account]** ウィンドウを使用して、Cisco Spaces プロファイルの詳細、アカウントアクティビティ、およびその他のアカウント関連情報を表示します。**[My Account]** ウィンドウには、次のタブがあります。

- **[My Profile]** : 名、姓、電子メール、携帯電話番号などの基本的なプロファイル情報を表示します。
- **[Account Activity]** : アカウントアクティビティが失敗した IP アドレス、日付、ブラウザなど、失敗したアカウントアクティビティの詳細を表示します。
- **[Preferences]** : このタブには、次のオプションが含まれています。
  - **[Add new domain]** : クリックして、SSO 認証用の新しいドメインを追加します。
  - **[Enable Support Access]** : このオプションをクリックして、Cisco Spaces サポートチームに対してアカウントへのアクセスを有効または無効にすることができます。このオプションを有効にすると、Cisco Spaces サポートチームが例外的な状況で問題を検出してデバッグするために役立ちます。



- (注)
- デフォルトでは、**[Enable Support Access]** オプションが有効になっています。
  - アクセスが有効になると、Cisco Spaces サポートチームは顧客の Cisco Spaces アカウントにアクセスできるようになります。

- **[Change Log]** : ユーザーアクティビティ、時間、アプリケーション、セクション、ユーザーなど、変更ログの詳細を表示します。ログの詳細をフィルタ処理するには、**[Filter]** オプションをクリックします。

Cisco Spaces の新しい UI では、**[View Change Log]** 機能 (**[Home > Profile]**) を使用して、**[Location & Maps]** アプリケーションと **[Space Utilization App]** の監査証跡アクティビティを追跡します。



## 第 5 章

# Cisco DNA Space におけるシスコ ワイヤレス コントローラおよび Cisco Catalyst 9800 シリーズ コントローラの設定

この章では、Cisco DNA Spaces で動作するシスコ ワイヤレス コントローラ（Cisco AireOS）または Cisco Catalyst 9800 シリーズ コントローラで行う設定について説明します。必要な設定は、使用するワイヤレスコントローラのタイプとコネクタによって異なります。



- (注)
- ハイパーロケーションを備えたシスコ ワイヤレス コントローラを Cisco DNA Spaces と Cisco CMX に同時に接続することはできません。
  - シスコ ワイヤレス コントローラを Cisco CMX と Cisco DNA Spaces の両方に同時に接続する場合は、Cisco DNA Spaces コネクタを使用する必要があります。シスコ ワイヤレス コントローラがサポートできる NMSP 接続数の制限を確認し、シスコ ワイヤレス コントローラが Cisco DNA Spaces コネクタへの新しい接続の追加をサポートできることを確認します（特に、複数の Cisco CMX サーバーへの既存の接続がある場合）。
  - シスコ ワイヤレス コントローラを Cisco WLC Direct Connect と Cisco DNA Spaces コネクタの両方に同時に接続することはできません。Cisco DNA Spaces コネクタを使用する前に、Cisco WLC Direct Connect を無効にします。
  - 特に古いバージョンのシスコ ワイヤレス コントローラを使用している場合は、Cisco WLC Direct Connect ではなく Cisco DNA Spaces コネクタを使用することをお勧めします。また、Operation Insights、Detect and Locate などの特定のアプリは、Cisco DNA Spaces コネクタによってのみサポートされます。
  - ワイヤレスネットワークに表示されるデータを Cisco DNA Spaces レポートに表示されるデータと比較することは推奨されません。これは設計上、遅延することが予想されるためです。



- (注) 設定は Cisco DNA Spaces の一部ではない外部アプリケーションで行うため、このマニュアル内のメニューパス、タブやウィンドウ、オプションなどに指定する名前が変わる場合があります。

さまざまなコネクタタイプでサポートされる機能、およびワイヤレスコントローラとコネクタのさまざまな組み合わせの設定は次のとおりです。

- [Cisco CMX を介して Cisco DNA Spaces をシスコ ワイヤレス コントローラに接続する \(46 ページ\)](#)
- [WLC 直接接続または Cisco DNA Spaces コネクタを使用した、Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラまたはシスコ ワイヤレス コントローラの Cisco DNA Spaces への接続 \(48 ページ\)](#)
- [Cisco DNA Spaces 拡張ベンチマーク \(52 ページ\)](#)

## Cisco CMX を介して Cisco DNA Spaces をシスコ ワイヤレス コントローラに接続する

Cisco CMX を介して Cisco DNA Spaces をシスコ ワイヤレス コントローラに接続するには、Cisco CMX 10.6 以降が必要です。

Cisco CMX を使用している Cisco Unified Wireless Network の場合、Cisco DNA Spaces と連携するには、次の構成が必要です。



- (注) ・インターネットプロビジョニングと RADIUS 認証の構成は、RADIUS 認証が必要な場合にのみ必要です。この構成は、ポータルにソーシャル認証が必要な場合にのみ必要です。

## ソーシャル認証のためのシスコ ワイヤレス コントローラの設定

Cisco Unified Wireless Network へのソーシャル認証のためには、シスコ ワイヤレス コントローラに設定を行う必要があります。

ソーシャル認証のために Cisco Unified Wireless Network を設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** ログイン情報を使用して、シスコ ワイヤレス コントローラにログインします。

**ステップ 2** [Security > Access Control Lists > Access Control Lists] を選択します。

**ステップ 3** 表示される **[Access Control List]** ウィンドウで、Cisco Spaces のために設定されたアクセス制御リストをクリックします。

[Add New Rule] をクリックし、次の情報を持つ 2 つの追加ルールを追加します。

いいえ	アクション	送信元 IP アドレス/ネットマスク	宛先 IP アドレス/ネットマスク	プロトコル	送信元ポート範囲	宛先ポート範囲	DSCP	方向
1	許可	0.0.0.0/0.0.0.0	0.0.0.0/0.0.0.0	TCP	HTTPS	任意	任意	任意
2	許可	0.0.0.0/0.0.0.0	0.0.0.0/0.0.0.0	TCP	任意	HTTPS	任意	任意

(注)

ソーシャル認証用に設定構成されたこのウォールガーデン範囲により、顧客は SSID に接続した後、キャプティブポータルを使用せずに、すべての HTTPS Web サイトに直接アクセスできます。

**ステップ 4** 認証に使用するソーシャルネットワークに基づき、ソーシャルプラットフォーム固有のドメインを ACL として追加します。ソーシャルドメインを ACL として追加するには、次の手順を実行します。

- シスコ ワイヤレス コントローラ ダッシュボードで、**[Security > Access Control Lists]** を選択します。
- Cisco Spaces 用に設定されたアクセス制御リストの **[More Actions]** をクリックします。
- [Add Remove URL]** をクリックします。
- ソーシャル URL 名を入力し、**[Add]** をクリックします。
- ドメインごとに、手順 **c** と **d** を繰り返します。

(注)

これらのドメイン名はソーシャルネットワークによって管理され、いつでも変更できます。また、これらのドメイン名は、国/地域によって変更される可能性があります。問題が発生した場合は、Cisco Spaces サポートチームにお問い合わせください。

さまざまなソーシャルプラットフォームで一般的に使用されるドメイン名は次のとおりです。

#### Facebook

- facebook.com
- static.xx.fbcdn.net
- www.gstatic.com
- m.facebook.com
- fbcdn.net
- fbsbx.com

#### LinkedIn

- www.linkedin.com
- static-exp1.licdn.com

#### Twitter

- [abs.twimg.com](https://abs.twimg.com)
- [syndication.twitter.com](https://syndication.twitter.com)
- [twitter.com](https://twitter.com)
- [analytics.twitter.com](https://analytics.twitter.com)

---

## WLC 直接接続または Cisco DNA Spaces コネクタを使用した、Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラまたはシスコ ワイヤレス コントローラの Cisco DNA Spaces への接続

Cisco 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラまたはシスコ ワイヤレス コントローラ (CMX なし) から Cisco DNA Spaces にロケーションをインポートするには、最初にいずれかのコネクタを介してコントローラを Cisco DNA Spaces に接続する必要があります。

[Cisco WLC Direct Connect] と [Cisco DNA Spaces Connector] の両コネクタは、シスコ ワイヤレス コントローラと Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラの両方に使用できます。



- (注)
- シスコワイヤレスコントローラを Cisco CMX と Cisco DNA Spaces の両方に同時に接続する場合は、Cisco DNA Spaces コネクタを使用する必要があります。ただし、1つのコントローラを Cisco DNA Spaces と Cisco CMX の両方に同時に接続することは推奨しません。
  - 行動メトリクスなどの Cisco DNA Spaces レポートに表示されるデータを、シスコワイヤレスコントローラまたは Cisco CMX に表示されるデータと比較しないようにお勧めします。設計によって表示されるデータが異なることが予想されるためです。
  - コントローラを Cisco DNA Spaces にインポートするには、少なくとも1つの AP がその特定のコントローラに接続されていることを確認してください。
  - コントローラで、新しい AP がコントローラに追加されると、追加された AP は次のコントローラ同期の際に自動的にインポートされます。インポートされた AP がコントローラから削除された場合、この変更は 48 時間経過しないと Cisco DNA Spaces に反映されません。ただし、更新されない AP は、更新が他の AP から送信されている場合にのみ 48 時間後に削除されます。たとえば、10 の AP が設定されていて、2 つの AP がコントローラから削除された場合、削除された 2 つの AP は、他の 8 つの AP から更新が受信された場合にのみ Cisco DNA Spaces から削除されます。
  - AP がコントローラとの関連付けを解除された場合、Cisco DNA Spaces からすぐに削除されて AP 数に反映されることはありません。その AP は、48 時間経過しないと Cisco DNA Spaces から削除されません。

ワイヤレスコントローラとコネクタのさまざまな組み合わせに必要な設定は次のとおりです。

## Cisco WLC Direct Connect を使用して Cisco Spaces をシスコワイヤレスコントローラに接続する

シスコワイヤレスコントローラバージョン 8.3 以降（Cisco CMX のインストールなし）を Cisco Spaces に接続し、シスコワイヤレスコントローラとそのアクセスポイントを Cisco Spaces にインポートするには、次の手順を実行します。

### 始める前に

- シスコワイヤレスコントローラバージョン 8.3 以降が必要です。
- シスコワイヤレスコントローラを Cisco Spaces にインポートするには、少なくとも1つの AP がその特定のシスコワイヤレスコントローラに接続されていることを確認してください。
- シスコワイヤレスコントローラは、HTTPS で Cisco Spaces クラウドに到達する必要があります。
- シスコワイヤレスコントローラはインターネットに接続する必要があります。

- Cisco Spaces をアンカーモードで使用するには、アンカーコントローラモードと外部コントローラモードの両方でシスコ ワイヤレス コントローラをネットワーク展開する必要があります。ネットワーク展開にアンカーコントローラモードと外部コントローラモードのシスコ ワイヤレス コントローラが含まれている場合、このセクションで説明するコマンドを使用して、両方のコントローラで Cisco WLC Direct Connect を有効にする必要があります。さらに、どちらのモードのシスコ ワイヤレス コントローラも、HTTPS で Cisco Spaces クラウドに到達できる必要があります。ただし、Cisco Spaces は、アンカーモードのシスコ ワイヤレス コントローラ バージョン 8.3.102 をサポートしていません。
- Cisco WLC Direct Connect を使用して Cisco AireOS ワイヤレス コントローラ バージョン 8.3 以降を Cisco Spaces に正常に接続するには、DigiCert CA が発行するルート証明書が必要です。ネットワーク展開にアンカーコントローラモードと外部コントローラモードのシスコ ワイヤレス コントローラが含まれている場合、両方のモードのシスコ ワイヤレス コントローラに証明書をインポートする必要があります。

## 手順

### ステップ 1 DigiCert CA ルート証明書をインポートします。

- 次のリンクからルート証明書をダウンロードします。

<https://cacerts.digicert.com/DigiCertGlobalRootCA.crt.pem>

- ルート証明書の内容を .cer 拡張子のファイルにコピーし、ファイルを {your\_filename}.cer として保存します。
- {your\_filename}.cer ファイルを TFTP サーバー上のデフォルトディレクトリにコピーします。
- シスコ ワイヤレス コントローラの CLI にログインし、次のコマンドを実行します。

```
transfer download datatype cmx-serv-ca-cert
transfer download mode tftp
transfer download filename {your_filename}.cer
transfer download serverip {your_tftp_server_ip}
transfer download start
```

- Y を入力してアップロードを開始します。
- 新しいルート証明書が正常にアップロードされたら、次のコマンドを実行して Cisco CMX クラウドサービスを無効にし、その後で有効にします。

```
config cloud-services cmx disable
config cloud-services cmx enable
```

#### (注)

ルート証明書をアップロードした後、シスコ ワイヤレス コントローラの再起動が求められます。再起動をお勧めしますが、必須ではありません。いずれの場合も証明書がインストールされます。

DigiCert CA の発行ではないルート証明書を使用してワイヤレスコントローラを Cisco Spaces に接続しようとすると、次のエラーが発生します。

```
https:SSL certificate problem: unable to get local issuer certificate
```

### ステップ 2 シスコ ワイヤレス コントローラの CLI モードで、次のコマンドを実行します。

```

config cloud-services cmx disable
config cloud-services server url https://{Customer Path Key}.{LB Domain} {LB IP Address}
config cloud-services server id-token <Customer JWT Token>
config network dns serverip <dns server ip>
config cloud-services cmx enable

```

(注)

{Customer Path Key}、{LB Domain}、{LB IP Address}、および {Customer JWT Token} を表示するには、Cisco Spaces ダッシュボードにログインし、ダッシュボードの左上に表示される 3 本線のメニューアイコンをクリックします。[Setup]>[Wireless Networks]の順に選択します。次に、[Connect WLC/Catalyst 9800 Directly]を展開し、[View Token]をクリックします。[WLC] タブをクリックすると、ステップ 1b で {Customer Path Key}、{LB Domain}、および {LB IP Address} を、ステップ 1c で {Customer JWT Token} を表示できます。

**ステップ 3** 次のコマンドを使用して、概要を確認します。

```
show cloud-services cmx summary
```

結果が表示されます。

Cisco Spaces ダッシュボードで、[Add a Wireless Network] ウィンドウの [CUWN-WLC] を選択すると、WLC が一覧表示されます。これにより、その WLC の AP を Cisco Spaces にインポートできます。

例：

#### 結果サンプル

```

(Cisco Controller) >show cloud-services cmx summary

CMX Service
Server ..... https://$customerpathkey.spaces-gov.cisco
IP Address..... <Local System IP Address>
Connectivity..... https: UP
Service Status ..... アクティブ
Last Request Status..... HTTP/1.1 200 OK
Heartbeat Status ..... OK

```

これで、シスコワイヤレスコントローラを Cisco Spaces ロケーション階層にインポートできるようになりました。マップサービスまたはアクセスポイントプレフィックスを使用してロケーションをインポートできます。

## 通知およびレポート用のシスコワイヤレスコントローラ（Cisco CMX なし）の設定

Cisco CMX を使用しない場合、[WLC Direct Connect] および Cisco Spaces [Connector] といったコネクタを使用して、シスコワイヤレスコントローラを Cisco Spaces に接続できます。このような場合、通知とレポートに必要な設定は、シスコワイヤレスコントローラをインポートするときに自動的に行われます。



(注) Cisco Spaces を [WLC Direct Connect] または Cisco Spaces [Connector] と共に使用している場合、コントローラは [Foreign controller] モードである必要があります。

## Cisco DNA Spaces 拡張ベンチマーク

表 5: 拡張の概要

SNO	Cisco DNA Spaces コネクタ	Cisco WLC Direct Connect		CMX テザリング コネクタ
プラットフォーム	Cisco AireOS	Cisco AireOS	Cisco Catalyst 9800 シリーズ	Cisco AireOS
サポートされている アプライアンス での最大拡張	12500 台の AP、 250000 台のクラ イアント  着信 NMSP は、 10500 メッセージ/ 秒を超えることは できません。	50 台の AP と 50 台のクライアン ト	50 台の AP と 50 台のクライアント	60000 台のクライ アント、5000 台 の AP、50000 個の RFID タグ  1 ビルディング - 100 フロアと各フ ロアに 50 台の AP のマップ
拡張がサポートさ れているリリース	コネクタバージョ ン 2.1.1 と docker v2.0.204	8.8MR2	16.12、17.1	8.8MR2 と CMX 10.6 (ハイエン ド)



(注) 現在、Mobility Express は拡張に対応していません。



## 第 6 章

# Cisco DNA Spaces を使用するための Cisco Meraki の設定

この章では、Cisco DNA Spaces を使用するために Cisco Meraki に必要な設定について説明します。

- Cisco Meraki での SSID の有効化 (53 ページ)
- RADIUS 認証用の Cisco Meraki の設定 (54 ページ)
- 通知およびレポート用 Cisco Meraki の設定 (56 ページ)
- ソーシャル認証のための Cisco Meraki の設定 (57 ページ)
- Cisco Meraki の SSID の手動設定 (58 ページ)
- Cisco Meraki でのスキャン API の設定 (59 ページ)
- Bluetooth Low Energy デバイスサポート (60 ページ)

## Cisco Meraki での SSID の有効化

SSID をキャプティブポータルルール用に設定するために Cisco DNA Spaces にインポートするには、それらの SSID を Cisco Meraki で有効にする必要があります。



(注) Cisco Meraki は Cisco DNA Spaces に含まれていないため、メニューパスおよびメニュー名は変更される場合があります。

Cisco Meraki で SSID を有効にするには、次の手順を実行します。

### 手順

ステップ 1 <https://meraki.cisco.com> に移動します。

ステップ 2 Cisco Meraki アカウントのログイン情報を使用してアプリケーションにログインします。

- ステップ3 SSID を有効にする必要のある [Cisco Meraki Organization] をクリックし、必要なネットワークを選択します。
- ステップ4 [Wireless] > [Configure] > [SSIDs] の順に選択します。  
ネットワークで使用可能な SSID が表示されます。
- ステップ5 SSID の名前を変更して有効にします。
- ステップ6 [Edit Settings] をクリックし、[Splash] ページオプションで [Click-Through] オプションボタンをクリックします。
- ステップ7 [Save Changes] をクリックします。  
SSID が Cisco Meraki で正常に有効化されました。

## RADIUS 認証用の Cisco Meraki の設定

ポータルにより多くのセキュリティを提供するために、Cisco DNA Spaces はポータルに RADIUS 認証を提供します。また、キャプティブポータルルールを使用して設定できるシームレスなインターネットプロビジョニングを管理するには、Cisco Meraki で特定の設定が必要です。

シームレスなインターネットプロビジョニングを設定するときに必要な Radius サーバー設定は、標準の Radius サーバー設定とは異なります。

## RADIUS 認証用の Cisco Meraki の設定（シームレスなインターネット設定なし）

RADIUS 認証用に Cisco Meraki を設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ1 Meraki のログイン情報で Cisco Meraki にログインします。
- ステップ2 [Wireless Access Control] を選択します。
- ステップ3 キャプティブポータルルールの SSID を選択します。
- ステップ4 [Association requirements] エリアで、[Open] を選択します。
- ステップ5 [Splash page] エリアで [Sign-on with] を選択し、ドロップダウンリストから [my RADIUS server] を選択します。
- ステップ6 [Radius servers] エリアで [Add a server] をクリックし、表示されたフィールドに認証のための RADIUS サーバーの詳細を指定します。

- ポート : 1812

(注)

Cisco DNA Spaces RADIUS サーバーのみを設定できます。RADIUS サーバーの IP アドレスと秘密鍵を表示するには、Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[SSIDs] ページの Meraki SSID の [Configure Manually] リンクをクリックします。

**ステップ 7** [Radius accounting] ドロップダウンリストから、[Radius Accounting is enabled] を選択します。

(注)

キャプティブポータルでは、RADIUS アカウンティングの有効化は必須ではありません。アカウンティングの該当するユースケースは、OpenRoaming と認可変更 (CoA) です。

**ステップ 8** [Radius accounting servers] エリアで、[Add a server] をクリックし、表示されたフィールドにアカウンティングのための RADIUS サーバーの詳細を指定します。

- ポート : 1813

(注)

Cisco DNA Spaces の Radius サーバーのみを設定できます。Cisco DNA Spaces RADIUS サーバーのみを設定できます。RADIUS サーバーの IP アドレスと秘密鍵を表示するには、Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[SSIDs] ページの Meraki SSID の [Configure Manually] リンクをクリックします。

**ステップ 9** ウォールド ガーデンの範囲を設定します。ウォール ガーデンの範囲を表示するには、Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、SSID ページの Meraki SSID の [Configure Manually] リンクをクリックします。

**ステップ 10** 変更内容を保存します。

---

## RADIUS 認証およびシームレスなインターネット プロビジョニングのための Cisco Meraki の設定

Radius 認証およびシームレスなインターネット プロビジョニング向けに Cisco Meraki を設定するには、Cisco Meraki で次の設定を行います。

### 手順

---

**ステップ 1** Meraki のログイン情報で Cisco Meraki にログインします。

**ステップ 2** [Wireless] > [Access] > [Control] の順に選択します。

**ステップ 3** キャプティブポータルルールの SSID を選択します。

**ステップ 4** [Association requirements] 領域で、[Mac-based access control (no encryption)] を選択します。

**ステップ 5** [Splash] ページ領域で、[Click-through] を選択します。

**ステップ 6** [Radius servers] エリアで [Add a server] をクリックし、表示されたフィールドに認証のための RADIUS サーバーの詳細を指定します。

- ポート : 1812

(注)

Cisco DNA Spaces の Radius サーバーのみを設定できます。RADIUS サーバーの IP アドレスと秘密鍵を表示するには、Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[SSIDs] ページの Meraki SSID の [Configure Manually] リンクをクリックします。

**ステップ 7** [Radius accounting] ドロップダウンリストから、[Radius Accounting is enabled] を選択します。

(注)

キャプティブポータルでは、RADIUS アカウンティングの有効化は必須ではありません。アカウンティングの該当するユースケースは、OpenRoaming と認可変更 (CoA) です。

**ステップ 8** [Radius accounting servers] エリアで、[Add a server] をクリックし、表示されたフィールドにアカウンティングのための RADIUS サーバーの詳細を指定します。

- ポート : 1813

(注)

Cisco DNA Spaces RADIUS サーバーのみを設定できます。RADIUS サーバーの IP アドレスと秘密鍵を表示するには、Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[SSIDs] ページの Meraki SSID の [Configure Manually] リンクをクリックします。

**ステップ 9** [Radius attribute specifying group policy name] ドロップダウンリストから、[Filter-Id] を選択します。

**ステップ 10** 変更内容を保存します。

**ステップ 11** Cisco Meraki ダッシュボードで、[Network-wide Group Policies] をクリックします。

**ステップ 12** [Add a Group] をクリックします。

**ステップ 13** 表示される [New group] ウィンドウに、グループの名前を入力します。

(注)

Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、この名前をポリシー名として設定する必要があります。グループ名を「CaptiveBypass」と指定する場合、このポリシー名はすべてのキャプティブポータルルールのデフォルトのポリシー名として機能します。つまり、[Seamlessly Internet Provision] が選択されるキャプティブポータルルールに対してポリシー名を指定しない場合、ポリシー名「CaptiveBypass」がこのルールに対して適用されます。

**ステップ 14** [Bandwidth] ドロップダウンリストから必要なオプションを選択し、顧客にプロビジョニングするインターネットの帯域幅を指定します。

**ステップ 15** [Splash] ドロップダウンリストから [Bypass] を選択します。

**ステップ 16** [Apply] をクリックします。

**ステップ 17** ウォールド ガーデンの範囲を設定します。ウォールド ガーデンの範囲を表示するには、Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、SSID ページの Meraki SSID の [Configure Manually] リンクをクリックします。

## 通知およびレポート用 Cisco Meraki の設定

Cisco DNA Spaces を使用して通知を送信し、Cisco DNA Spaces レポートを表示するには、Cisco Meraki で特定の設定を行う必要があります。



- (注) Meraki ネットワークロケーションをロケーション階層にインポートすると、通知 URL が Cisco Meraki で自動的に設定されます。このサポートは、Meraki API キーを使用して追加された Meraki ネットワークには適用されません。

Cisco DNA Spaces を使用して通知を送信する、または Cisco DNA Spaces のレポートを表示するために Cisco Meraki を手動で設定するには、次の手順を実行します。

#### 手順

**ステップ 1** Cisco Meraki アカウントのログイン情報を使用して Meraki にログインします。

**ステップ 2** SSID を有効にする必要のある組織をクリックし、必要なネットワークを選択します。

**ステップ 3** **[Network-wide] > [Configure] > [General]** の順に選択します。

**ステップ 4** [CMX] 領域で、次の手順を実行します。

- [Analytics] ドロップダウンリストから、[Analytics is enabled] を選択します。
- [Scanning API] ドロップダウンリストから、[Scanning API enabled] を選択します。
- [Add a Post URL] をクリックし、それぞれのフィールドに POST URL の詳細を入力します。

投稿 URL の詳細を表示するには、Cisco DNA Spaces ダッシュボードで、[SSIDs] ウィンドウの Meraki SSID の [Configure Manually] リンクをクリックします。

**ステップ 5** [Save Changes] をクリックします。

## ソーシャル認証のための Cisco Meraki の設定

Cisco Meraki でソーシャル認証を行うには、meraki.cisco.com に一定の設定をする必要があります。

ソーシャル認証のために Cisco Meraki を設定するには、次の手順を実行します。

#### 手順

**ステップ 1** Cisco Meraki ダッシュボードで、**[Wireless > Configure > Access Control]** の順に選択します。

[Access Control] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** [SSID] ドロップダウンリストから、ソーシャル認証を設定する SSID を選択します。

**ステップ 3** **[Wall Garden Ranges]** フィールドに、次の表にリストされているソーシャルネットワークのドメイン名を入力し、**[Save Changes]** をクリックします。

Cisco Meraki のソーシャル認証が正常に設定されます。

表 6: ソーシャル ネットワークのドメイン名

Facebook	Twitter	LinkedIn
*.facebook.com	*.twitter.com	*.linkedin.com
*.fbcdn.net	*.twimg.com	*.licdn.net
*.akamaihd.net		*.licdn.com
*.connect.facebook.net		

## Cisco Meraki の SSID の手動設定

Meraki で SSID を手動設定するには、まずその SSID を Cisco DNA Spaces にインポートする必要があります。詳細については、「Cisco Meraki の SSID のインポート」のセクションを参照してください。

Meraki で SSID を手動設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1 Cisco Meraki アカウントのログイン情報を使用して Meraki にログインします。
- ステップ 2 それぞれのドロップダウンリストから必要な Meraki 組織およびネットワークを選択します。
- ステップ 3 **[Wireless]** > **[Access Control]** の順に選択します。
- ステップ 4 **[SSID]** ドロップダウンリストから、Cisco DNA Spaces に設定する SSID を選択します。
- ステップ 5 **[splash]** ページ領域で、**[Click-through]** を選択します。
- ステップ 6 **[Wall garden]** ドロップダウンリストから、**[Wall garden is enabled]** を選択します。
- ステップ 7 **[Wall garden ranges]** テキストフィールドに、必要なウォールガーデンの範囲を入力します。  
ウォールガーデンの範囲を表示するには、Cisco Spaces ダッシュボードで、**[SSIDs]** ウィンドウにある Meraki SSID の **[Configure Manually]** リンクをクリックします。
- ステップ 8 **[Save Changes]** をクリックします。
- ステップ 9 **[Wireless]** > **[Splash page]** を選択します。
- ステップ 10 以前に指定された SSID に対しては、**[Custom Splash URL]** エリアで、**[Or provide a URL where customers will be redirected]** を選択するか、隣接するフィールドにスプラッシュ URL を入力します。  
Meraki SSID のスプラッシュページ URL を生成して表示するには、次の手順に従います。
  - a) **[Home]** > **[Captive Portals]** > **[SSIDs]** をクリックして、Meraki SSID を Cisco Spaces にインポートします。

Cisco Spaces ダッシュボードにスプラッシュページの URL が生成されます。

- b) [SSIDs] ページで、目的の Meraki SSID の [Configure Manually] リンクをクリックします。  
選択した Meraki SSID のスプラッシュページ URL が表示されます。

**ステップ 11** [Splash Behavior] エリアで、[Where should users go after the splash page] にある [The URL they were trying to fetch] オプションボタンをクリックします。

**ステップ 12** [Save Changes] をクリックします。

**ステップ 13** Cisco DNA Spaces で使用するすべての SSID について、ステップ 3 ~ 12 を繰り返します。

---

### 次のタスク

## Cisco Meraki でのスキャン API の設定

Meraki カメラを使用するには、Cisco Meraki でスキャン API を設定する必要があります。

Cisco Meraki でスキャン API を設定するには、次の手順を実行します。

### 手順

---

**ステップ 1** Cisco Meraki アカウントのログイン情報を使用して <https://meraki.cisco.com> にログインします。

**ステップ 2** [Networkwide] > [General] の順に選択します。

**ステップ 3** [Location and Scanning] エリアで、次の手順を実行します。

- a) [Analytics] ドロップダウンリストから、[Analytics enabled] を選択します。
- b) [Scanning API] ドロップダウンリストから、[Scanning API enabled] を選択します。
- c) ポスト URL を追加します。

- [Post URL] フィールドに、ポスト URL を入力します。

- [Secret Key] フィールドに、Cisco Meraki クラウドからの JSON ポストを検証するために HTTP サーバーが使用する秘密鍵を入力します。

(注)

Cisco DNA Spaces ダッシュボードの [Setup] > [Camera] の [Connect your Meraki Camera] ウィンドウから、ポスト URL と秘密鍵をコピーできます。

- [API Version] ドロップダウンリストから、HTTP サーバーが受信して処理できるロケーション API バージョンを選択します。

**ステップ 4** JSON オブジェクトを受信するように HTTP サーバーを設定し、ホストします。

**ステップ 5** 最初の接続時に、Cisco Meraki クラウドは、組織の ID が Cisco Meraki の顧客であることを確認します。

次に、Cisco Meraki クラウドが JSON の送信を開始します。

---

## Bluetooth Low Energy デバイスサポート

Bluetooth Low Energy (BLE) デバイスは、Cisco Catalyst ワイヤレスネットワークでサポートされていましたが、Cisco Meraki ネットワークで使用できるようになりました。

この機能拡張により、Cisco Spaces プラットフォームは Cisco Meraki を使用して BLE デバイスとシームレスに統合できます。この機能拡張により、Cisco Meraki BLE デバイスは、Firehose IoT テレメトリイベント、IoT Explorer、サイネージ、RightNow など、さまざまな Cisco Spaces アプリケーションでアクセスできるようになりました。



---

(注) この機能を動作させるには、Cisco Meraki ネットワークで特定の設定を実行し、Cisco Spaces へのデータ送信を有効にする必要があります。さらにサポートが必要な場合は、[Cisco Spaces サポートチーム](#) にお問い合わせください。

---



## 第 **V** 部

# Cisco Spaces : アプリケーション

- Cisco Spaces : **[Live Occupancy]** アプリケーション (63 ページ)
- Cisco Spaces : ロケーション分析アプリケーション (69 ページ)
- Cisco Spaces : Detect and Locate アプリケーション (83 ページ)
- Cisco Spaces : スペースの使用状況アプリケーション (85 ページ)
- Cisco Spaces : Smart Workspaces アプリケーション (87 ページ)





## 第 7 章

# Cisco Spaces : [Live Occupancy] アプリケーション

この章では、[Live Occupancy] アプリケーションについて説明します。

- [\[Live Occupancy\] の概要 \(63 ページ\)](#)
- [Wi-Fi 占有率 \(64 ページ\)](#)
- [設定 \(66 ページ\)](#)

## [Live Occupancy] の概要

[Live Occupancy] アプリケーションは、自分が現在いるロケーションの訪問者の詳細を示す [Live Occupancy] レポートを提供します。

[Live Occupancy] アプリケーションは、[Location Hierarchy] に変更があった場合のカウン트의問題に対処するように強化されています。この機能強化の前に、新しいロケーションの追加、既存のロケーションの削除、または [TimeZone] などの重要なパラメータの更新などの [Location Hierarchy] の変更により、Wi-Fi の古いカウントまたは誤ったカウントが導入されました。

この機能強化により、[Location Hierarchy] の変更後にカウントが無効になるため、現在の日の [Presence] チャートのカウントがリセットされます（現在の時刻までのすべての既存の数値が削除されます）。

[Live Occupancy] アプリケーションは、次のライセンスタイプで使用できます。

- SEE
- EXTEND
- SWITCH\_EXT
- SMART\_VENUES
- SMART\_OPERATIONS
- SMART\_OPERATIONS\_BASE
- ACT (UI では Advantage と表示)

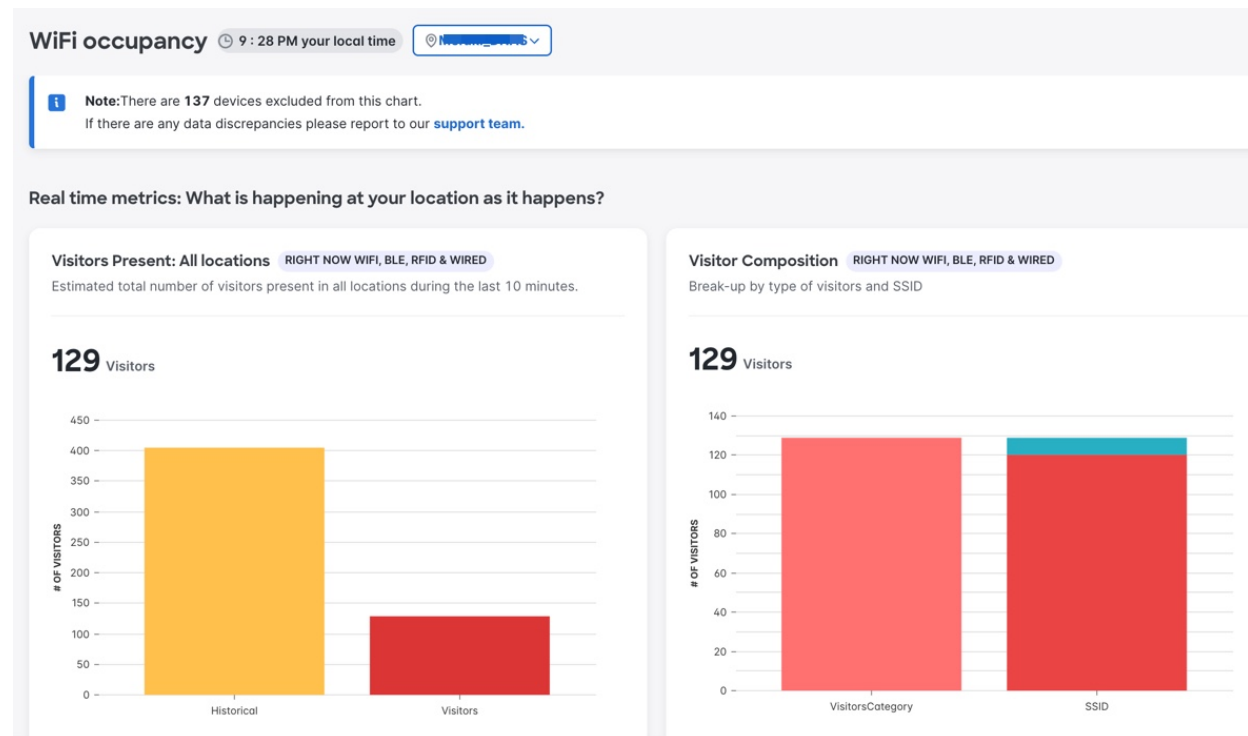
- UNLIMITED
- PREMIER\_W
- PREMIER\_CW

## Wi-Fi 占有率

[WiFi occupancy] レポートには、自分が現在いるロケーションの訪問者の詳細が表示されます。デフォルトでは、レポートには、現在すべてのロケーションにいる訪問者の詳細が表示されます。最大でフロアレベルまでフィルタリングできます。

[WiFi occupancy] は、訪問者と見なされない除外されたデバイスの数、またはデータ処理中にフィルタ処理されたデバイスの数を表示できるように機能強化されました。除外されたデバイスの数は、[WiFi occupancy] の [Note] セクションにメッセージとして表示されます。

図 8 : [Live Occupancy] アプリケーション





- (注)
- ロケーション階層でロケーションが削除または変更された場合、またはタイムゾーンが変更された場合、既存の [Presence] チャートのカウントはリセットされます。
  - BLE 処理の場合：
    - IoT の最新情報の一部として BLE グループ情報を受信する必要があります
    - RSSI 値は -85 より大きくする必要があります
  - プローブデバイスの場合：
    - シスコ コネクタおよびその他のデバイスタイプ : RSSI 値が -70 より大きい必要があります
    - Cisco Meraki : RSSI 値は -100 より大きい必要があります。

指定された信号強度しきい値を満たすプローブデバイスのみが、Firehose データストリームの一部としてデバイスロケーション更新イベントを共有できます。

## [Live Occupancy]レポートの表示

[Live Occupancy] レポートを表示するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** Cisco Spaces ダッシュボードで、[Live Occupancy] を選択します。

[Live Occupancy] アプリケーションが表示されます。

**ステップ 2** [Location] ドロップダウンリストから、目的のネットワークロケーションを選択します。

選択したネットワークロケーションの [Live Occupancy] レポートが表示されます。

レポート上部の [Live Occupancy] セクションに、使用システムのローカル時間が表示されます。

[Live Occupancy] レポートには、次のグラフが表示されます。

- [Visitors Present: All locations] : 子ロケーションを含むフィルタリングされたロケーションでの、過去 10 分間の推定合計訪問者数を表示します。
- [Visitor Composition] : アクティブな訪問者の構成を、SSID カテゴリ (従業員、ゲストなど) および SSID (上位 5 つの SSID) ごとにパーセンテージで表示します。
- [Visitors Present: All Locations] : フィルタリングされたロケーションでの、過去 10 分間の合計訪問者数の傾向を表示します。

- [Visitors Present: Map View] : フィルタリングされたロケーションの子ロケーションでの、アクティブな訪問者のロケーション別カウントを表示します。
  - [Map View] : フィルタリングされたロケーションの子ロケーションが、それらの各子ロケーションの合計訪問者数とともに世界地図に表示されます。
    - [Floor map view] : 特定のフロアを選択すると、選択したフロアマップビューも表示されます。  
選択したロケーションに、Cisco CMX からインポートされて Cisco Spaces にアップロードされたマップがある場合、そのフロアと、表示されたフロアの合計訪問者数を表示できます。
  - [List View] : フィルタリングされたロケーションの子ロケーションが一覧表示され、各子ロケーションの現在の訪問者数とそのロケーションに対して表示されます。

(注)

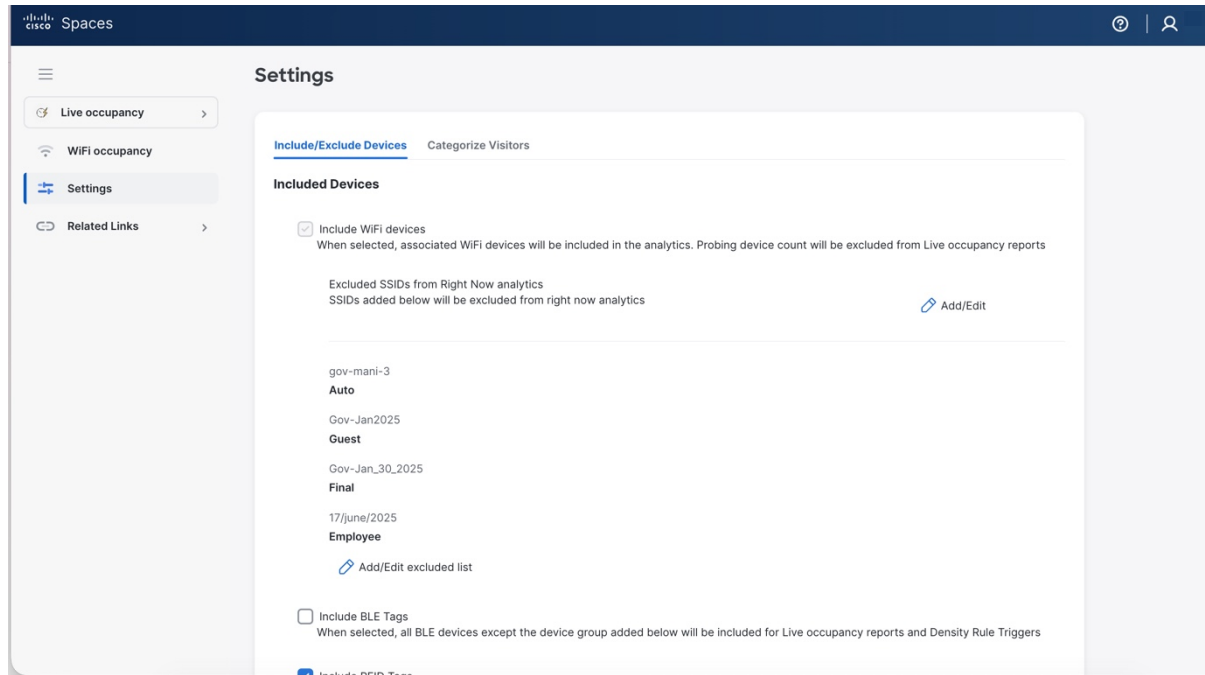
- 「アクティブな訪問者」とは、過去 10 分間にそのロケーションにおいて、ネットワーク (WLAN または SSID) に接続している訪問者です。
- 10 分間の中でデバイスの滞留時間が 1 分未満の場合、そのデバイスは Right Now レポートから除外されます。
- 過去 51 週間の平均値が、レポートの各チャートの履歴データとして表示されます。

---

## 設定

[Settings] メニューは、[Live Occupancy] アプリケーションレポート内のデバイス、SSID、および訪問者を管理するのに役立ちます。[Settings] メニューには、[Include/Exclude Devices] タブと [Categorize Visitors] タブが含まれています。

図 9 : [Live Occupancy] - 設定



### デバイスを含めるまたは除外する

[Include/Exclude Devices] タブを使用して、[Live Occupancy] レポートの Wi-Fi、BLE、および RFID デバイスについて次のオプションから選択します。

- Wi-Fi デバイスオプションはデフォルトで含まれていて、その選択を解除することはできません。

特定の SSID に接続されているデバイスを [Live Occupancy] 分析から除外するには、[Add/Edit] または [Add/Edit excluded list] をクリックし、[Exclude SSIDs] リストから目的の SSID を選択します。

- BLE タグ : [Live Occupancy] レポートに BLE タグを含めるには、[Include BLE Tags] をオンにします。

[Live Occupancy] 分析から特定のデバイス グループを除外するには、[Add/Edit] または [Add/Edit excluded list] をクリックし、[Exclude BLE devices] リストから目的の BLE デバイスを選択します。

- RFID タグ : [Live Occupancy] レポートに RFID タグを含めるには、[Include RFID Tags] を選択します。



- 
- (注)
- RFID タグと BLE タグを選択すると、対応するデバイス数も **[Live Occupancy]** レポートに表示されます。
  - ここで SSID を除外するように設定すると、その SSID に接続されているクライアントが **[Live Occupancy]** から除外されるだけでなく、**[Live Occupancy]** からデータを受信する他のアプリケーション、たとえば Partner Firehose Wi-Fi データ、スペース使用率フロア占有メトリック、およびサイネージ占有人数からも除外されます。
- 

### 訪問者の分類

[Categorize Visitors] タブを使用して、SSID に参加した訪問者を訪問者タイプに基づいて自動または手動で分類します。次のオプションを使用できます。

- Auto
- ゲスト
- Employee
- Custom



## 第 8 章

# Cisco Spaces : ロケーション分析アプリケーション

この章では、ロケーション分析レポートについて説明します。

- [ロケーション分析アプリケーションの概要 \(69 ページ\)](#)
- [ロケーション分析レポートの表示 \(71 ページ\)](#)
- [レポートの比較 \(74 ページ\)](#)
- [カスタムレポートの作成 \(76 ページ\)](#)
- [ウィジェットを追加 \(80 ページ\)](#)

## ロケーション分析アプリケーションの概要

ロケーション分析アプリケーションを使用すると、建物内のさまざまなエリアや地域と異なるロケーションにおける、人々の足取り、訪問者数、訪問パターン、滞在時間の分布を把握して分析できます。従業員の訪問状況もレポートに含まれます。

ロケーション分析アプリケーションを使用して、訪問数、訪問者の洞察、および滞在時間分布データを含むレポートを表示し、希望するフィルタ条件に従ってカスタムレポートも作成します。

ロケーション分析アプリケーションのメインメニューには、**[Reports]** と **[Custom Reports]** の 2 つのオプションがあります。

### レポート

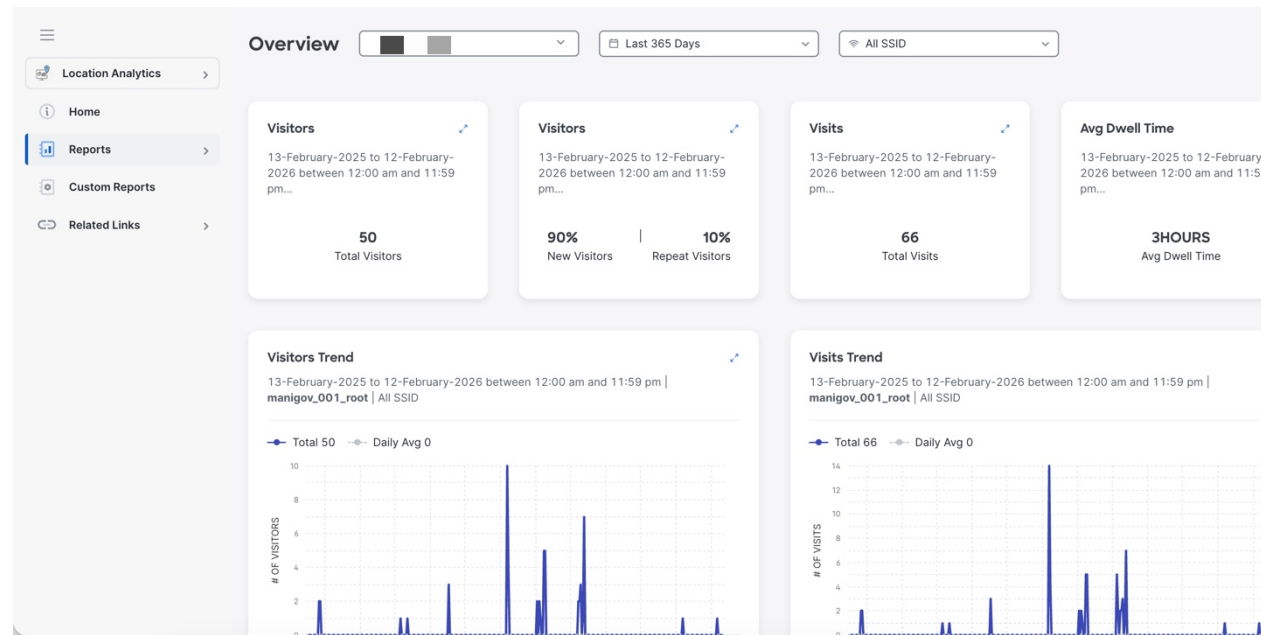
左側のパネルで **[Reports]** をクリックしてリストを展開し、**[Overview]** をクリックしてレポートを表示します。**[Overview]** ウィンドウには、訪問数、訪問者の詳細、および滞在時間分布データがタイル形式とグラフ形式の両方で表示されます。タイルの矢印アイコンをクリックすると、詳細をグラフ形式で表示できます。

### カスタム レポート

**[Location Analytics App > Custom Reports]** を選択し、カスタムレポートを表示、保存します。使用可能なレポートタイプ、およびレポートに含まれている **[Path]** ウィジェットを使用して、カスタムレポートを作成できます。

ロケーション分析アプリケーションで、**[Reports > Overview]** を選択すると、訪問者/訪問の傾向/滞在時間分布を含むロケーション分析レポートがタイル形式とグラフ形式の両方で表示されます。使用可能なフィルタパラメータに基づいてレポートを比較することもできます。詳細については、[レポートの比較 \(74 ページ\)](#) を参照してください。

図 10: ロケーション分析の概要



(注)

- デフォルトでは、過去 365 日間のすべてのロケーション、すべての SSID のレポートが表示されます。必要に応じて、ウィンドウの上部にあるフィルタを使用して、レポートを変更します。
- データの無いロケーション分析アプリケーションを初めて使用する場合は、左側のメニューにある **[Location Analytics]** をクリックしてサンプルレポートを表示し、訪問者の詳細がどのように表示されるかを把握してください。

**[Overview]** ウィンドウには、選択したパラメータに従って、訪問者数、訪問数、日次平均訪問者数、日次平均訪問数に関連する情報が表示されます。

- 訪問者数は、選択した基準に基づき、一意の訪問者の合計数として定義されます。
- 訪問数は、特定のロケーションへの合計訪問数として定義されます。
- 日次平均訪問者数は、選択した期間で毎日加算した訪問者の総数を、日数で割った日次平均として定義されます。
- 日次平均訪問数は、選択した期間で毎日加算した訪問の総数を、日数で割った日次平均として定義されます。

[**Overview**] ウィンドウは、次の情報をタイル形式で表示します。

- 訪問者数：日次平均訪問者数
- 訪問者数：新規と再訪問者の比較
- 訪問数：日次平均訪問者数
- 訪問数：平均滞在時間

[**Overview**] ウィンドウは、次の情報をグラフ形式で表示します。

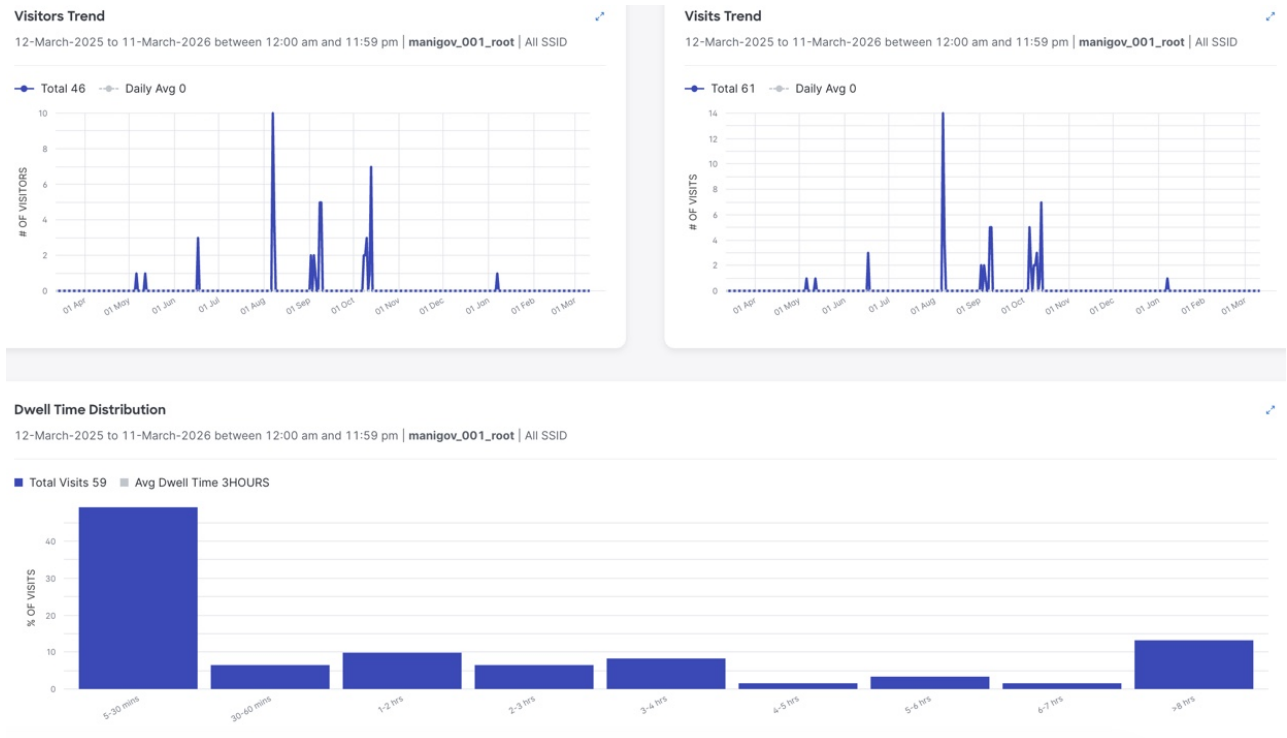
- 訪問者数の傾向
- 訪問数の傾向
- 滞在時間の分布

## ロケーション分析レポートの表示

### 手順

- 
- ステップ 1** Cisco Spaces [**Home**] ページで、[**Dashboard**] をクリックし、[**Location Analytics**] を選択します。  
[**Location Analytics**] [**Home**] ページが表示されます。
- ステップ 2** 左側のパネルから、[**Reports > Overview**] を選択します。  
[**Reports**] メニューに [**Overview**] ウィンドウが表示されます。

## ロケーション分析レポートの表示



## (注)

- デフォルトでは、ルートロケーション、すべてのSSID、および過去365日間のレポートが表示されます。ロケーション、日付範囲、SSIDでレポートをフィルタリングできます。
- SSIDフィルタオプションは、ACTライセンスユーザーのみが使用できます。SEEおよびEXTENDライセンスユーザーは使用できません。ただし、日付範囲フィルタを使用して、グループ、フロア、ゾーン以外のロケーションをフィルタリングできます。

**ステップ3 [All Locations]** ドロップダウンリストから、レポート表示の対象となるロケーションを選択します。

## (注)

ACTライセンスユーザーはフロアとゾーンのレポートを表示できます。SEEおよびEXTENDライセンスユーザーはネットワークロケーションのみをフィルタリングできます。

**ステップ4 [Date]** ドロップダウンリストから、レポートを表示する日付の範囲を選択します。

次のオプションを使用できます。

表 7: 日付範囲オプション

日付の範囲	説明
今日	本日の各時間ごとの合計訪問数
昨日 (Yesterday)	前日の各時間ごとの合計訪問数

日付の範囲	説明
今週	今週の各曜日の合計訪問数
先週	前週の各曜日の合計訪問数
今月	当月の各日の合計訪問数
先月	前月の各日の合計訪問数
今年	今年の各日の合計訪問数
Custom	指定した期間の各日の合計訪問数が表示されます。 [Custom Date Range] ポップアップウィンドウで、開始日と終了日を指定し、[Apply] をクリックします。

(注)

特定の日の訪問の詳細を表示するには、グラフの該当する日にカーソルを合わせます。

**ステップ 5** [All SSID] ドロップダウンリストから、レポートを表示する SSID を選択します。

[Overview] ウィンドウには、選択したフィルタオプションに従ってロケーション分析レポートが表示されます。

**ステップ 6** ロケーション分析レポートでは、次の情報をタイル形式で表示できます。

表 8: ロケーション分析レポート情報

レポート項目	説明
ビジター	選択したフィルタパラメータに基づく訪問者の合計数と日次平均訪問者数
ビジター	選択したフィルタパラメータに基づく訪問者の合計数。[New Visitors] および [Repeat Visitors] の数は、パーセンテージ情報とともに個別に表示されます。

レポート項目	説明
アクセス	<p>選択したフィルタパラメータに基づく合計訪問数と日次平均訪問数。[Total Visits] と [Daily Avg Visit] は、パーセンテージ情報とともに個別に表示されます。</p> <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>滞在時間が5分未満の訪問は除外されます。この設定は、訪問者数と訪問数の水増しにつながる短時間の一時的な訪問者を除外するのに役立ちます。</li> <li>滞在時間が1440分を超える訪問は除外されます。この設定は、常にオンになっているデバイスを除外して、平均滞在時間の水増しを防ぐのに役立ちます。</li> </ul>
滞在時間の分布	指定された期間中にフィルタ処理されたロケーションで発生した、選択 SSID への訪問の滞在時間内訳を表示します。
Path ウィジェット	訪問者のロケーション間での移動パターンと、同じ [Network] 内のさまざまなフロアまたはゾーンへの訪問の割合を表示します。カスタムレポートで、[Path widget] の任意のフロアまたはゾーンにカーソルを合わせると、正確な訪問数が表示されます。[Network] の下の利用可能なロケーションのみを使用してフィルタ処理することで、パス分析を表示できます。[Path] ウィジェットは、ACT ライセンスアカウントのみで使用できます。

(注)

また、[Visitors Trend]、[Visits Trends]、および [Dwell Time Distribution] 情報は、グラフ形式で表示することもできます。

## レポートの比較

さまざまなフィルタパラメータに基づいてロケーション分析レポートを比較し、傾向や訪問者パターンを分析できます。レポートを比較するには、[Location Analytics > Reports] を選択します。レポートメニューには、次の3つのオプションがあります。[Compare Locations]、[Compare Dates]、[Compare SSIDs]。

- **[Compare Location]** : このタブを使用して、2つのロケーションレポートを比較し、訪問者の傾向を表示できます。デフォルトでは、訪問者が多い2つのロケーションがレポートの対象になります。訪問者データをグラフとして表示するには、少なくとも2つのネットワークロケーションでデータを使用できる必要があります。**[Compare Location]** ウィンドウで、上部に表示される **[Locations]** ドロップダウンリストから、比較してレポートを表示するロケーションを選択します。
- **[Compare Dates]** : このタブを使用して、2つの特定の日付または日付範囲を選択し、レポートを表示します。デフォルトでは、1番目のレポートでは今週が日付範囲として選択され、2番目のレポートでは前週が選択されます。**[Compare Dates]** ウィンドウで、上部に表示される **[Date]** ドロップダウンリストから、必要な日付範囲オプションを選択して、レポートを比較して表示します。
- **[Compare SSIDx]** : このタブを使用して、2つの異なる SSID を比較し、訪問者の傾向を表示できます。デフォルトでは、訪問者が多い2つの SSID がレポートの対象になります。**[Compare SSIDs]** ウィンドウで、上部に表示される **[SSIDs]** ドロップダウンリストから、必要な SSID を選択して比較してレポートを表示します。

選択した比較オプションに応じて、ロケーション分析レポートが **[Location Analytics]** ウィンドウの左側と右側に表示されます。左側のロケーション分析レポート（白色のバックグラウンド）と、右側に表示されるレポート（黄色のバックグラウンド）を比較できます。

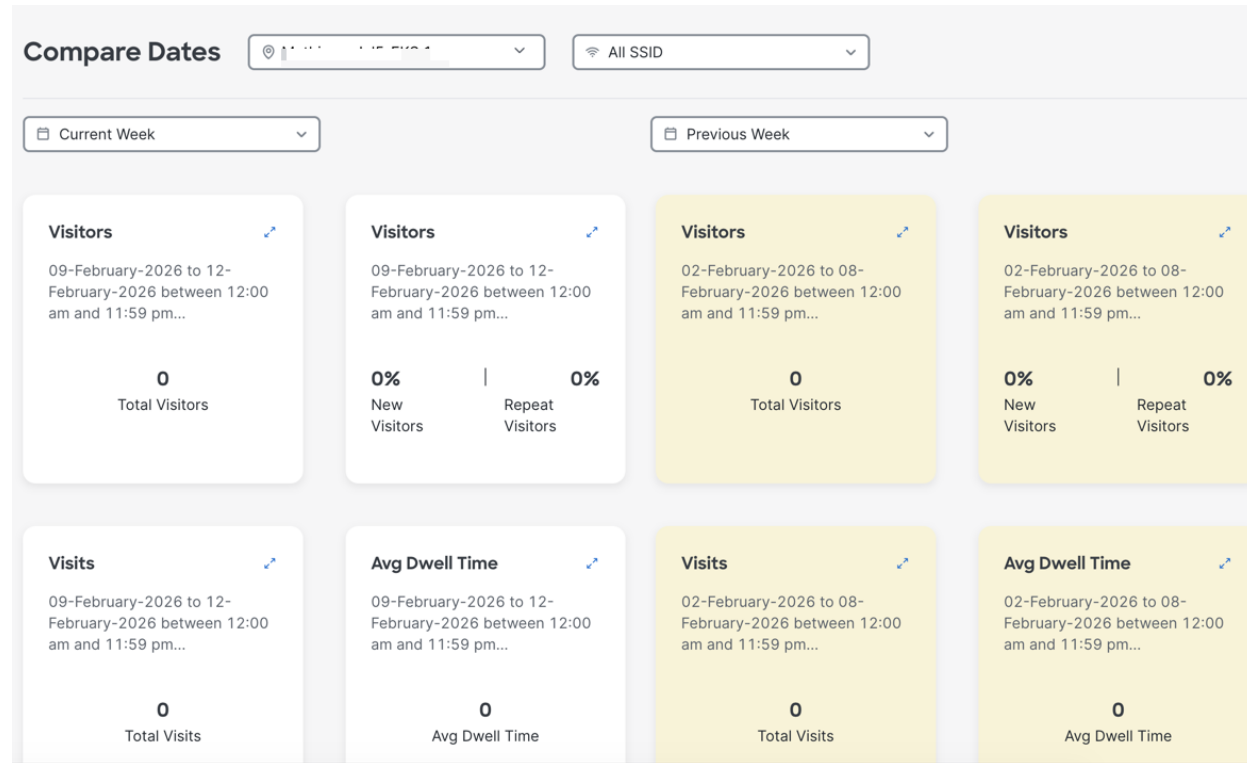


---

(注) ウィンドウの上部にあるフィルタパラメータを使用して、ロケーション分析レポートを表示することもできます。

---

図 11: レポートの比較オプション



## カスタムレポートの作成

デフォルトのレポートタイプに適用できるフィルタに基づいてカスタムロケーション分析レポートを作成するには、**[Custom Reports]** オプションを使用します。

使用可能なデフォルトのレポートタイプに基づいて、カスタムレポートを作成できます。

**[Custom Reports]** 機能を使用すると、デフォルトのロケーションレポートを表示できるだけでなく、カスタム調整レポートも作成できます。**[Custom Reports]** ウィンドウには、使用可能なすべてのレポート、デフォルトの概要レポート、比較オプション付きのレポート、および各カテゴリのレポート数が表示されます。

次の3つのカテゴリがあります。

- すべてのレポート
- 概要
- レポートの比較 (すべてのカテゴリを含むレポート)

ロケーション分析アプリケーションの**[Custom Reports]** 機能を使用して、デフォルトのフィルタパラメータでレポートを作成し、これをデフォルトのロケーション分析レポートとして保存して参照してください。デフォルトのロケーション分析レポートを作成する際、すべてのロ

ケーション、過去 365 日間の範囲、および使用可能なすべての SSID などのデフォルトのフィルタパラメータが考慮されます。グローバルレベルのフィルタパラメータは、このデフォルトのロケーション分析レポートをフィルタ処理するために使用できません。

デフォルトのロケーション分析レポートに加えて、使用可能なレポートタイプと複数のウィジェットフィルタを含めることでカスタムレポートを作成できます。

各カスタムレポートには、複数のウィジェットを含めることができます。レポートタイプ、ロケーション、期間、SSID、訪問範囲、および表示オプションをさまざまに組み合わせたウィジェットを作成できます。カスタムレポートには同じレポートタイプのウィジェットを複数追加できます。

## 手順

**ステップ 1** Cisco Spaces ダッシュボードで、[**Location Analytics > Custom Reports**] を選択します。

**ステップ 2** [Create New Report] をクリックします。

[Create New Report] ウィンドウが表示されます。

### Create New Report

Report Name \*

#### Overview

Use Metrics and Graph widgets to create an overview. Common Filters: Location and Date range

#### Compare Locations

Compare two locations side by side

#### Compare Da

Compare two date

#### Compare SSIDs ACT

Compare two SSIDs side by side

#### Path Report ACT

Know where visitors come from Monthly Dwell TimeReport and go to after a visit

**ステップ 3** [Report Name] フィールドに、新しいレポートの名前を入力します。

**ステップ 4** レポートの種類を選択します。

次のオプションを使用できます。

- 概要
- [Compare Locations]
- [Compare Dates]
- [Compare SSIDs] (ACT ライセンスユーザーのみが利用可能)
- [Path Report] : このレポートタイプは ACT ライセンスで使用できます。[Path Report] レポートタイプで使用できるレポートフィルタは、[Location] および [Date] です。

(注)

[Path Report] で、フォーカスエリアに表示される訪問数は、さまざまな場所から来た訪問者による合計訪問数を表します。この数は、ホームページウィジェットに表示された訪問数とは独立しているため、比較できません。

(注)

カスタムレポートに対して選択できるレポートタイプは1つだけです。

レポートタイプを追加または選択せずに、カスタムレポートを作成することもできます。レポートタイプを指定せずにカスタムレポートを作成する場合、レポートの作成時にすべてのデフォルトのレポートフィルタ値が考慮されます。

デフォルトの値は次のとおりです。

- [Location] : ルートロケーション
- [Date Range] : 365 日
- [SSID] : すべての SSID

**ステップ 5** [Next] をクリックします。

**ステップ 6** (オプション) レポートフィルタを選択せずに、[Skip & Create] をクリックして、カスタムレポートを作成します。

**ステップ 7** 必要なレポートフィルタを選択するには、スライドボタンをクリックします。

次のオプションを使用できます。

- **Location**
- 日付
- **SSID**

必要なレポートフィルタを検索して選択するには、[Search] オプションを使用します。

(注)

ACT (高度) サブスクリプションのお客様は、ウィジェットですべてのフィルタ (ロケーション、SSID、時間範囲、および訪問範囲) を適用できます。SEE (基本) および EXTEND サブスクリプションのお客様が適用できるのは SSID および訪問範囲フィルタに制限されていて、グループ、フロアおよびゾーンのロケーションをフィルタ処理することはできません。

**ステップ 8** **[Date]** レポートフィルタをクリックし、**[Choose Date Range value]** ドロップダウンから、日付範囲フィルタを選択してレポートを表示します。

**ステップ 9** **[SSID]** レポートフィルタをクリックし、右側のパネルから、レポートをフィルタ処理する SSID を選択します。

次の SSID オプションを選択できます。

- **[All SSIDs]** : フィルタリングされたロケーションで SSID を使用してキャプチャされた、指定された期間の訪問データを表示します。
- **[CCustom SSID configured in Cisco Spaces]** : 特定の SSID を使用してキャプチャされた、フィルタリングされたロケーションの指定された期間の訪問データを表示します。

(注)

フィルタを適用できるのは、ACT ライセンスユーザーのみです。SEE ライセンスのユーザーは、SSID フィルタを使用できません。ただし、日付範囲フィルタを使用して、グループ、フロア、ゾーン以外のロケーションをフィルタリングできます。

**ステップ 10** **[作成 (Create)]** をクリックします。

作成されたカスタムレポートは、**[Custom Reports]** ウィンドウにリストされます。レポートの名前、タイプ、ウィジェットの数、作成日、および最終更新日を確認できます。**[Custom Reports]** ウィンドウの上部には、グローバルレベルで使用可能なレポート フィルタも表示されます。

The screenshot shows the 'Custom Reports' interface. At the top, there are three filter buttons: 'All Reports' (2), 'Overview' (1), and 'Compare Locations' (1). Below these is a search bar and a table of reports. The table has columns for Name, Type, No. of Widgets, Created, and Last Updated. There are two rows of reports: 'Compare Locations' (7 widgets, Dec 19, 2025) and 'Overview' (7 widgets, Dec 18, 2025). Each row has a checkbox and a three-dot menu icon. At the bottom right, there is a 'Rows per page' dropdown set to 10 and a pagination indicator '1-2 of 2' with a page number '1' in a box.

<input type="checkbox"/>	Name	Type	No. of Widgets	Created	Last Updated	
<input type="checkbox"/>	Compare Locations	Compare Locations	7	December 19, 2025	December 19, 2025	...
<input type="checkbox"/>	Overview	Overview	7	December 18, 2025	December 18, 2025	...

(注)

- レポートを削除するには、該当する行の3つのドットアイコン ( ... ) をクリックし、**[Delete]** をクリックします。
- **[Name]** チェックボックスをオンにしてすべてのレポートを選択し、**[Custom Reports]** ウィンドウの右上にある **[Delete]** をクリックしてレポートを削除します。

# ウィジェットを追加

レポートの編集中に、カスタムレポートにさらにウィジェットを追加できます。

## 手順

**ステップ 1** [Location Analytics] ウィンドウで、左側のパネルから [Custom Reports] をクリックします。

**ステップ 2** 編集するレポートを選択します。

選択したロケーション分析レポートが表示されます。

**ステップ 3** ウィンドウの右上にある、3つのドットのアイコンをクリックします。

**ステップ 4** [Edit Report] をクリックします。

レポートが編集モードで表示されます。

**ステップ 5** [Add Widgets] をクリックします。

[Add Widget] ポップアップウィンドウが表示されます。

図 12: ウィジェットを追加

**ステップ 6** 次の情報を入力します。

- [Name Your Widget] : 追加する新しいウィジェットの名前を入力します。
- [Choose the widget you want to add] : 追加するウィジェットをクリックします。使用可能なウィジェットは、[Visitors]、[Visits]、および [Dwell] です。

- c) **[Widget Information]** : **[Widget Information]** ドロップダウンリストから、ウィジェットに含める必要がある情報を選択します。オプションは、ウィジェットの選択によって異なります。次のオプションを使用できます。
- **[Visitors]** ウィジェットの場合 : **[Number of Visitors]** と **[New vs Repeat]**
  - **[Visits]** ウィジェットの場合 : **[Number of Visits]** と **[New vs Repeat]**
  - **[Dwell]** ウィジェットの場合 : **[Distribution]**
- d) **[Visit Range]** : **[Visit Range]** ドロップダウンリストから、レポートの日付範囲を選択します。次のオプションを使用できます。
- **[All Day]** : 終日（午前 0 時から午後 11 時 59 分）に発生した訪問がレポートに含まれます。
  - **[Mid Night]** : 深夜（午前 0 時から午前 2 時 59 分）の訪問のみがレポートに含まれます。
  - **[Early Morning]** : 早朝（午前 3 時から午前 4 時 59 分）の訪問のみがレポートに含まれます。
  - **[Morning]** : 朝（午前 5 時から午前 8 時 59 分）の訪問のみがレポートに含まれます。
  - **[Business Hours]** : 営業時間内（午前 9 時から午後 4 時 59 分まで）の訪問のみがレポートに含まれます。
  - **[Evening]** : 夕方（午後 5 時から午後 8 時 59 分）の訪問のみがレポートに含まれます。
  - **[Late Evening]** : 夜遅く（午後 9 時から午後 11 時 59 分）の訪問のみがレポートに含まれます。
  - **[AM]** : 午前（午前 0 時から午前 11 時 59 分）の訪問のみがレポートに含まれます。
  - **[PM]** : 午後（午後 0 時から午後 11 時 59 分）の訪問のみがレポートに含まれます。

**ステップ 7** **[Next]** をクリックします。

**[Add Widget]** ポップアップには、**[Location]**、**[Date Range]**、および **[SSIDs]** のタブが含まれます。これらのタブをクリックして、必要なオプションを選択して追加できます。

**ステップ 8** **[Locations]** タブをクリックします。

- (オプション) **[Search Location]** フィールドに、名前を入力し、ロケーションを検索します。ロケーション検索を実行するには、3 文字以上を入力する必要があります。
- ルートロケーションを選択するか、クリックして展開して必要なゾーンまたはフロアを選択します。
- [View By]** ドロップダウンリストから、選択したロケーションについてレポートを表示する期間を選択します。
  - **[Day]** : 指定された期間の各日の訪問データが表示されます。
  - **[Hour of Day]** : 時間ごとの訪問データが表示されます。特定の時間の訪問数は、指定された期間中にその特定の時間で発生した訪問の合計になります。たとえば、2022 年 11 月の **[Hour of Day]** レポートで、午後 2 時に表示される訪問数は、2022 年 11 月全体の午後 2 時から午後 2 時 59 分までに発生した訪問数の合計になります。
  - **[Week]** : 指定された期間の各週の訪問データが表示されます。

- **[Day of Week]** : 指定された期間の各週の訪問データと、その特定の週の各日の訪問数が表示されます。

**ステップ 9** **[Date Range]** タブをクリックします。

- a) **[Date Range]** ドロップダウンリストから、レポートを表示する期間を選択します。

日付範囲として **[Custom]** を選択した場合は、**[Start Date]** および **[End Date]** フィールドに開始日と終了日を入力します。

- b) **[View By]** ドロップダウンリストから、レポートを表示する期間を選択します。

デフォルトでは、**[Locations]** タブで選択した **[View By]** オプションが表示されます。必要に応じて期間を更新でき、変更は **[Locations]** および **[SSIDs]** タブに反映されます。

**ステップ 10** **[SSIDs]** タブをクリックします。

- a) **[SSIDs]** ドロップダウンリストで、SSID を選択します。

- b) **[View By]** ドロップダウンリストから、レポートを表示する期間を選択します。

デフォルトでは、前のタブで選択した **[View By]** オプションが表示されます。必要に応じて期間を更新でき、変更は他のタブに反映されます。

**ステップ 11** **[Add]** をクリックします。

**[Place Widget Here]** というプロンプトが表示され、青で強調表示されているエリアをクリックして新しいウィジェットを挿入できます。

---



## 第 9 章

# Cisco Spaces : Detect and Locate アプリケーション

---

この章では、Cisco Spaces : Detect and Locate アプリケーションについて説明します。

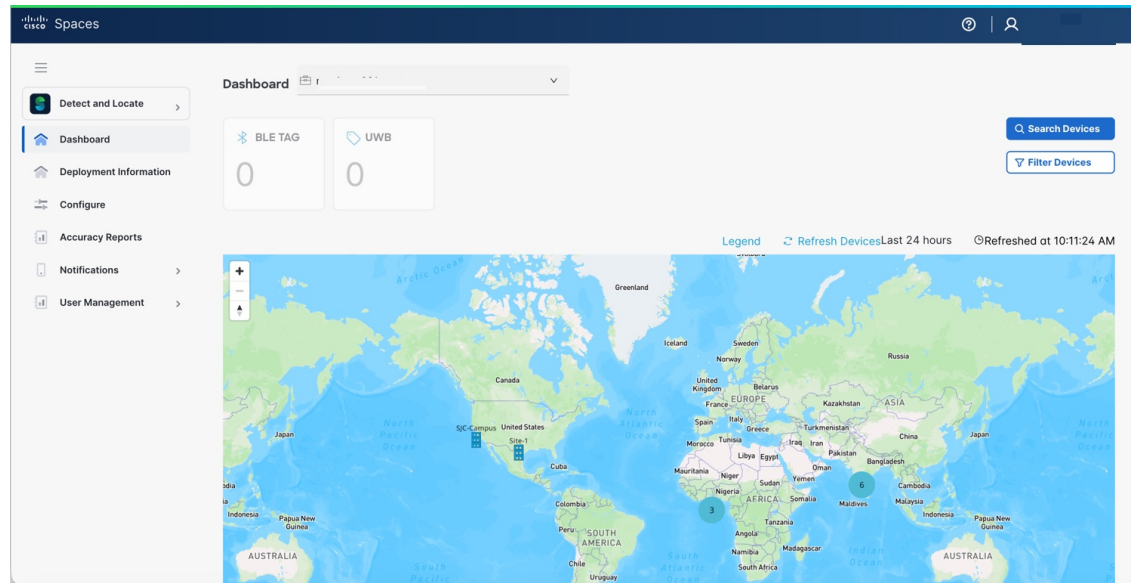
- [Cisco Spaces : Detect and Locate アプリケーションの概要 \(83 ページ\)](#)

## Cisco Spaces : Detect and Locate アプリケーションの概要

**Cisco Spaces : Detect and Locate** では、展開における Wi-Fi デバイスの現在および過去の位置を表示できます。

検出と位置特定を使用して、ネットワーク内のビルと、ビル内に展開された Wi-Fi アクセスポイント (AP) の固定物理レイアウトを表示できます。GPS マーカー、位置計算用の除外ゾーンまたは包含ゾーンなど、他の固定コンポーネントを確認できます。**Cisco Spaces : Detect and Locate** では、ネットワーク内の Wi-Fi デバイスの動的な性質も確認できます。

図 13: 検出と位置特定アプリケーション



検出と位置特定 アプリケーションの詳細については、『[Cisco Spaces Detect and Locate Configuration Guide](#)』を参照してください。



## 第 10 章

# Cisco Spaces : スペースの使用状況アプリケーション

- [スペースの使用状況アプリケーションを使用する \(85 ページ\)](#)

## スペースの使用状況アプリケーションを使用する

Cisco Spaces スペースの使用状況 (Space Utilization) アプリケーションは、これまでの物理スペースの使用状況に関する洞察を提供し、スペースの使用を最適化するのに役立ちます。これらの洞察は、空間のネットワークおよびコラボレーションインフラストラクチャ内に組み込まれたセンサーを介して収集されたデータから得られます。

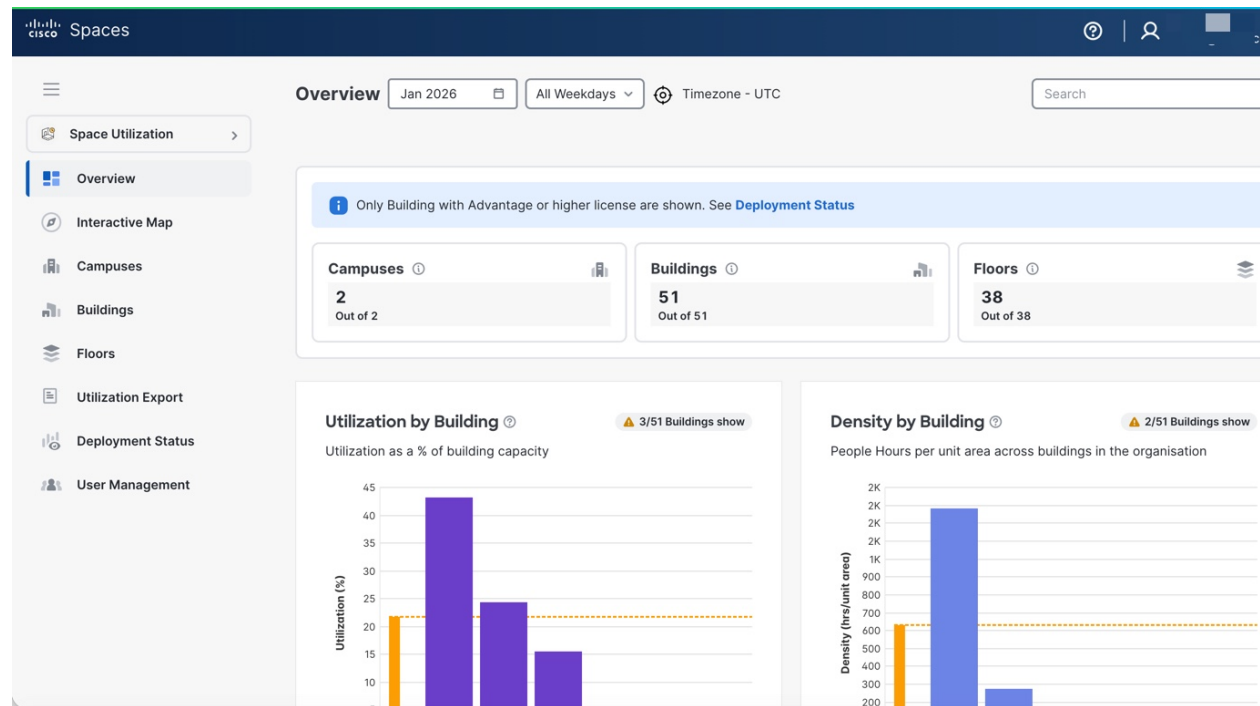
このアプリケーションを使用すると、キャンパス、建物、またはフロア内の任意の物理的なスペースの占有率と利用率を表示できます。この情報には、人数、ピーク利用率、部屋の使用率、物理的なスペースでの滞在時間などのデータが含まれます。

ワークスペースや教育分野の Cisco Spaces アカウントでは、[Floor Occupancy] と [Room Occupancy] の両方のメトリックが表示されます。デフォルトでは、その他すべての分野のアカウントには、次のメッセージが表示されます「*Occupancy charts are only available to Workspaces / Education vertical* (占有グラフは、ワークスペース/教育業種でのみ使用できます)」。

[Room Occupancy Reports] 機能を使用して、室内にいる人数を含むデータ (15 分ごとに集約) を含む占有率レポートを生成できます。この機能により、15 分、30 分、60 分など、任意のレポート時間間隔に基づいて人数カウントデータを柔軟にダウンロードして分類できます。

スペースの使用状況アプリケーションの用語一覧の拡張により、スペースの使用状況アプリケーション内のすべてのビューで利用可能なさまざまなメトリックとグラフに対する統合された包括的な定義のセットが提供されます。これらの定義により、ユーザーの理解が向上し、データの表示方法と計算方法が明確になります。

図 14: スペースの使用状況アプリケーション





## 第 11 章

# Cisco Spaces : Smart Workspaces アプリケーション

Cisco Spaces : Cisco Smart Workspaces アプリケーションは、ワークスペースをハイブリッドワーク対応にするために使用される、ワイヤレス展開用の **Space Manager** や **Space Experience** などのアプリケーションを提供します。これらのアプリケーションは、占有率、ノイズおよび電波品質、会議室のキャパシティと可用性などのメトリックを通じて、訪問者のシームレスなデジタル体験を強化し、提供します。

**Space Manager** アプリケーションを使用すると、建物、フロア、会議室のさまざまな環境でのリアルタイムの占有状況や、湿度、電波品質、ノイズレベルなどの環境更新を確認できます。また、**Space Experience** アプリケーションでは Cisco Spaces を介してサイネージを管理できます。



(注) これらのアプリケーションには、次のタイプのライセンスが関連付けられています。

- ACT (UI では Advantage と表示)
- UNLIMITED
- PREMIER\_W
- PREMIER\_CW

• [Cisco Spaces : Smart Workspaces での操作 \(87 ページ\)](#)

## Cisco Spaces : Smart Workspaces での操作

Cisco Smart Workspaces ソリューションをサポートするために、次の 2 つの新しいアプリケーションが利用可能です。

- **スペースマネージャ** : このアプリケーションを使用して、さまざまなデバイス、センサーおよびワークスペースを設定し、特定の建物、フロア、または会議室のデジタルマップに

レンダリングされた、リアルタイムの稼働率データおよび環境テレメトリ（ヒートマップ、室内の電波品質、気温、湿度およびノイズレベル）へのアクセスを提供します。

- **[Devices]** セクションでは、設定されたデバイスとそのテレメトリの詳細をデジタルマップに表示できます。
- **[Manage Rooms]** セクションには、設定された会議室が表示され、選択した会議室でデバイスとセンサーを表示、追加、または削除できます。
- **スペースエクスペリエンス** : このアプリケーションを使用して、次の操作を実行します。
  - **Cisco Smart Workspaces** のサイネージの作成と管理
  - 非 Webex デバイスの新しいサイネージをオンボーディングします。
  - テレメトリパラメータを設定し、サイネージを公開します。
  - 設定の更新は、対応するサイネージデバイスに自動通知されます。



## 第 **VI** 部

### ロケーション階層

- [ロケーション階層 \(91 ページ\)](#)





## 第 12 章

# ロケーション階層

---

この章では、ロケーション階層の設定方法について説明します。

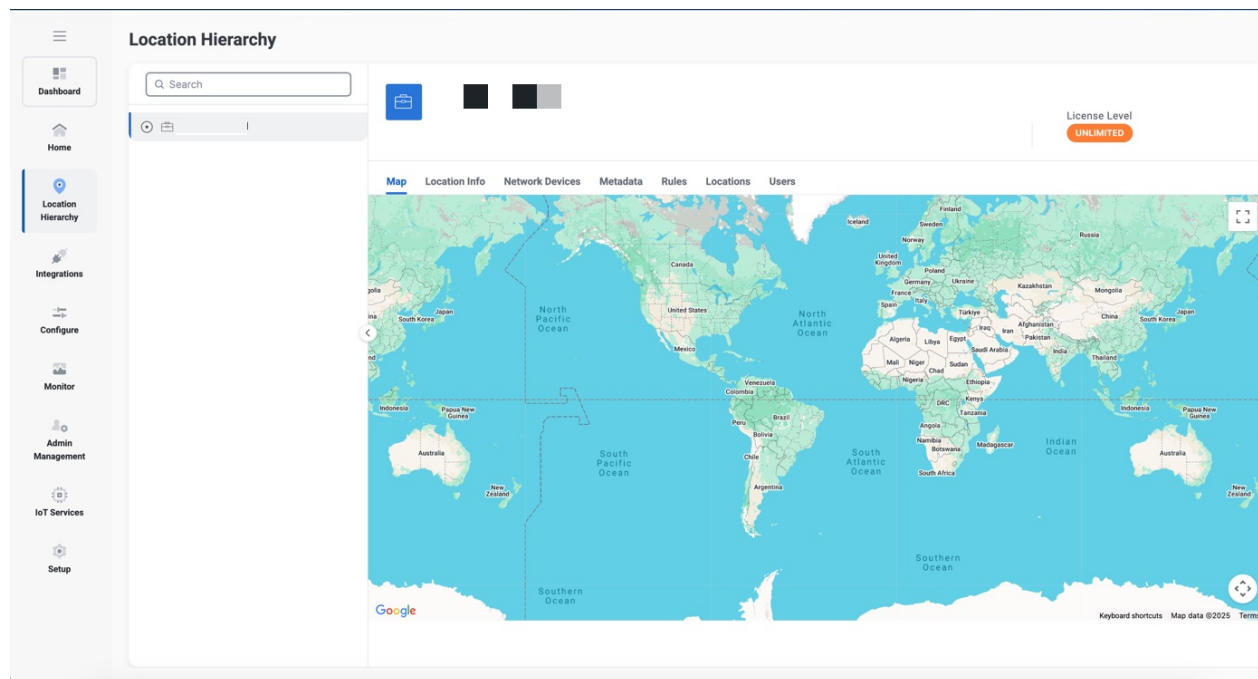
- [ロケーション階層 \(91 ページ\)](#)
- [ロケーション情報の表示 \(93 ページ\)](#)
- [ロケーション情報の更新 \(97 ページ\)](#)
- [ネットワークデバイスの表示 \(99 ページ\)](#)
- [メタデータの設定 \(100 ページ\)](#)
- [ロケーションの表示 \(101 ページ\)](#)
- [ユーザーの表示 \(102 ページ\)](#)

## ロケーション階層

**[Location Hierarchy]** 機能により、Cisco AireOS ワイヤレスコントローラ、Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレスコントローラ、Cisco Meraki などのワイヤレスネットワークで定義したものと同一構造のロケーションを簡単にインポートできます。

Cisco Prime Infrastructure または Catalyst Center からインポートされたマップで定義されている階層構造が自動的にロケーション階層に反映されます。

**[Location Hierarchy]** ウィンドウでは、デフォルトの顧客名 (ルートロケーション) が自動的に選択され、**[Map]** タブにはマップにロケーションが表示されます。



**[Location Hierarchy]** ウィンドウの左側のペインには、インポートされたルートロケーションとデフォルトの顧客名（ルート名）が表示されます。プラス記号をクリックすると、階層を展開して表示できます。ルートロケーションにある建物と関連するフロアを表示できます。

左側のペインからルートロケーションを選択すると、キャンパス、建物、グループ、フロア、ゾーンの数に関連する追加情報も表示できます。

選択したロケーション、建物、またはフロアに関する追加情報が以下のタブに表示されます。

- **[Map]** : マップ上で選択したロケーションを表示します。
- **[Location Info]** : ロケーションデータ情報を表示します。
- **[Network Devices]** : 接続されているネットワークデバイスと実行中のデバイスをすべて表示し、これらのデバイス数を表示します。
- **[Metadata]** : 設定されたメタデータ情報を表示します。
- **[Locations]** : ロケーションノードを表示します。
- **[Users]** : ユーザーを表示します。
- **[License Usage]** : ライセンスタイプ、アクセスポイント、Webex デバイス、Meraki カメラ、ロケーション、および建物単位の情報を表示します。

**[Location Hierarchy]** ウィンドウでは、次の追加タスクを実行できます。

- **[Search]** : **[Search]** フィールドにロケーション名を入力し、**[Enter]** キーを押します。検索語は 4 文字以上にする必要があります。**[Recent Searches]** エリアには、検索結果が表示されます。

- **[Rename]** : ロケーションの横にある3つのドットをクリックし、**[Rename Location]** をクリックしてロケーション名を編集します。
- **[Delete]** : ロケーションの横にある3つのドットをクリックし、**[Delete Location]** をクリックして、**[Location Hierarchy]** からそのロケーションを削除します。

**[Location Hierarchy]** は、特定のフロアでリッチマップが利用可能な場合、それらが表示されます。リッチマップをアップロードするオプションは、現在、Cisco Spaces サポートチームによって管理されています。**[3D]** トグルボタンをクリックすると、2D フロアマップと 3D フロアマップを切り替えることができます。

**[Location Hierarchy]** には、Cisco Spaces ユーザーがアクセスできるロケーションのみが表示されます。これらのロケーションへのアクセス可能性は、ロールを作成または編集するか、**[Administration Management]** で Cisco Spaces ユーザーを招待または編集するときに定義されます。

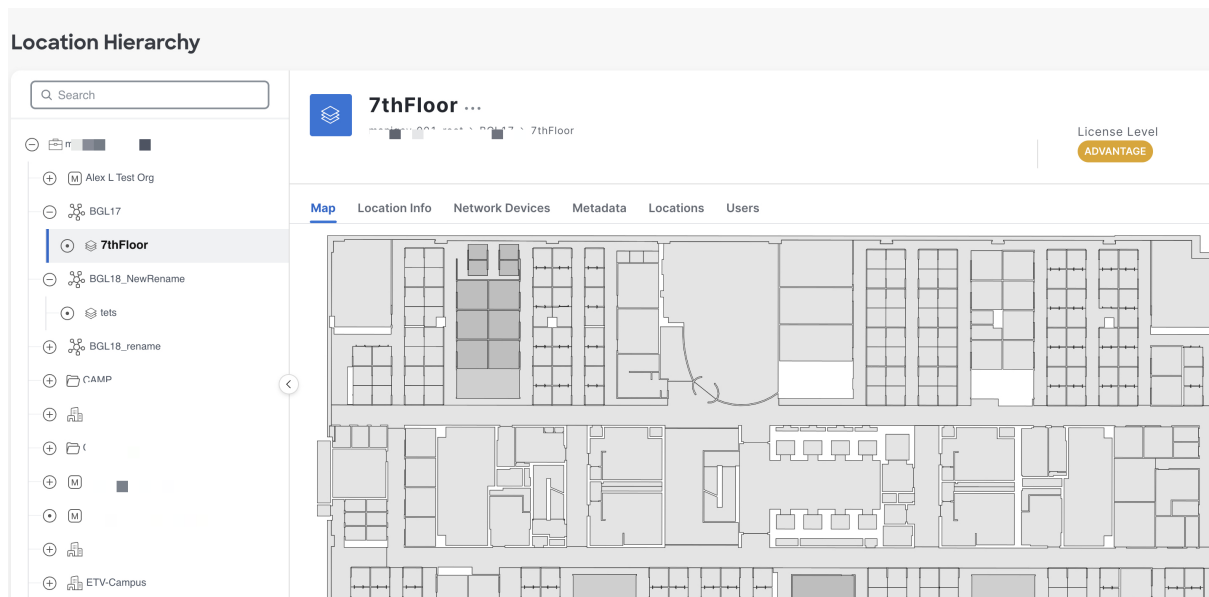
## ロケーション情報の表示

**[Map]** タブ (**Cisco Spaces [dashboard > Menu icon (☰) > Location Hierarchy > Root Location]**) を使用して、マップ上に選択したロケーション、キャンパス、建物、およびフロアを表示します。


ルートロケーションを選択すると、デフォルトの世界地図が表示されます。

ただし、場合によっては、自動的にマップ上の正確な位置にズームインされ、プロッターアイコンとともに表示されます。プロッターアイコンをクリックすると、ロケーションアドレス、総面積、最大キャパシティ、タイムゾーンの詳細などの追加情報を表示できます。正確な位置は、緯度と経度の情報に基づいてプロットされます。

図 15: マップタブ



建物を選択すると、デフォルトの世界地図が表示されます。

フロアを選択すると、正確なフロアマップイメージが表示されます。ポリゴンツール (  ) を使用してゾーンを作成します。詳細については、[ゾーンの作成 \(94 ページ\)](#) を参照してください。

選択した場所に応じて、次の情報が表示されます。

- マニュアルの構成
- キャンパス
- 建物
- フロア
- ゾーン
- アラート (Alerts)



## ゾーンの作成

[Map] タブを使用して、[Location Hierarchy] に Cisco CMX ゾーンを作成します。



(注) 現在、Cisco Meraki のゾーンベースレポートは、[Right Now] アプリケーションおよび [Firehose] デバイスのロケーション更新イベントでのみサポートされています。

### 手順

- ステップ 1** Cisco Spaces にログインします。
- ステップ 2** Cisco Spaces ダッシュボードで、[Menu] アイコン (  ) をクリックし、[Location Hierarchy] を選択します。  
[Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** 左側のペインで、必要なフロアの場所へ移動します。  
フロアマップが表示されます。
- ステップ 4** マップ上のポリゴンツール (  ) をクリックします。  
カーソルがプラスのアイコンに変わります。
- ステップ 5** 必要なマップエリアをクリックし、カーソルを移動して、選択した多角形のゾーンを描画します。
- ステップ 6** ダブルクリックして、ゾーンの作成を完了します。

右側のペインにポップアップウィンドウが表示されます。

**ステップ 7** [Zone Name] フィールドに、ゾーンの名前を入力します。

**ステップ 8** ゾーンを区別するオーバーレイカラーを選択します。


**ステップ 9** [Save] をクリックします。

- 新しいゾーンが作成され、[Location Hierarchy] ウィンドウが更新され、ルートロケーションが表示されます。
- 左側のペインで、新しいゾーンを作成したフロアに移動すると、Cisco CMX ゾーンがフロア階層の下に新しい項目として表示されます。

**ステップ 10** (オプション) ゾーンの詳細を更新するには、マップ上のポリゴンアイコンをクリックします。

---


## フロアロケーションのゾーンの作成

ロケーション階層では、Cisco Meraki ネットワークの下にフロアロケーションのポリゴンゾーンを作成できます。フロアマップにポリゴンゾーンを作成するには、[Map] タブのフロアマップビューで使用できるポリゴンツール (  ) を使用します。作成された新しいポリゴンゾーンは、[Location Hierarchy] の下に表示されます。

### 手順

---

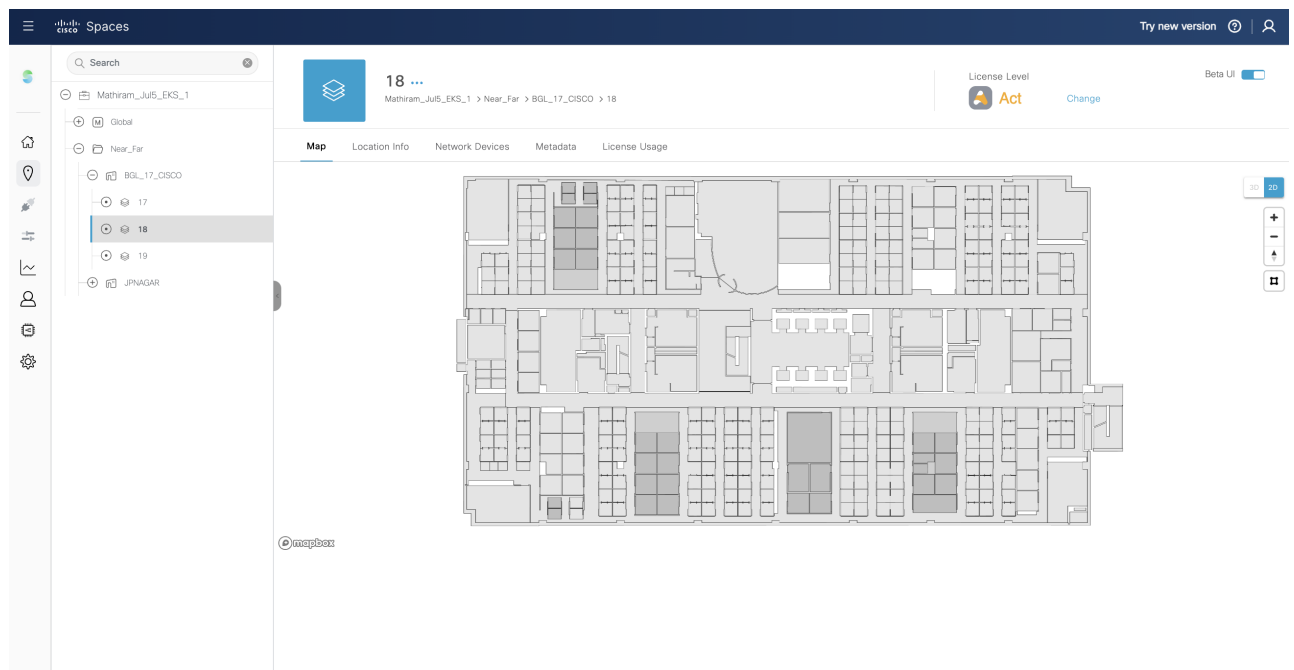
**ステップ 1** Cisco Spaces にログインします。


**ステップ 2** Cisco Spaces ダッシュボードで、[Menu] アイコン (  ) をクリックし、[Location Hierarchy] を選択します。

[Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** 左側のペインで、必要なフロアの場所に移動します。  
フロアマップが表示されます。

図 16: マップタブ



**ステップ 4** マップ上のポリゴンツール (  ) をクリックします。

カーソルがプラスのアイコンに変わります。

**ステップ 5** 必要なマップエリアをクリックし、カーソルを移動して、選択した多角形のゾーンを描画します。

**ステップ 6** ダブルクリックして、ゾーンの作成を完了します。


右側のペインにポップアップウィンドウが表示されます。

**ステップ 7** **[Zone Name]** フィールドに、ゾーンの名前を入力します。

**ステップ 8** ゾーンを区別するオーバーレイカラーを選択します。

**ステップ 9** **[Save]** をクリックします。

- 新しいゾーンが作成され、**[Location Hierarchy]** ウィンドウが更新され、ルートロケーションが表示されます。
- 左側のペインで、新しいゾーンを作成したフロアに移動すると、そのゾーンがフロア階層の下に新しい項目として表示されます。

**ステップ 10** (オプション) ゾーンの詳細を更新するには、マップ上のポリゴンツール (  ) をクリックします。

## ロケーション情報の更新

ロケーション情報を表示および編集するには、[Location Info] タブ（Cisco Spaces [dashboard > Menu icon (☰) > Location Hierarchy > Root Location]）を使用します。

選択したロケーションについて、[Node Type] と [Network Reference] の詳細が表示されます。

図 17: ロケーション情報タブ

The screenshot shows the 'Location Info' tab in Cisco Spaces. It displays two nodes: 'ROOT' under 'NODE TYPE' and 'qasetupv2test1' under 'NETWORK REFERENCE'. Below this is a 'Location Data' section with an 'Edit' link. A yellow warning box states: 'Note: Some location data fields are inherited from its parent location. Inherited fields are highlighted in orange color. We strongly recommended you to update location data for each location separately to avoid discrepancy.' Below the warning is a table of location data:

Brand	Testing
Total Area	100 Square Feet
Occupancy Limit (MAX CAPACITY)	11
Country	NA
State	NA
City	Hosur
Zipcode	635126
Latitude	NA
Longitude	NA
Time Zone	Asia/Dubai

[Edit] をクリックしてロケーション情報を更新します。詳細については、[ロケーション情報の編集 \(97 ページ\)](#) を参照してください。



(注) 親ロケーションから継承したロケーションデータフィールドはオレンジ色で強調表示されません。不整合を避けるために、ロケーションデータはロケーションごとに個別に更新することを強く推奨しています。

## ロケーション情報の編集

### 手順

ステップ 1 Cisco Spaces にログインします。

ステップ2 Cisco Spaces ダッシュボードで、[Menu] アイコン (☰) をクリックし、[Location Hierarchy] を選択します。

[Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。

ステップ3 左側のペインで、必要な場所へ移動します。

ステップ4 [Location Info] タブをクリックします。

ステップ5 [Location Data] の横にある [Edit] をクリックします。

スライドインウィンドウが表示されます。

ステップ6 必要に応じて、以下のロケーション情報を更新します。

- a) [Location Name] : ロケーションの名前を編集します。
- b) [Brand] : ブランド名を編集します。
- c) [Total Area] : 合計エリアの詳細を編集します。
- d) [Unit] : 入力される合計エリアの単位を選択します。オプションは [Square Feet] および [Square Meter] です。
- e) [Occupancy Limit (Max Capacity)] : 占有制限/最大キャパシティの詳細を編集します。
- f) [Address] : アドレスの詳細を入力し、表示されるオプションから選択します。選択したアドレスは、右側に表示されるマップにプロットされます。
- g) [Latitude] : 選択したアドレスの緯度を表示します。この値は編集できません。
- h) [Longitude] : 選択したアドレスの経度を表示します。この値は編集できません。
- i) [Time Zone] : [Search Timezone] フィールドに検索語を入力し、使用可能なオプションから検索または選択します。

ステップ7 [Save] をクリックします。

---

## アクセスポイントプレフィックスの編集

複数のプレフィックスを持つ AP をネットワークに追加できます。たとえば、プレフィックスが AB、BC、および CA の AP があり、AB および BC の AP を 1 つのワイヤレスネットワークにグループ化する場合、それが可能です。

[Access Points Prefix Used] オプションは、ネットワークロケーションでのみ、[Location Info] タブで使用できます。ただし、[Access Points Prefix Used] オプションを [Unconfigured] のネットワークに使用することはできません。

複数のプレフィックスを持つ AP を、シスコワイヤレスコントローラまたは Cisco Catalyst 9800 シリーズワイヤレスコントローラのネットワークに追加するには、次の手順を実行します。

### 手順

---

ステップ1 Cisco Spaces にログインします。

**ステップ 2** Cisco Spaces ダッシュボードで、[Menu] アイコン (☰) をクリックし、[Location Hierarchy] を選択します。

[Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** 左側のペインで、必要なネットワークに移動します。

**ステップ 4** [Location Info] タブをクリックします。

**ステップ 5** [Access Point Prefix Used] の横にある [Add/Edit] をクリックします。

**ステップ 6** [Add/Edit Prefix] ウィンドウの [Prefix] フィールドに、プレフィックスを入力します。

入力されたプレフィックスを持つアクセスポイントが一覧表示されます。

**ステップ 7** [プレフィックスの追加 (Add Prefix)] をクリックします。

新しく追加されたプレフィックスが、ウィンドウの右側のペインの [Added Prefixes] の下にリストされます。[Add Prefix] は、入力されたプレフィックスを持つ AP が利用できる場合にのみ有効です。

**ステップ 8** [Save] をクリックします。

プレフィックスを追加した後、未設定のネットワークの下にある、このプレフィックスを持つ AP がこのネットワークに移動します。

プレフィックスを削除するには、[Added Prefixes] の下にあるプレフィックスにカーソルを合わせ、[Delete] アイコンをクリックします。

---

## ネットワークデバイスの表示

[Network Devices] タブ (Cisco Spaces [dashboard > Menu icon (☰) > Location Hierarchy > Root Location]) を使用して、選択したノードの下にある全ネットワークデバイスを表示します。ルートロケーションには、ロケーション階層内で使用可能なすべての接続済みデバイスが表示されます。

選択した場所に応じて、次の情報が表示されます。

- **[Access Points]** : AP の名前、MAC アドレス、およびロケーション階層パスを表示します。特定の AP を検索するには、[Search Table] フィールドを使用します。階層パスをコピーするには、[Location] フィールドの横にあるコピーアイコンをクリックします。[Setup] ウィンドウに移動して、AP を設定します。
- **[Cameras]** : カメラ名、シリアル番号、MAC アドレス、トリップワイヤのステータス (設定/非設定) など、接続されたカメラの詳細を表示します。特定のカメラを検索するには、[Search Table] フィールドを使用します。[Connect your Meraki Camera] : ウィンドウに移動して、追加のデバイスを接続します。
- **[Security Appliances]** : それぞれの場所でのセキュリティアプライアンスデバイスの詳細なリストを表示します。

- **[Webex Devices]** : 接続されている Cisco Webex デバイスを表示します。
- **[Linked Devices]** : このロケーションに設定されているリンクされたデバイスを表示します。IoT デバイス、非 Webex サイネージ、およびスマート PUD をリンクできます。

## メタデータの設定

メタデータ情報を表示するには、**[Metadata]** タブ (**Cisco Spaces dashboard > Menu icon (☰) > Location Hierarchy > Root Location**) を使用します。メタデータがまだ設定されていない場合は、**[Add Metadata]** をクリックしてメタデータを追加します。詳細については、[メタデータの追加 \(100 ページ\)](#) を参照してください。

図 18: **[Metadata]** タブ

Metadata Key	Value	Actions
id	10	
name	Test Metadata	

選択した場所に応じて、次の情報が表示されます。

- **[Metadata Key]** : メタデータキーを表示します。
- **[Value]** : メタデータキーの値を表示します。値には英数字と特殊文字も使用できます (例: xyz123@)。

## メタデータの追加

### 手順

**ステップ 1** Cisco Spaces にログインします。

**ステップ 2** Cisco Spaces ダッシュボードで、**[Menu]** アイコン (☰) をクリックし、**[Location Hierarchy]** を選択します。

[Location Hierarchy] ウィンドウが表示されます。

ステップ3 左側のペインで、必要な場所に移動します。

ステップ4 [Metadata] タブをクリックします。

ステップ5 [Add Metadata] をクリックします。

ステップ6 [Key] フィールドに、メタデータキーを入力するか選択します。

ステップ7 [Value] フィールドにキーの値を入力します。

ステップ8 (オプション) [Add Metadata] をクリックして、複数のメタデータキーと対応する値を追加します。

キーを削除するには、メタデータキーの横にある [Delete] アイコンをクリックします。

ステップ9 [Save] をクリックします。

新しいメタデータキーと値が [Metadata] タブに表示されます。[Edit] アイコンをクリックして、キー情報を更新します。

## ロケーションの表示

[Locations] タブを使用して、(Cisco Spaces [Dashboard > Menu icon (☰)] > Location Hierarchy > Root Location) を使用して、[Location Type] や [Level] などのロケーション情報を表示します。

[Location Type] と [Level] ドロップダウンオプションを使用して、ロケーション設定を選択します。ロケーションタイプは次のとおりです。

- Network
- キャンパス
- Group
- マニュアルの構成

選択したロケーションについて、次の詳細を表示します。

- ロケーション
- AP
- Camera
- 最大キャパシティ
- 総面積 (平方フィート)
- Time Zone

ロケーションの横にある必須のチェックボックスをオンにして、[Create Group] をクリックしてロケーションを追加し、独自のグループを作成します。

## ユーザーの表示

[Users] タブ (Cisco Spaces [Dashboard > Menu icon (☰) > Location Hierarchy > Root Location]) を使用して、ユーザーとそのロール権限を表示します。

次の詳細の表示

- ユーザー
- Role
- 権限：読み取りと書き込み
- 権限：読み取り専用
- ロケーション

[Search] オプションを使用してユーザーを検索します。ユーザーをクリックすると、[Admin Management > Edit User] ウィンドウで権限設定を編集できます。



## 第 **VII** 部

### 統合

- [Cisco Catalyst Center \(旧 Cisco DNA Center\) 統合 \(105 ページ\)](#)
- [カレンダーの統合 \(109 ページ\)](#)





## 第 13 章

# Cisco Catalyst Center (旧 Cisco DNA Center) 統合

この章では、Cisco Spaces と Catalyst Center の統合について説明します。

- [概要 \(105 ページ\)](#)
- [Cisco Spaces と Catalyst Center の統合 \(106 ページ\)](#)

## 概要

Cisco Spaces を使用すると Cisco Catalyst Center (旧 Cisco DNA Center) と統合でき、Cisco Spaces を使用して Catalyst Center サイトをモニターできます。



- (注) 現在、Catalyst Center と Cisco Spaces の統合は、自動マップエクスポートとロケーション階層の同期のみに制限されています。この統合では、キャプティブポータルベースの認証機能はサポートされません。

詳細については、『*Catalyst Center* ユーザーガイド』の「Cisco Spaces 統合について」を参照してください。

<https://www.cisco.com/c/en/us/support/cloud-systems-management/dna-center/products-user-guide-list.html>

### 前提条件

- Catalyst Center、リリース **2.1.2.3** 以上。
- Catalyst Center は、最初のアクティブ化のために <https://spaces-gov.cisco/> に接続する必要があります。
- Cisco Spaces : コネクタを使用してワイヤレスネットワークを Cisco Spaces に接続する必要があります。接続するには、Cisco Spaces ダッシュボードにログインして、[**Setup > Wireless Networks**] の順に選択します。
- Catalyst Center は、OCSP/CRL を使用した SSL/TLS 証明書の失効ステータスを確認します。TCP 80 は、デバイスおよび他のシステムへのアウトバウンド通信に Catalyst Center によっ

て使用されるポートです。証明書失効ステータスを正常に確認するには、次の URL が直接、および Catalyst Center 用に設定されたプロキシサーバー経由の両方で到達可能である必要があります。そうしないと、Catalyst Center が `cisco.com` に接続したときに証明書失効チェックがスキップされます。

<http://validation.identrust.com>

<http://commercial.ocsp.identrust.com>

詳細については、『Cisco Catalyst Center セキュリティのベストプラクティスガイド』の「通信ポート」を参照してください。

## Cisco Spaces と Catalyst Center の統合

Cisco Spaces と Catalyst Center を統合するには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1 Cisco Spaces にログインします。
  - ステップ 2 ウィンドウで [Menu] アイコン (☰) をクリックし、[Integrations] を選択します。
  - ステップ 3 Catalyst Center [Integrations] ウィンドウで、[New Instance] をクリックします。
  - ステップ 4 [Create new token] ポップアップウィンドウで、Catalyst Center インスタンス名を入力し、[Create Token] をクリックします。

新しいトークンが正常に作成されたことを示す成功メッセージが表示され、そのトークンが Catalyst Center [Integration] ウィンドウに表示されます。

(注)

新しいトークンの有効期限は 5 分です。トークンの有効期限が切れた場合は、再生成できます。

- ステップ 5 [Copy Token] をクリックして、このテナントトークンを Catalyst Center で使用します。
- ステップ 6 Catalyst Center にログインします。
- ステップ 7 [Menu] アイコン (☰) をクリックし、[System > Settings] を選択します。
- ステップ 8 [CMX Servers/Cisco Spaces] をクリックします。
- ステップ 9 [CMX Servers/Cisco Spaces] ウィンドウの Cisco Spaces セクションで、[Activate] をクリックします。
- ステップ 10 [Integrate Cisco Spaces] ポップアップウィンドウで、テナントトークンを貼り付け、[Connect] をクリックします。

Cisco Spaces で統合が完了すると、次の成功メッセージが表示されます。「This cluster is integrated with Cisco Spaces successfully」。ステータスは [Activated] と表示されます。

Cisco Spaces トークンをアクティブにした後、Cisco Spaces を Catalyst Center サイトに割り当て、それらのサイトのモニターを開始できます。詳細については、「[Catalyst Center ユーザーガイド](#)」を参照してください。

---





## 第 14 章

# カレンダーの統合

この章では、サードパーティの統合について説明します。

### Google カレンダーの統合

Google カレンダーとの統合により、Google アカウントで Cisco Spaces に接続できます。これにより、会議室の予約情報が同期されます。Cisco Spaces デジタルサイネージは、Google カレンダーの予約情報を使用して、コンテキストに乏しい従来の会議室のリストではなく、マップベースの直感的なアプローチで利用可能な会議室を表示できます。

### Office 365 予定表統合

Office 365 カレンダーを統合することで、Microsoft アカウントを Cisco Spaces に紐づけて、会議室のブッキング情報を同期できます。Cisco Spaces デジタルサイネージは、Office 365 カレンダー予約情報を取り込んで、マップベースのインターフェイスを使用して利用可能な部屋に簡単にアクセスし、可視化できます。この方法では、従来型の部屋リストよりも状況がわかりやすく、使いやすいエクスペリエンスが提供されます。

- [カレンダー GUI の統合 \(109 ページ\)](#)
- [Google カレンダーの統合 \(109 ページ\)](#)
- [Office 365 カレンダーの統合 \(111 ページ\)](#)

## カレンダー GUI の統合

Microsoft 365 カレンダーの統合機能が Cisco Spaces で導入されました。この機能を活用して、Microsoft 365 カレンダーアカウントを Cisco Spaces アプリケーションに接続し、Cisco Spaces ダッシュボード [Menu > Integrations] で統合された予定表の詳細を表示します。

インポートされた予定表が Cisco Spaces : Space Manager (スペースマネージャ) アプリケーションに表示されます。

## Google カレンダーの統合

Google カレンダーの統合により、Google アカウントを Cisco Spaces と連携し、会議室の予約情報を同期できます。Cisco Spaces デジタルサイネージを使用すると、コンテキストのない従来

のリストではなく、直感的にわかるマップにより利用可能な部屋を簡単に確認できます。この統合により、使いやすいデジタルサイネージアプリケーションでダイナミックな予定表データが表示されるため、会議室が有効活用できます。

## 手順

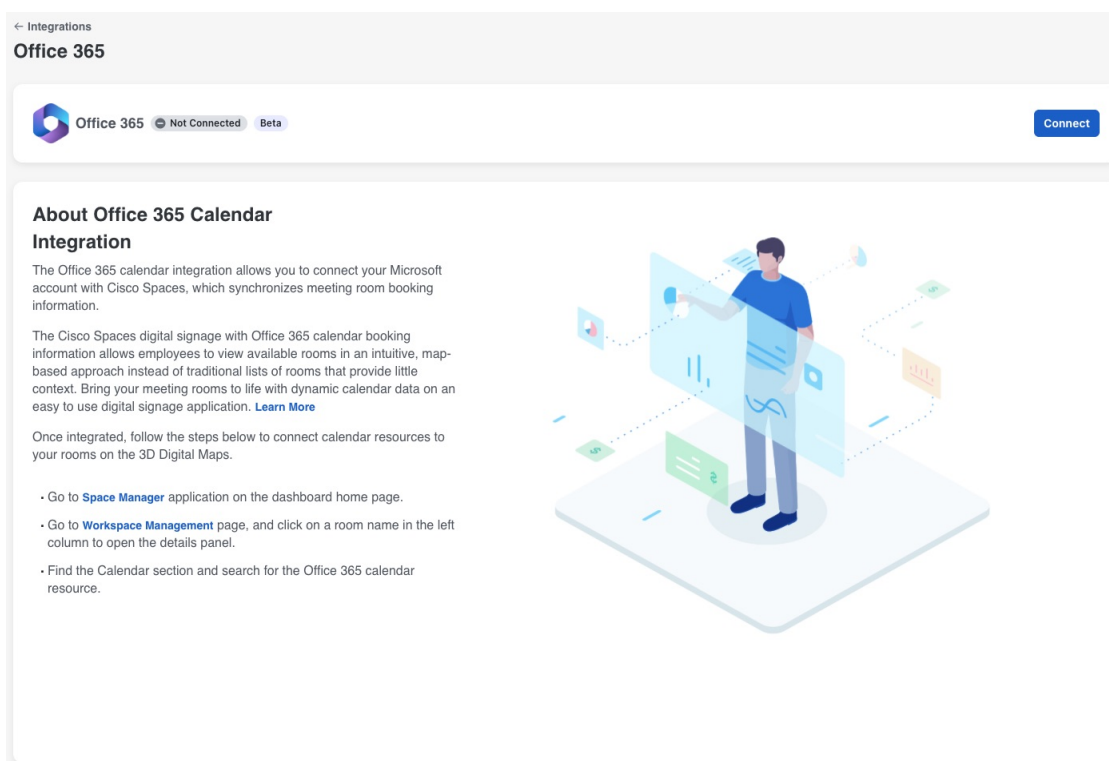
**ステップ 1** Cisco Spaces にログインします。

Cisco Spaces **[Home]** ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 左上の隅から、**[Menu]** アイコン (☰) をクリックし、**[Integrations > Google Calendar Integrations]** を選択します。

**[Google Calendar Integrations]** ウィンドウが表示されます。

図 19: Google カレンダーの統合



**ステップ 3** **[Connect]** をクリックします。

**ステップ 4** **[Sign in - Google Accounts]** ポップアップウィンドウで、Google アカウントのログイン情報を入力します。

記載されている **[Sign in - Google Accounts]** ポップアップウィンドウからカレンダー予約を利用できる有効な Google アカウントを選択していることを確認してください。

**ステップ 5** アカウントを確認したら、**[Proceed]** をクリックします。

**ステップ 6** **[Go to dnspaces.io > Continue]** をクリックして、Google アカウントを Cisco Spaces と統合します。

「Calendar integration is successfull (カレンダーの統合に成功しました)」とのメッセージが表示されます。

**ステップ 7** 統合された Google カレンダーの詳細は、[My Integrations] エリアで、接続されたリソース数とともに表示されます。緑色のチェックマークは、統合が成功したことを示します。

統合されたカレンダーは、Cisco Spaces : Smart Workspaces アプリケーションで使用できます。

- Google カレンダーの統合を削除するには、タイルビューで [Remove] をクリックします。
- 現在のアカウント統合を切断するには、[Disconnect] をクリックし、指示に従います。

---

### 次のタスク

3D デジタルマップで予定表のリソースを部屋に正常に接続するには、次の手順を実行します。

1. **Cisco Smart Workspaces** アプリケーションに移動します。
2. [Workspace Management] ウィンドウに進み、左側の列からルーム名を選択して [Details] パネルにアクセスします。
3. [Details] パネルから、[Calendar] エリアに移動し、Google カレンダーリソースを検索します。

## Office 365 カレンダーの統合

Office 365 カレンダーを統合すると、Microsoft アカウントを Cisco Spaces とシームレスに接続でき、その結果、会議室の予約情報が同期されます。Cisco Spaces デジタルサイネージを Office 365 カレンダーの予約情報と組み合わせて使用すると、利用可能な部屋を表示するためのユーザーフレンドリで直感的なマップベースのアプローチが提供されます。このアプローチは、状況がわかりにくい従来の部屋のリストよりも非常に効果的です。使いやすいデジタルサイネージアプリケーションでダイナミックな予定表データを用いて、会議室を有効活用できます。

### 手順

---

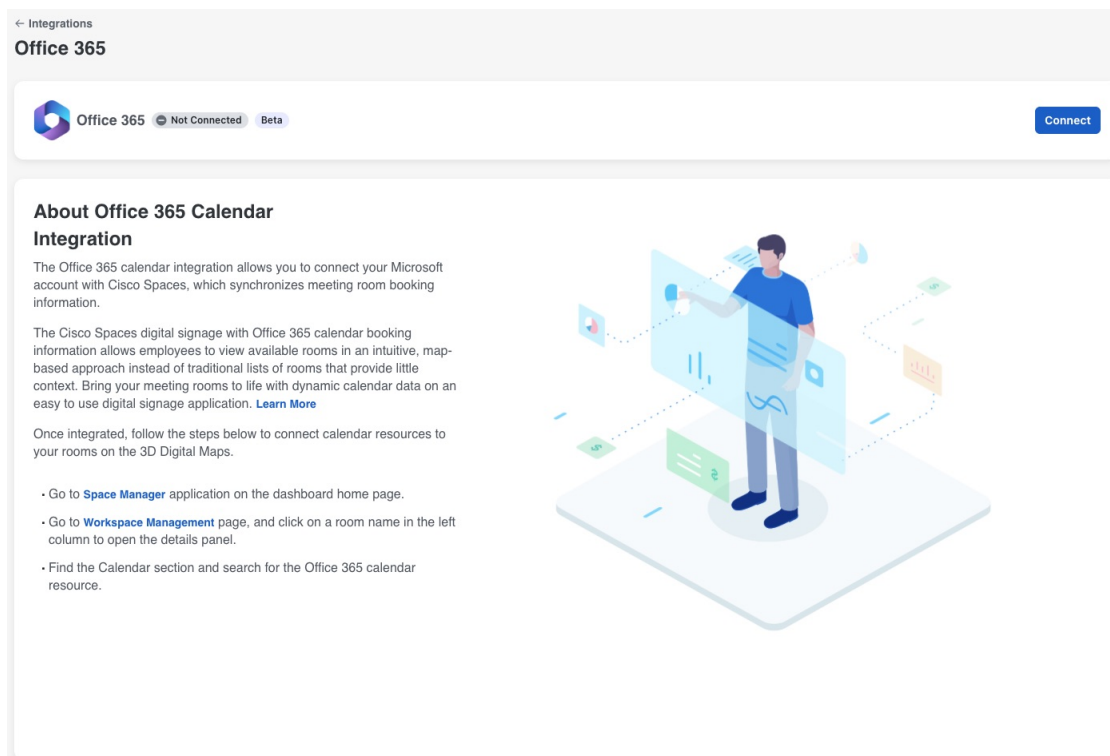
**ステップ 1** Cisco Spaces にログインします。

Cisco Spaces [Home] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 左上の隅から、[Menu] アイコン (☰) をクリックし、[Integrations > Office 365] を選択します。

[Integrations Office 365] ウィンドウが表示されます。

図 20: Office 365 の統合



**ステップ 3** [Connect] をクリックします。

**ステップ 4** 画面の指示に従って、Office 365 アカウントのログイン情報を入力して、Office 365 カレンダーを統合します。

**ステップ 5** アカウントを検証したら、[Proceed] をクリックします。

**ステップ 6** [Go to dnspaces.io > Continue] をクリックして、office 365 アカウントを Cisco Spaces と統合します。

「Calendar integration is successfull (カレンダーの統合に成功しました)」とのメッセージが表示されます。

**ステップ 7** 統合された Office 365 カレンダーの詳細は、[My Integrations] エリアで、接続されたリソース数とともに表示されます。緑色のチェックマークは、統合が成功したことを示します。

統合されたカレンダーは、Cisco Spaces : Smart Workspaces アプリケーションで使用できます。

- Office 365 カレンダーを削除するには、タイルビューで [Delete] をクリックします。
- 現在のアカウント統合を切断するには、[Disconnect] をクリックし、指示に従います。

## 次のタスク

3D デジタルマップで予定表のリソースを部屋に正常に接続するには、次の手順を実行します。

1. **Cisco Smart Workspaces** アプリケーションに移動します。
2. **[Workspace Management]** ウィンドウに進み、左側の列からルーム名を選択して **[Details]** パネルにアクセスします。
3. **[Details]** パネルから、**[Calendar]** エリアに移動し、Google カレンダーリソースを検索します。





## 第 **VIII** 部

### 設定 (**Configure**)

- [通知 \(117 ページ\)](#)





## 第 15 章

### 通知

---

- [通知設定の概要 \(117 ページ\)](#)
- [カテゴリの管理 \(118 ページ\)](#)
- [サブスクライバの管理 \(119 ページ\)](#)

### 通知設定の概要

Cisco Spaces の **[Notifications]** 機能を使用すると、サブスクライバ通知 (**[Configure > Notifications]**) を設定し、重大なインシデントに関する通知を受信できます。Cisco Spaces プラットフォームでインシデントが発生したときに電子メール通知を受信するには、この機能を有効にします。

サブスクライバの通知は、Cisco Spaces クラウドまたはロケーションの問題に関する更新を提供し、タイムリーに対処するのに役立ちます。



- (注) この機能は、管理者アクセス（読み取り専用および読み取り/書き込み）を持つすべてのユーザーが使用できます。

The screenshot shows the 'Subscribers' tab in the Cisco Spaces interface. The page title is 'Notification subscribers'. Below the title, there is a search bar and a table with the following columns: Subscriber, Scheduled Maintenance, Platform/Service Outage Alerts, Network Connectivity..., Incoming Data Alerts, and Onboarding Failure. The table contains 10 rows of data, each with a checkbox in the Subscriber column and checkmarks in the other columns. A blue square is visible in the Subscriber column of the third row.

次のタブを使用します。

- **[Manage Categories]** : 読み取り/書き込みアクセスを持つ管理者の場合は、**[Configure > Notifications > Manage Categories]** に移動して、アカウントのサブスクライバ通知を設定します。
- **[Subscribers]** : サブスクライバを管理するには、**[Subscribers]** タブ (**Configure > Notifications > Subscribers**) に移動します。

すべての管理者およびサブスクライバは、アカウントに対して有効になっているカテゴリに基づいて通知を受信します。

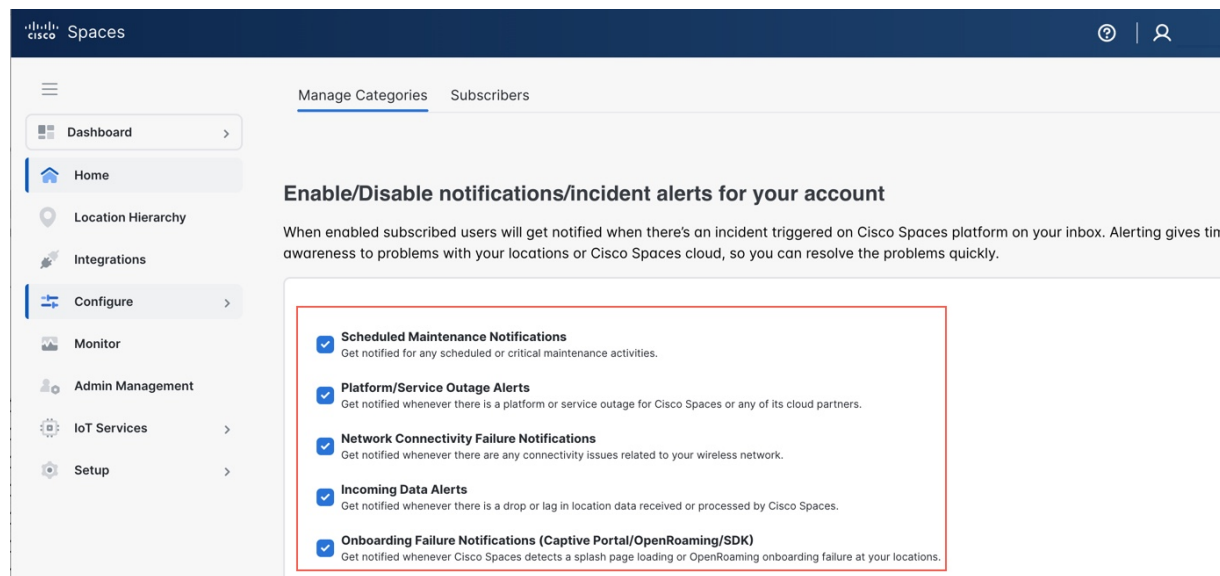
## カテゴリの管理

**[Manage Categories]** タブでは、通知を有効にするために使用できるカテゴリを選択できます。アカウントの通知とインシデントアラートの有効化または無効化に使用できるカテゴリを使用します。

次に、[Manage Categories] タブ内のカテゴリを示します。

- **[Scheduled Maintenance Notifications]** : スケジュール設定済みまたはクリティカルなメンテナンスアクティビティがある場合に通知を受けるには、**[Scheduled Maintenance Notifications]** チェックボックスをオンにします。
- **[Platform/Service Outage Alerts]** : **[Platform/Service Outage Alerts]** チェックボックスをオンにして、Cisco Spaces プラットフォームまたはサービス障害、またはそのクラウドパートナーのいずれかに障害が発生するたびに通知を受けます。
- **[Network Connectivity Failure Notifications]** : ワイヤレスネットワークに関連する接続の問題がある場合に通知を受信するには、**[Network Connectivity Failure Notifications]** チェックボックスをオンにします。
- **[Incoming Data Alerts]** : Cisco Spaces で受信または処理されたロケーションデータにドロップまたは遅延がある場合に通知を受けるには、**[Incoming Data Alerts]** チェックボックスをオンにします。

図 21 : 通知カテゴリ



通知を有効にすると、サブスクリバは、Cisco Spaces プラットフォームでインシデントがトリガーされるたびにメールボックスで通知を受信します。アラートは、ロケーションまたは Cisco Spaces クラウドの問題を適切なタイミングで提供することで、問題を迅速に解決できます。

## サブスクリバの管理

[Subscribers] タブでは、サブスクリバを追加または編集できます。Cisco Spaces プラットフォームでインシデントがトリガーされるたびにメールボックスで通知を受信するサブスクリバを追加または削除できます。

デフォルトでは、すべての Cisco Spaces 管理者がアカウントで有効になっているすべてのカテゴリの通知を受信します。[Add Subscriber] ボタンをクリックすることで、特定の管理者をオプトアウトしたり、新しいサブスクライバをリストに追加したりできます。

[Notification subscribers] ウィンドウの [Search] フィールドを使用して、サブスクライバを検索します。

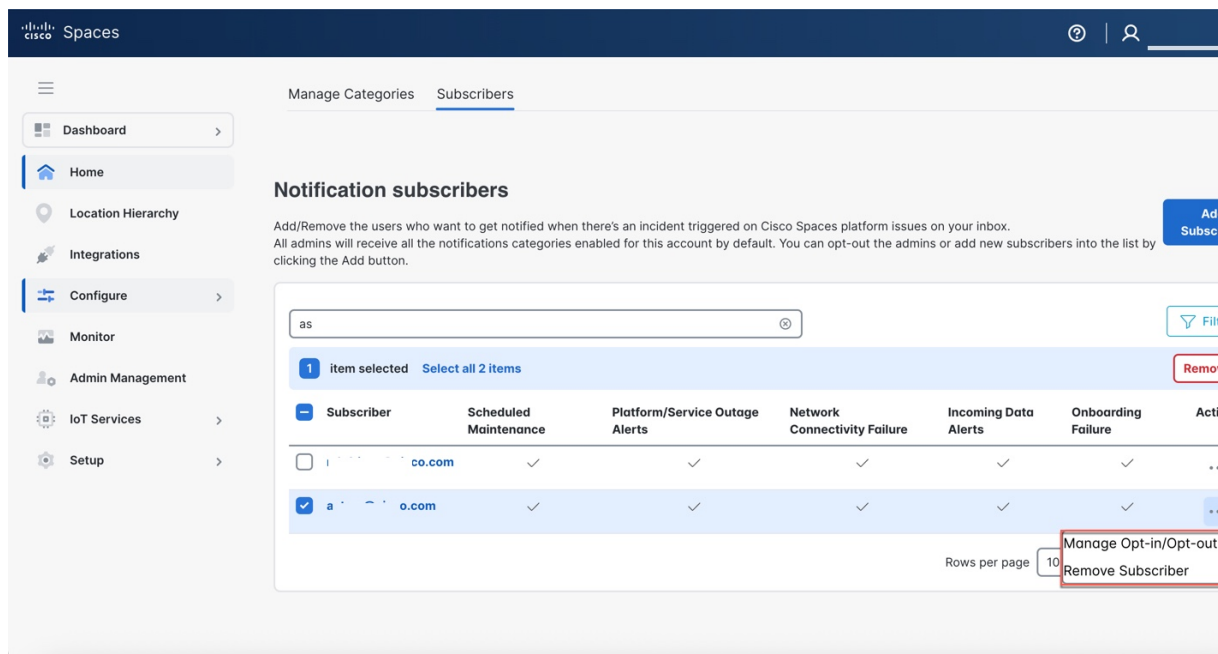
### サブスクライバの詳細

表に、サブスクライバに関する詳細情報が表示されます。

表 9: サブスクライバの詳細

フィールド	説明
サブスクライバ	サブスクライバの電子メールアドレス
定期メンテナンス	チェックマークは、この通知カテゴリがサブスクライバに対して有効になっていることを示します。
プラットフォーム/サービス障害アラート	チェックマークは、この通知カテゴリがサブスクライバに対して有効になっていることを示します。
ネットワーク接続障害	チェックマークは、この通知カテゴリがサブスクライバに対して有効になっていることを示します。
着信データアラート	チェックマークは、この通知カテゴリがサブスクライバに対して有効になっていることを示します。
オンボーディングに失敗しました	チェックマークは、この通知カテゴリがサブスクライバに対して有効になっていることを示します。
処理	<p>[Action] 列の下にある3つのドットをクリックして、次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>通知カテゴリの<b>オプトイン</b>または<b>オプトアウト</b>を管理する</li> <li>サブスクライバを削除する。</li> </ul> <p>(注) 読み取りおよび書き込みアクセスを持つ管理者は、通知カテゴリを<b>オプトイン</b>または<b>オプトアウト</b>し、サブスクライバを削除することができます。</p>

図 22:通知サブスクリバ



## サブスクリバの追加

アラートリストにサブスクリバを追加する必要があります。Cisco Spaces プラットフォームでトリガーされたインシデントがある場合、登録しているユーザーにのみ通知されます。

新しいサブスクリバを追加するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** Cisco Spaces にログインします。

Cisco Spaces **[Home]** ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 左上の隅から、**[Menu]** アイコン (☰) をクリックし、**[Configure > Notifications > Subscribers]** を選択します。

**ステップ 3** **[Add Subscriber]** をクリックします。

図 23: サブスクライバの追加

**Add new user to the alert list** ×

Email  
i@cisco.com

**Choose the types of alerts**

Get notified when there's an incident triggered on Cisco Spaces platform issues on your inbox. Alerting gives timely awareness to problems with your locations or Cisco Spaces cloud, so you can resolve the problems quickly.

**Scheduled Maintenance Notifications**  
Get notified for any scheduled or critical maintenance activities.

**Platform/Service Outage Alerts**  
Get notified whenever there is a platform or service outage for Cisco Spaces or any of its cloud partners.

**Network Connectivity Failure Notifications**  
Get notified whenever there are any connectivity issues related to your wireless network.

**Incoming Data Alerts**  
Get notified whenever there is a drop or lag in location data received or processed by Cisco Spaces.

Add

[Add new user to the alert list] スライドインウィンドウが表示されます。

**ステップ 4** [Email] フィールドに、新規サブスクライバのメールアドレスを入力します。

**ステップ 5** 必要な [Notification Categories] のチェックボックスをオンにします。

オプトインすると、5つの通知カテゴリの通知とインシデントアラートを受信できます。複数のカテゴリを選択できます。

**ステップ 6** [Add] をクリックします。

新しいユーザーが通知サブスクライバリストに追加されます。

#### 次のタスク

[Notification subscribers] ウィンドウには、新しいサブスクライバの詳細が表示されます。  
[Actions] 列を使用して、サブスクリプションを管理します。



## 第 **IX** 部

# モニター

- [モニタリングとサポート \(125 ページ\)](#)





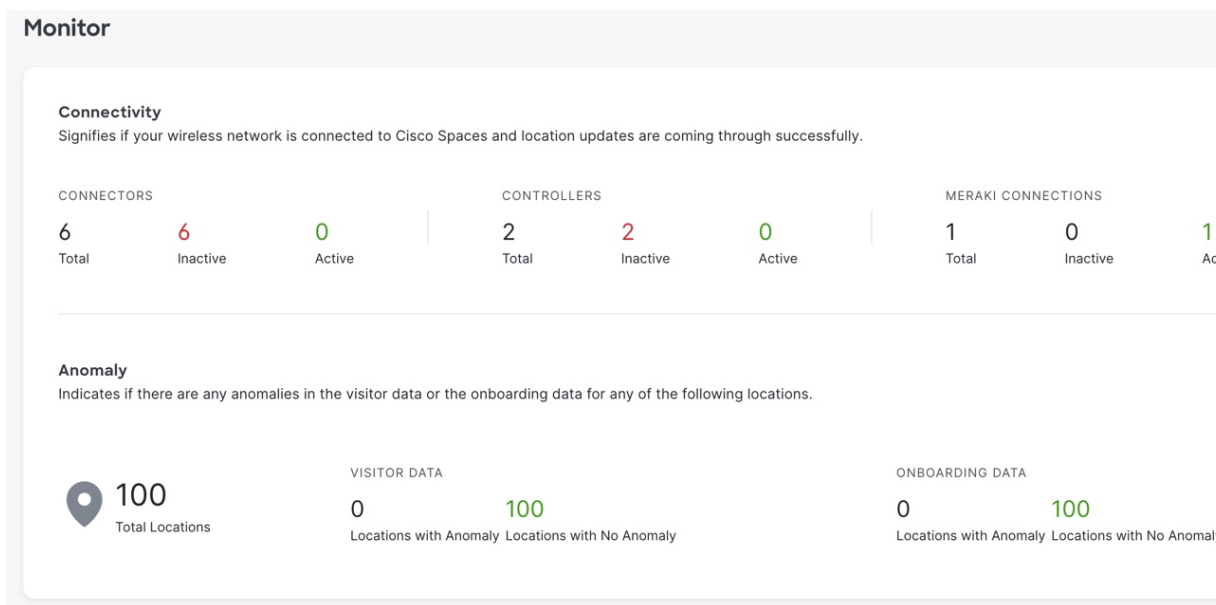
## 第 16 章

# モニタリングとサポート

この章では、Cisco Spaces に表示されるモニタリングの詳細について説明します。

[**Monitor**] ウィンドウにアクセスするには、**Cisco Spaces** ダッシュボードで、左上の 3 本線のメニューアイコンをクリックし、[**Monitor**] を選択します。

図 24: モニタ (**Monitor**)

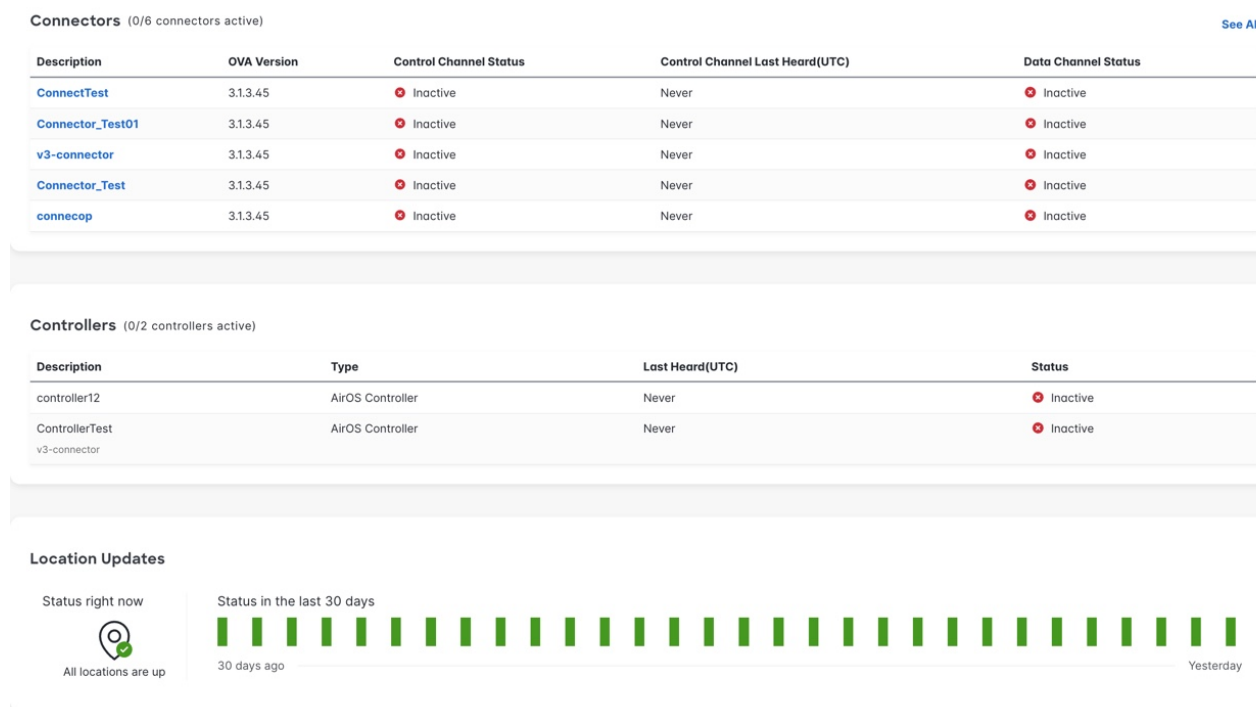


- [モニター \(125 ページ\)](#)

## モニター

Cisco Spaces の正常性の詳細とパフォーマンスメトリックをモニターするには、[**Monitor**] 機能を使用します。

図 25: 監視



## 次の詳細の表示

- **[Connectivity]** : ワイヤレスネットワークがCisco Spacesに接続されており、ロケーションの更新が正常に行われているかどうかを示します。コネクタ、コントローラ、およびMeraki接続の詳細を表示します。
- **[Anomaly]** : ロケーションの更新とインターネットプロビジョニングの現在のステータスを表示します（これは、キャプティブポータルを介した顧客獲得を設定した場合にのみ該当します）。ロケーションの更新とインターネットプロビジョニングがすべてのロケーションで問題なく行われている場合、このセクションは「up」とマークされます。いずれかのロケーションでこのどれも発生していない場合、ステータスは「down」になります。ロケーションの更新とインターネットプロビジョニングの両方がロケーションで行われていない場合、そのロケーションがリストに表示されます。
- **[Connectors]** : アクティブなコネクタを表示します。アクティブなコネクタの説明、OVAバージョン、制御チャンネルステータス、制御チャンネル最終検知（UTC）、およびデータチャンネルステータスを表示します。
- **[Controllers]** : アクティブなコントローラを表示します。アクティブなコントローラの説明、タイプ、最終検知（UTC）、およびステータスを表示します。
- **[Location Updates]** : アクセスできるロケーションの現在のロケーション更新ステータスを表示します。すべてのロケーションからロケーションの更新を受信した場合、このセクションは「up」とマークされ、ステータスは**All Locations Connected**になります。ロケー

ションの更新に問題がある場合、このセクションは「down」とマークされ、ロケーションの更新に問題があるロケーションの総数が表示されます。





## 第 **X** 部

# 管理者管理

- [Cisco Spaces のユーザーとアカウントの管理 \(131 ページ\)](#)





## 第 17 章

# Cisco Spaces のユーザーとアカウントの管理

---

この章では、Cisco Spaces ユーザーおよびアカウントを招待および管理する方法について説明します。

- [Cisco Spaces ユーザーの管理](#) (131 ページ)
- [Cisco Spaces アカウントの管理](#) (135 ページ)
- [ロケーションベースの RBAC](#) (136 ページ)

## Cisco Spaces ユーザーの管理

Cisco Spaces では、ユーザーが実行するロールに基づいて、ユーザーにさまざまな権限が付与されます。

Cisco Spaces ダッシュボードでは、**[Menu]** アイコン (☰) をクリックし、**[Admin Management]** を選択して、管理ユーザーを管理し、ロールを作成します。

次のタブを使用できます。

- **[Admins]** : **[Admins]** タブを使用して Cisco Spaces ユーザーを表示し、新しい管理者を招待します。
- **[Search]** フィールドを使用して、既存のユーザーを検索します。
- **[Roles]** : **[Roles]** タブを使用してロールを検索し、新しいロールを作成して管理します。

## Cisco Spaces ユーザーの招待

Cisco Spaces アカウントが作成されると、提供された電子メール ID を持つアカウントに対して **[Dashboard Admin Role]** ユーザーが作成されます。この **[Dashboard Admin]** は、他のユーザーを Cisco Spaces に招待できます。

Cisco Spaces は、デフォルトのユーザーロールである Dashboard Admin Role のみを提供します。

Cisco Spaces は、さまざまなアプリケーションに対して異なるアクセス権を持つユーザーロールを定義できます。

使用アカウントで特定のサービスが有効になっている場合は、ユーザーロールに次のロールタイプ（アプリケーション）を含めることができます。

- **Cisco Spaces** : このロールタイプは、**Cisco Spaces** アプリケーションへのアクセス権を提供します。
- **[Location Analytics]** : このロールタイプは、**Location Analytics** アプリへのアクセス権を提供します。
- **Live Occupancy** : このロールタイプは、**ライブ占有アプリケーション**へのアクセス権を提供します。
- **Detect and Locate** : このロールタイプは、**検出と位置特定アプリケーション**へのアクセス権限を提供します。
- **IoT Services** : このロールタイプは、**IoT サービスアプリケーション**へのアクセス権を提供します。
- **Space Manager** : このロールタイプは、**Space Manager** アプリケーションへのアクセス権限を提供します。
- **Space Experience** : このロールタイプは、**Space Experience** アプリケーションへのアクセス権限を提供します。
- **Space Utilization** : このロールタイプは、**スペースの使用状況アプリケーション**へのアクセス権を提供します。



- (注)
- Catalyst Center から Cisco Spaces への重複ペイロードのインポートが制限されます。[Import History] セクションに、次のエラーメッセージが表示されます。「Warning: Import ignored due to no changes in request payload (警告: リクエストペイロードに変更がないためインポートは無視されます)」。
  - Dashboard Admin ロールの場合、Location Analytics へのアクセスはデフォルトで提供されます。他のロールについては、アクセスを個別に割り当てる必要があります。ただし、**[Location Analytics]**のロールへの割り当ては、**[Cisco Spaces]**サービスの割り当てと同時に行う必要があります。たとえば、**Location Analytics** への読み取りおよび書き込みアクセスと、**Cisco Spaces** への読み取り専用アクセスを持つロールを作成できます。[Location Analytics] タイルは、Cisco Spaces ユーザーアカウントが **[Location Analytics]** へのアクセス権を持たない場合に無効になります。

Cisco Spaces ユーザーを招待するには、次の手順に従ってください。

## 手順

- 
- ステップ 1** Cisco Spaces ダッシュボードで、[Menu] アイコン (☰) をクリックし、[Admin Management > Admins] タブを選択します。
- ステップ 2** [Invite Admin] をクリックします。
- ステップ 3** [Invite Admin] ウィンドウで、次の詳細を入力します。
- [Email] フィールドで、追加するユーザーの電子メールアドレスを入力します。
  - [Role Name] ドロップダウンリストから、このユーザーに提供するユーザーロールを選択します。
    - デフォルトのユーザーロール、および以前に定義したユーザーロールが、ドロップダウンリストに表示されます。必要なユーザーロールがない場合は、[Create New Role] を使用してユーザーロールを定義できます。
    - [Create New Role] をクリックして新しいユーザーロールを作成します。ユーザーロールの作成の詳細については、「[ユーザーロールの作成 \(133 ページ\)](#)」を参照してください。定義されているすべてのユーザーロールが [Roles] タブに一覧表示されます。
    - ロール名を選択すると、権限タイプとアプリケーションの詳細が [Invite Admin] ウィンドウの下部に表示されます。
- ステップ 4** 選択したロールを特定の場所に制限する場合は、[Restrict this role to specific locations] チェックボックスをオンにします。
- [Add Locations] をクリックします。
  - [Choose Locations] ウィンドウで、ロケーション階層から必要なロケーションに対してチェックボックスをオンにします。選択されたロケーションが [Selected Locations] エリアに表示されます。
  - [Done] をクリックします。
- ステップ 5** [Invite] をクリックします。
- [Invite Admin] オプションは、読み取りおよび書き込み権限を持つ Cisco Spaces 管理者のみが使用できます。

## ユーザーロールの作成

Cisco Spaces のユーザーロールを作成するには、次の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1** Cisco Spaces ダッシュボードで、[Menu] アイコン (☰) をクリックし、[Admin Management > Roles > tab] を選択します。

(注)

[Invite Admin] ウィンドウの [Role Name] ドロップダウンリストで [Create New Role] をクリックする方法もあります。

**ステップ 2** [Create Role] をクリックします。

**ステップ 3** [Create New Role] スライドインウィンドウで、次の詳細を入力します。

- a) [ROLE NAME] フィールドに、ユーザーロールの名前を入力します。
- b) [APPS] エリアで、このユーザーロールに提供するロールタイプのチェックボックスをオンにします。  
ロールタイプ (アプリケーション) の詳細については、[Cisco Spaces ユーザーの招待 \(131 ページ\)](#) で説明されているロールタイプを参照してください。
- c) 各ロールタイプに表示されるドロップダウンリストから、特定のユーザーロールに付与するアクセス権を選択します。  
アクセス権を [Read Only] または [Read/Write] に設定することができます。

**ステップ 4** [Restrict this role to specific locations] チェックボックスをオンにして、ロールのアクセスを特定の場所に制限します。

[+ Add Locations] オプションが表示されます。

**ステップ 5** [+ Add Locations] をクリックしてロケーションを選択します。

- a) [Choose Locations] スライドインウィンドウで、ロケーションに対するチェックボックスをオンにします。選択されたロケーションが [Selected Locations] ペインに表示されます。
- b) [更新 (Update) ] をクリックします。

**ステップ 6** [Create Role] をクリックします。

[Invite Admin] ウィンドウの [Role Name] ドロップダウンリストにユーザーロールが表示されるようになります。

---

## Cisco Spaces ユーザーの編集

「読み取り」および「書き込み」権限を持つダッシュボード管理ユーザーは、ユーザーのユーザーロールを変更できます。たとえば、ダッシュボード管理者の「読み取り」は、ダッシュボード管理者の「読み取り」および「書き込み」ユーザーに昇格できます。

Cisco Spaces ユーザーのユーザー権限を変更するには、次の手順を実行します。

### 手順

---

**ステップ 1** Cisco Spaces ダッシュボードで、[Menu] アイコン (☰) をクリックし、[Admin Management] を選択します。

[Admin] ウィンドウには、Cisco Spaces ユーザーの電子メール ID のリストが表示されます。

ステップ2 編集するユーザーの横にある（右端にある）3つのドットをクリックします。

ステップ3 [Edit User] をクリックします。

[Edit User] ウィンドウが表示されます。

ステップ4 [Role Name] ドロップダウンリストから、ユーザーに付与するアクセスのタイプを選択します。

デフォルトのユーザーロール、および以前に定義したユーザーロールが、選択用のドロップダウンリストに表示されます。必要なユーザーロールがない場合は、[Create New Role] を使用してユーザーロールを定義できます。ユーザーロールの作成の詳細については、「[ユーザーロールの作成（133 ページ）](#)」を参照してください。

ステップ5 [Update] をクリックします。

---

## Cisco Spaces ユーザーの削除

あるユーザーが Cisco Spaces にアクセスする必要がなくなった場合は、そのようなユーザーを Cisco Spaces のユーザーリストから削除することを推奨します。

管理者権限を持つユーザーはすべて、他のユーザーを削除できます。

既存の Cisco Spaces ユーザーを削除するには、次の手順を実行します。

### 手順

---

ステップ1 Cisco Spaces ダッシュボードで、[Menu] アイコン（☰）をクリックし、[Admin Management] を選択します。

[Admin] ウィンドウには、Cisco Spaces ユーザーのリストが表示されます。

ステップ2 編集するユーザーの横にある（右端にある）3つのドットをクリックします。

ステップ3 [Remove] をクリックします。

複数のユーザーを削除するには、対応する電子メールIDのチェックボックスを選択し、ウィンドウの右上に表示される [Remove] オプションをクリックします。

---

## Cisco Spaces アカウントの管理


ここでは、Cisco Spaces アカウントを管理する方法について説明します。

## Cisco Spaces からのサインアウト

Cisco Spaces からサインアウトするには、次の手順を実行します。

### 手順

---

**ステップ 1** Cisco Spaces ダッシュボードで、ダッシュボードの右端に表示される [User Account] アイコン () をクリックします。

**ステップ 2** [Logout] をクリックします。

---

## ロケーションベースの RBAC

ロールベースアクセスコントロール (RBAC) は、特定の場所をサポートするように拡張されました。[Restrict this role to specific locations] オプションを使用して、ロールの作成中 ([Admin Management] > [Roles] > [Create Role]) およびユーザーの招待フロー中 ([Admin Management] > [Invite Admin]) に特定の場所をサポートします。



## 第 **XI** 部

### IoT サービス

- [IoT サービス \(137 ページ\)](#)
- [Cisco Spaces : IoT サービス \(ワイヤレス\) 展開の前提条件 \(137 ページ\)](#)
- [IoT サービス \(ワイヤレス\) の機能 \(138 ページ\)](#)

### IoT サービス

---

Cisco Spaces : IoT サービス (ワイヤレス) は、Cisco Spaces 内のプラットフォームであり、シスコのワイヤレスインフラストラクチャを使用して IoT デバイスの要求、管理、および監視できます。複数のベンダーとプロトコルをサポートしていますが、初期は Bluetooth Low Energy (BLE) に焦点が当てられます。このサービスでは、ハードウェア、ソフトウェア、およびパートナーソリューション (Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ、Cisco Spaces: コネクタ、Cisco Wi-Fi 6 アクセスポイント、および Cisco Spaces を含む) を統合し、複雑な企業環境での IoT デバイス管理を簡素化します。

### Cisco Spaces : IoT サービス (ワイヤレス) 展開の前提条件

---

Cisco Spaces : IoT サービス (ワイヤレス) を正常に展開するには、ご使用の環境が次の前提条件を満たしていることを確認します。

- **ライセンス** : アカウントに、IoT サービスに必要な Cisco Spaces ライセンスがあることを確認します。
- **Spacesコネクタ**
  - Spaces コネクタバージョン 3.0 以降が必要です。
  - コネクタがアクティブであり、バージョン要件を満たしていることを確認します。
- **ワイヤレスコントローラ** : ソフトウェアリリース 17.3.1 以降の Cisco Catalyst 9800 ワイヤレスコントローラ が必要です。
- **アクセスポイント/スイッチ**
  - 互換性のあるシスコ AP またはスイッチが存在する必要があります。
  - Cisco Spaces で IoT サービスをアクティブにして、詳細な互換性情報を表示します。



---

(注) IoTサービスを展開する前に、すべてのコンポーネントが存在し、アクティブであり、バージョン要件を満たしていることを確認します。

アップグレードまたは展開のサポートが必要な場合は、[cisco-spaces-support@external.cisco.com](mailto:cisco-spaces-support@external.cisco.com) までお問い合わせください。

---

## IoT サービス（ワイヤレス）の機能

---

**[IoT Service]** 機能を使用して、IoT ゲートウェイ（AP ゲートウェイおよび有線ゲートウェイ）を管理し、デバイスを管理し、それらを監視します。



## 第 **XII** 部

### 設定

- [ワイヤレスネットワークのセットアップ \(141 ページ\)](#)
- [ロケーションとマップを設定する \(151 ページ\)](#)





## 第 18 章

# ワイヤレスネットワークのセットアップ

この章では、多様なワイヤレスネットワークと連動するように Cisco Spaces を設定する方法と、さまざまな方法でこれらのネットワークを設定する方法について説明します。

- [さまざまなワイヤレスネットワークで機能するための Cisco Spaces の設定 \(141 ページ\)](#)
- [ワイヤレスネットワークバー \(143 ページ\)](#)
- [Meraki API キーメソッドのセットアップ \(147 ページ\)](#)
- [ワイヤレス ネットワーク ステータス \(149 ページ\)](#)

## さまざまなワイヤレスネットワークで機能するための Cisco Spaces の設定

次のオプションに基づいて、ワイヤレスネットワークを使用して Cisco Spaces をセットアップできます。

- Cisco AireOS ワイヤレスコントローラ
- Cisco Catalyst 9800 ワイヤレスコントローラ
- Cisco Meraki

### 手順

**ステップ 1** Cisco Spaces にログインします。

**ステップ 2** [Home] ページで、左側のナビゲーションペインから、[Setup > Wireless Networks] を選択します。

**ステップ 3** [Connect your wireless Network] ウィンドウで、[Add New] をクリックします。

[Connect your wireless Network] ウィンドウが表示され、[AireOS Controller/Catalyst 9800 Wireless Controller] および [Cisco Meraki] オプションが表示されます。

- [AireOS Controller/Catalyst 9800 Wireless Controller] の場合、次の設定が利用可能です:

- **[Via Spaces Connector]** : Cisco Spaces : コネクタ を使用して Cisco Spaces を シスコ ワイヤレス コントローラに接続します。
- **[Connect Cisco Wireless Controllers directly]** : Cisco Spacesをワイヤレスコントローラに直接接続します。
- **[Connect via CMX Tethering]** : Cisco CMX を使用して Cisco Spaces をシスコ ワイヤレス コントローラに接続します。
- **[Cisco Meraki]** の場合、次の設定を使用できます。
  - **[Connect via API Key]** : Cisco Meraki API キーを使用して Cisco Spaces を Cisco Meraki に接続します。

[Meraki] ダッシュボードにログインし、**[Account Name] > [My Profile] > [API Access]** セクションを選択し、**[Generate]** をクリックして API キーを生成します。このキーを Cisco Spaces ダッシュボードの **[Connect via API Key]** フィールドに入力して、ネットワークを Cisco Spaces に追加します。詳細については、[Meraki API キーメソッドのセットアップ \(147 ページ\)](#) を参照してください。

(注)

新しい Cisco Spaces アカウントの場合は、**[Get Started]** オプションをクリックします。

**ステップ 4** **[Select]** をクリックして、Cisco Spaces に接続するときの優先方式を選択します。

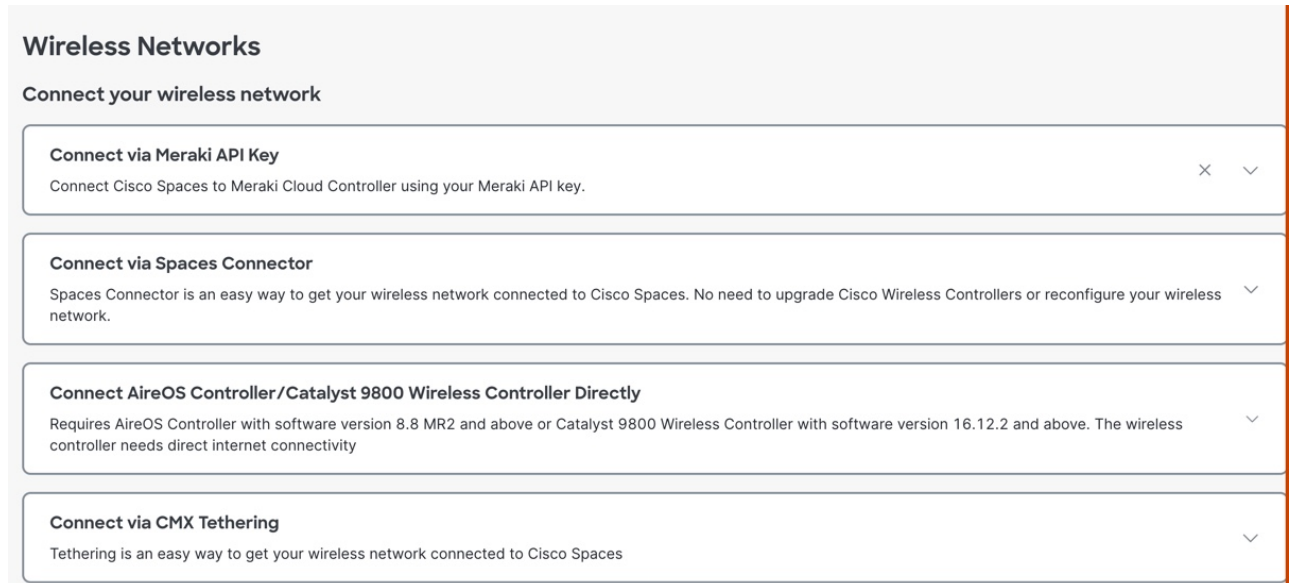
選択したメソッド方法でワイヤレスネットワークに接続するための前提条件が表示されます。

**ステップ 5** **[Customize Setup]** をクリックします。

次のメッセージが表示されます。「Successfully saved the configuration (設定が正常に保存されました)」。

**ステップ 6** 選択したワイヤレスネットワークの設定メソッドに対応するバーが、**[Connect your wireless network]** ウィンドウに表示されます。たとえば、**[Via Spaces Connector]** を選択すると、**[Connect via Spaces Connector]** バーが表示されます。

図 26: 接続済みワイヤレスネットワーク



**ステップ 7** 手順を表示し、ワイヤレスネットワークを設定するには、バーの右端にあるドロップダウンボタンをクリックします。

さまざまな方法を使用して優先ワイヤレスネットワークに接続する手順と機能が表示されます。

**ステップ 8** 画面の指示に従ってワイヤレスネットワークを追加します。

## ワイヤレスネットワークバー

ワイヤレスネットワークを Cisco Spaces に接続するには、[Setup > Wireless Networks > Connect your wireless network] ウィンドウで使用可能なオプションを使用します。

図 27: ワイヤレス ネットワーク

## Connect your wireless network

## What type of wireless network do you have?

Cisco Spaces works with most Cisco wireless networks including Cisco Meraki.

<p><b>AireOS Controller/Catalyst 9800 Wireless Controller</b></p> <p>Choose this for Cisco Aironet Access Points with Cisco Wireless Controllers or CMX On-Prem Tethering.</p> <p>Select</p>	<p><b>Cisco Meraki</b></p> <p>Choose this for Cisco Meraki networks with Meraki Access Points</p> <p>Select</p>
--	---

選択内容に基づいて、Cisco Meraki に対して以下のタブが表示されます。

- **[Connect via Meraki API Key]** : このオプションを使用して、Cisco Spaces を Cisco Meraki クラウドコントローラに Cisco Meraki API キーを使用して接続します。画面の指示に従って、**[Import Networks]** オプションを使用して、Cisco Meraki 組織と関連する子ロケーションをロケーション階層にインポートします。



(注) Meraki を Cisco Spaces に接続するには、**[Connect via API Key]** を使用することを推奨します。

次の手順を実行します。

1. **[Connect your Meraki]** : API キーを使用して Cisco Meraki を Cisco Spaces に接続します。
2. **[Configure Meraki scanning API]** : Cisco Meraki スキャン API は、ネットワークをロケーション階層にインポートした後に自動的に設定されます。



(注) 手動で設定する場合は、**[Post URL]** と URL バリデータおよび **[Secret Key]** を使用して、Cisco Meraki ダッシュボードで手動で検証し、Cisco Spaces との接続を確立します。

3. **[Import Meraki Networks into Location Hierarchy]** : **[Import Networks]** をクリックして、Cisco Meraki ネットワークをインポートします。



(注) Cisco Meraki と現在同期されているユーザー数が、**[Connect your Meraki]** オプション : **[Connect via Meraki API Key]** の下に表示されます。

選択した接続方法に基づいて、Cisco AireOS に対して次のバーが表示されます。

- **[Connect via Spaces Connector]** : Cisco Spaces : コネクタ を使用してシスコ ワイヤレス コントローラに Cisco Spaces を接続するには、このオプションを使用します。



(注) **[Connect via Spaces Connector]** オプションを使用する場合、シスコ ワイヤレス コントローラをアップグレードしたり、ワイヤレス ネットワークを再設定したりする必要はありません。

次の手順を実行します。

1. **Install Spaces Connector OVA** : Cisco Spaces : コネクタ OVA を仮想マシンとしてダウンロードしてインストールします。
2. **[Configure Spaces Connector]** : **[Create Connector]** をクリックして、新しいコネクタを作成します。Cisco Spaces : コネクタ を設定するには、トークンが必要です。トークンを設定するには、ブラウザから <https://<your connector IP>/> に接続する必要があります。オプションで、HTTPS プロキシ経由で Cisco Spaces : コネクタ を接続するように設定できます。  
**[View Connectors]** をクリックして、使用可能なコネクタを表示します。
3. **[Add Controllers]** : **[Add Controllers]** をクリックして、シスコ ワイヤレス コントローラを追加します。**[View Controllers]** をクリックして、使用可能なコントローラを表示します。
4. **[Import Maps]** : **[Import/Sync Maps]** をクリックして、マップをインポートまたは同期します。Cisco Prime Infrastructure または Catalyst Center (バージョン 1.3.1 以降) のマップをアップロードして、Cisco Spaces : Detect and Locate、アセットトラッカー、および IoT サービスを使用する必要があります。
5. **ロケーション階層のセットアップ** : **[Add Locations]** をクリックして、インポートしたマップをロケーション階層に追加します。



- (注)
- [View Location Hierarchy] オプションを使用して、ロケーション階層を表示できます。
  - OpenRoaming アプリケーションの場合、[Add OpenRoaming Hotspot] オプションを使用してホットスポットを設定できます。また、[OpenRoaming Controller Configuration] オプションを使用して、さまざまなコントローラの OpenRoaming アプリの設定を個別に表示することもできます。
  - ネットワーク設定プロトコル (NETCONF) のサポートは、ホットスポットクライアントバージョン v2.2.95 および Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラ バージョン 17.12 から利用できます。

詳細については、『Cisco Spaces : コネクタ コンフィギュレーションガイド』を参照してください。

- [Connect AireOS Controller/Catalyst 9800 Wireless Controller Directly] : このオプションを使用して、Cisco Spaces を Cisco AireOS ワイヤレスコントローラまたは Cisco Catalyst 9800 シリーズ ワイヤレス コントローラに直接接続します。



- (注) このワイヤレスネットワークに接続するには、ソフトウェアバージョン 8.8 MR2 以降の AireOS コントローラ、またはソフトウェアバージョン 16.12.2 以降の Catalyst 9800 ワイヤレスコントローラが必要です。ワイヤレスコントローラはインターネットに直接接続できる必要があります。

次の手順を実行します。

1. [Install Root Certificate] : コントローラ GUI からルート証明書をインストールできます。
2. [Configure Token in AireOS Controller] : トークンとコントローラを表示するには、[View Token] および [View Controllers] オプションを使用します。
3. [Import Maps] : [Setup] ウィンドウの [Connect WLC/Catalyst 9800 Directly] および [Connect Via Spaces Connector] でマップを管理できます。
  - [Import/Sync Maps] : Cisco Prime Infrastructure または Catalyst Center マップをアップロードして、検出と特定、アセットトラッカー、IoT サービスとシームレスに連携します。
  - [Map Upload History] : アップロードされたマップのリストを表示します。ファイル名、ソースタイプ、ステータス、およびその他の関連情報を表示できます。

- [Manage Map] : [Map Service] アプリケーションに移動して、マップを管理します。

#### 4. ロケーション階層のセットアップ

- [Connect via CMX Tethering] : トークンによる CMX テザリングを使用して Cisco CMX ノードのロケーションアップデートを設定するための詳細な手順を表示します。ステップ 2 で [Create New Token] オプションを使用してトークンを作成し、Cisco CMX で設定できます。

[Connect your wireless network] ウィンドウで使用できるその他のオプションは次のとおりです。

表 10: ワイヤレスネットワークの接続のオプション

Cisco AireOS コントローラ/Catalyst 9800 ワイヤレスコントローラ	CMX ノード (CMX オンプレミス) を [Location Hierarchy] ウィンドウにインポートする手順を表示します。
Cisco Meraki	Meraki 組織を [Location Hierarchy] ウィンドウにインポートする手順を表示します。

## Meraki API キーメソッドのセットアップ

[Cisco Meraki] オプションを使用して、Cisco Spaces を Meraki と統合します。Meraki アカウントのログイン情報を使用して Cisco Meraki クラウドに接続し、ロケーションを Cisco Spaces にインポートして、Meraki ネットワークをアクティブ化または同期します。

### 手順

- ステップ 1 Cisco Spaces ダッシュボードで、[Menu] アイコン (☰) をクリックし、[Setup > Wireless Networks > Add New > Cisco Meraki > Connect via API key] を選択します。
- ステップ 2 Meraki ダッシュボードで、[Organization] > [Configure] > [Settings] に移動し、[Dashboard API Access] を有効にします。
- ステップ 3 Meraki ダッシュボードで、[Username] > [My Profile] > [API Access] に移動し、API トークンを生成します。生成された API トークンは英数字の値です。
- ステップ 4 生成された API トークンをコピーして、Cisco Spaces ダッシュボードに入力します。
- ステップ 5 Cisco Spaces ダッシュボードで次の手順を実行します。
  - a) [Connect our Meraki] ポップアップウィンドウで、コピーした API トークンを [API KEY] フィールドに貼り付けます。

## Connect your Meraki ×

### Connect via API key

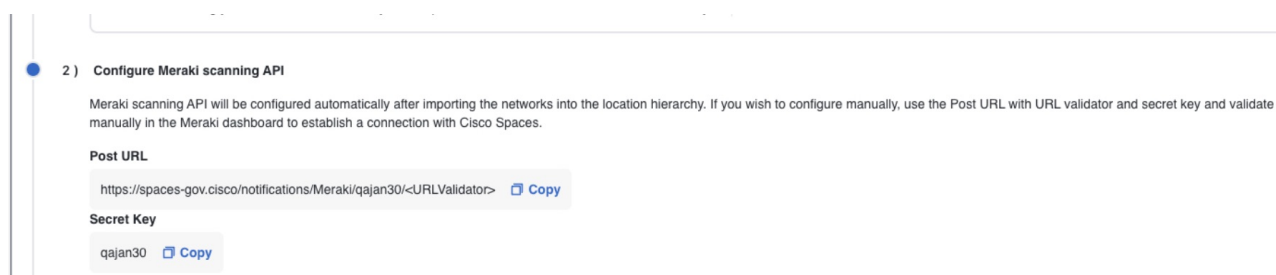
Enter your Meraki API Key to fetch the network information

API KEY

Add API

Connect

- b) [Connect] をクリックします。Meraki との同期が成功すると、接続ステータスがアクティブとして表示されます。
- c) [Configure Meraki scanning API] 領域から、[Post URL] と [Secret Key] の値をコピーします。



- ステップ 6 Meraki ダッシュボードで、特定のネットワークに移動し、[Network-wide] > [Configure] > [General] を選択します。
- ステップ 7 [Location and Scanning] まで下にスクロールし、[Analytics and Scanning API] を有効にします。
- ステップ 8 [Post URLs] フィールドにポスト URL と秘密鍵を貼り付けます。
- ステップ 9 Web ブラウザのアドレスバー（Meraki URL）から、network\_id（/n/の後）をコピーします。例：  
[https://xxxx.meraki.com/your-net/n/network\\_id/](https://xxxx.meraki.com/your-net/n/network_id/)。
- ステップ 10 投稿 URL <network\_id> をネットワーク ID を含めるように編集します。
- ステップ 11 [Location and Scanning] フィールドから、validator id をコピーします。
- ステップ 12 投稿 URL <URLValidator> をバリデータを使用して編集します。
- ステップ 13 [Validate] をクリックして、投稿 URL 関数を検証します。

**ステップ 14** Cisco Spaces ダッシュボードで、[**Import Meraki Networks into Location Hierarchy**] から [**Import Networks**] を選択します。

同期が成功したら、ネットワークが [**Location Hierarchy**] に表示されるかどうかを確認します。

(注)

Cisco Meraki ダッシュボードで IP アドレス制限が有効になっている場合、Cisco Spaces サポートに連絡して Cisco Spaces IP アドレスを許可リストに追加します。

---

## ワイヤレス ネットワーク ステータス

[Wireless Network Status] オプションを使用すると、ワイヤレスネットワークの同期ステータスを表示できます。最後の同期が実行された時刻を表示できます。





## 第 19 章

# ロケーションとマップを設定する

- [ロケーションと地図](#) (151 ページ)
- [ロケーションのインポート](#) (155 ページ)
- [ネットワークマップの追加](#) (168 ページ)
- [デジタルマップの追加](#) (170 ページ)
- [\[Map Service\] の設定](#) (172 ページ)

## ロケーションと地図

Cisco Spaces のロケーションとマップ機能を使用すると、Cisco Meraki、Catalyst Center、Cisco Prime Infrastructure などさまざまなソースからのネットワーク階層をインポートし、正規化して、単一のビジネス指向のロケーション階層に統合できます。この機能をプラットフォームとして使用して、ネットワーク階層構造を標準化し、標準化されたロケーション階層ビューを提供します。

ネットワークソースからインポート/同期してロケーション階層を作成する従来の方法とは別に、Microsoft Excel (.xlsx) ファイルからビジネス中心の階層を作成する新しいオプションが含まれています。Microsoft Excel (.xlsx) ファイルのインポートでは、複数のロケーションのメタデータ情報を一括で追加/更新できます。

Cisco Spaces はネットワーク階層に一致する論理的なロケーション階層を作成しますが、ほとんどの Cisco Spaces ユーザーには、分類法や、異なるチーム/人物によって管理されるため、階層/名前が異なるソースがもう 1 つあります。ロケーションとマップ機能を使用すると、ビジネス指向の階層を作成し、さまざまなネットワークソースの階層をビジネス階層にマージ/統合して、クリーンな統合階層にすることができます。これにより、さまざまな成果の管理に役立ちます。

物理的なビジネスロケーションとネットワーク展開に基づいて、ビジネスロケーションをインポートし、Cisco Spaces 内で整理できます。階層は、特定のブランド、地域、キャンパス、およびビジネスに関連するその他の分類に基づいてまとめることができます。

Cisco Spaces のロケーションとマップ機能は、IT ネットワークビューをビジネスビューに変換し、よりビジネス関連のインサイトレポートを表示するのに役立ちます。ネットワークトポロジへの変更は Cisco Spaces に自動的に反映されるため、管理が容易になります。

[Locations and Maps] ウィンドウには次のタブがあります。

- **[Locations]** : このタブを使用して、ロケーションを追加または管理します。
- **[Network Maps]** : このタブを使用してネットワークマップを追加します。
- **[Digital Maps]** : このタブを使用して、デジタルマップを追加または管理します。

これらのタブで使用できる **[Filter]** オプションを使用して **[Filter]** スライドインウィンドウを開き、フィルタオプションを選択してロケーションデータを適用して表示します。

図 28: ロケーションと地図

The screenshot displays the 'Locations and Maps' interface. At the top, there is a notification banner. Below it, the 'Locations and Maps' title is followed by three tabs: 'Locations', 'Network Maps', and 'Digital Maps'. The 'Summary' section contains four cards: '51 Buildings', '38 Floors', '46 Locations missing essential location info' (with a warning icon), and '0 Locations needs review'. The 'Buildings' section features a search bar, an 'Export' button, a 'Recent Activity' button, and an 'Import Locations' button. A table lists buildings with the following columns: Name, Path, #of floors, Source, and Essential location info.

Name	Path	#of floors	Source	Essential location info
>	\S	4	Manual	5/5
>	\S	3	Manual	5/5
> [Blue Icon] -Test	[Grey Icon] \S	2	Manual	2/5 ▲
> [Blue Icon]	[Grey Icon] \S	1	Manual	2/5 ▲

### [Locations] タブ

[Locations] タブの [Summary] セクションには、建物とフロアの数が表示されます。[Locations] タブの [Buildings] セクションには、インポートされたロケーションに関連する次の情報が表示されます。

- 名前
- パス
- フロア数
- ソース
- 必須ロケーション情報

次のタスクを実行します。

- **[Search Locations]** フィールドに建物名を入力し、指定した建物情報をフィルタ処理します。
- ロケーションデータをエクスポートするには、**[Export]** をクリックします。**[Download]** をクリックすると、同じものをダウンロードできます。
- **[Recent Activity]** をクリックして **[Recent Activity]** ウィンドウを開き、最近のアクティビティの詳細を表示します。
- **[Import Locations]** をクリックして、ロケーションをインポートします。詳細については、[ロケーションのインポート \(155 ページ\)](#) を参照してください。

### ネットワークマップタブ

**[Network Maps]** タブには、インポートされたロケーション情報も表示されます。**[Network Maps]** タブの **[Buildings]** セクションには、インポートされたロケーションに関連する次の情報が表示されます。

- 名前
- パス
- フロア数
- APの数
- 送信元
- ネットワークマップのステータス

次のタスクを実行します。

- **[Search Locations]** フィールドに建物名を入力し、指定した建物情報をフィルタ処理します。
- **[Recent Activity]** をクリックして **[Recent Activity]** ウィンドウを開き、最近のアクティビティの詳細を表示します。
- **[Add Network Map]** をクリックして、ネットワークマップを追加します。詳細については、「[ネットワークマップの追加 \(168 ページ\)](#)」を参照してください。

### デジタルマップタブ

デジタルマップは 3D で表示し、**Cisco Smart Workspaces** で使用可能なすべての機能を含みます。

**[Digital Maps]** タブには、インポートされたロケーション情報も表示されます。

**[Buildings]** セクションは **[Digital Maps]** タブにあり、インポートされたロケーションに関連する次の情報が表示されます。

- 名前
- パス
- フロア数
- APの数
- ステータス
- アクション

次のタスクを実行します。

- **[Search Locations]** フィールドに建物名を入力し、指定した建物情報をフィルタ処理します。
- **[Recent Activity]** をクリックして **[Recent Activity]** ウィンドウを開き、最近のアクティビティの詳細を表示します。
- **[Actions]** 列の **[Add Digital Map]** をクリックして、デジタルマップを追加します。詳細については、[デジタルマップの追加 \(170 ページ\)](#) を参照してください。
- また、**[Actions]** 列の **[Upload CAD File]** をクリックして、選択したロケーションにデジタルマップを追加することもできます。




---

(注) ACT/UNLIMITED ライセンスのあるロケーションではデジタルマップにアクセスできますが、他のライセンスタイプはデジタルマップをサポートしていません。

---

### デジタルマップ：ユーザー体験の強化

Cisco Spaces ダッシュボードでは、次の機能強化が加えられました。

- **[Select Floor]** ウィンドウは、ユーザーの労力を最小限に抑えるように再設計されました。新しい設計では、ユーザーが必要とするエントリの数が減り、各フロアのフロアレベル番号と短縮名が自動的に生成されるため、プロセスがより迅速かつ効率的になります。
- ファイルアップロードプロセスが強化され、効率が向上しました。複数のフロアのファイルを同時にアップロードし、それぞれを並行して処理できるようになりました。以前は1つのフロアのアップロード中に表示されていたフルページローダーが、各フロア用の個々のローダーインジケータに置き換えられ、各アップロードのステータスを明確に表示できるようになりました。

いずれかのフロアファイルにさらに時間が必要な場合は、他のアップロードの進行に影響を与えずに、その特定のアップロードをキャンセルするオプションがあります。これにより、正常なアップロードの管理が改善され、より効果的な時間割り当てが可能になります。

- **推定時間と電子メール通知を使用するマップ処理ステータスレポート**：マップ処理機能が強化され、マップ生成に時間のかかる場合に報告された問題に対処しました。この機能強化により、マップを正常に送信すると、ウィンドウで推定処理時間が表示されます。[Digital Maps] リストビューで各建物のステータスメッセージにカーソルを合わせることで、暫定的な ETA やエラーの詳細を含む処理ステータスを表示することもできます。さらに、送信者はマップステータスの変更に関する電子メール通知を受け取ります。
- **マップの再処理/CAD ファイルの再送信**：マップの再処理の使用方法が強化され、必要な変更を正確に指定できる機能が追加されました。これにより、ターンアラウンド時間を短縮できます。一般的な理由のリストから選択し、再処理要求の証拠として補足ドキュメントまたは画像とともに追加のコメントを指定できます。

### ネットワークマップのキャリブレーション

ネットワークマップのキャリブレーションツールを使用すると、2D ネットワークマップ画像と 3D デジタルマップを正確に配置できます。[Digital Map Editor] からツールにアクセスして、クライアントとアクセスポイントの位置が正確に表示されるように、GPS マーカーを正確に配置できます。

ネットワーク マップ キャリブレーション リンクは、ネットワークマップに関連付けられているマップに対してのみユーザーインターフェイスで有効になります。

## ロケーションのインポート

[Locations] タブを使用して、ビジネス階層をインポートします。

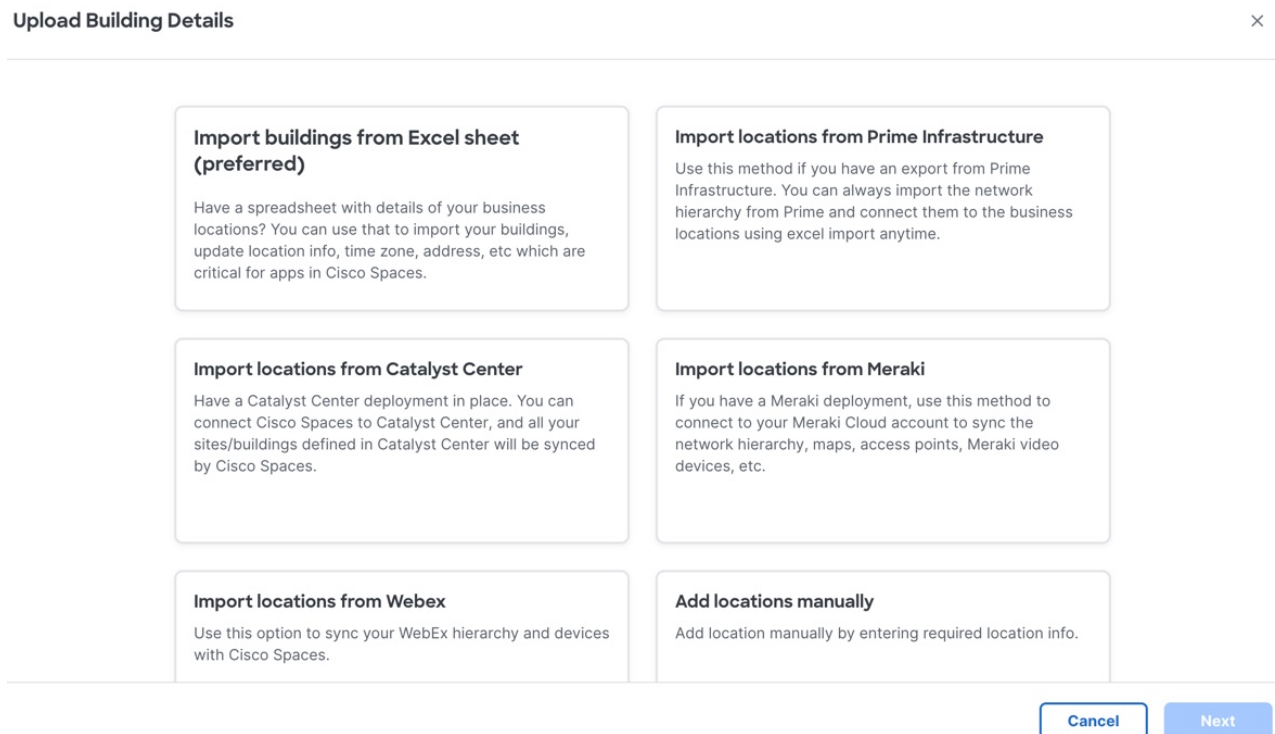
### 手順

- ステップ 1** Cisco Spaces にログインします。
- ステップ 2** Cisco Spaces ダッシュボードで、[Menu] アイコン (☰) をクリックし、[Setup > Locations and Maps] を選択します。

[Locations and Maps] ウィンドウは、[Locations] タブが選択された状態で表示されます。使用可能なその他のタブは [Network Maps] および [Digital Maps] です。
- ステップ 3** [Locations] タブで、[Add Locations] をクリックします。ロケーションがすでにインポートされ利用可能な場合は、[Import Locations] オプションが表示されます。

[Upload Building Details] ウィンドウには、ロケーションをアップロードするためのさまざまな方法が表示されます。

図 29: 建物の詳細をアップロード



**ステップ 4** 次の方法を使用してロケーションをインポートします。

- [Excel シートからの建物のインポート](#) (推奨)
- [Cisco Prime Infrastructure からロケーションをインポート](#)
- [Catalyst Center からロケーションをインポート](#)
- [Cisco Meraki からロケーションをインポート](#)
- [手動によるロケーションの追加](#)

インポートされたロケーションの詳細が、**[Locations]** タブに表示されます。

- **[Summary]** セクションには、建物、フロア、欠落しているロケーションメタデータ情報、および確認が必要なロケーションの詳細が表示されます。
- **[Locations]** タブの **[Building]** セクションには、名前、パス、フロア数、送信元などのロケーションの詳細が表示されます。
- 必要なロケーションメタデータが更新されていない場合、**[Building]** セクションの **[Essential Location Info]** フィールドにアラートが表示されます。

**ステップ 5** **[Essential Location Info]** フィールドの **[Alert]** アイコン (🚨) をクリックして、必要に応じて不足しているメタデータを追加します。

ポップアップウィンドウには、欠落しているロケーションメタデータに関連する情報が表示されます。  
[Click Here] をクリックしてロケーション情報を更新してください。

**ステップ 6** [Review] をクリックして、ロケーションレビューを表示し、続行します。詳細については、「[ロケーションを確認](#)」を参照してください。

Excel シートから建物をインポートする以外の方法を使用してロケーションをインポートすると、[Review] オプションが表示されます。

**ステップ 7** (オプション) [Locations] タブで、必要に応じて次のオプションを使用します。

- **[Export]** : インポートされたビジネスロケーションの詳細を Microsoft Excel ファイル (.xls) にエクスポートします。[Download] をクリックすると、同じものをダウンロードできます。
- **[Recent Activity]** : クリックすると、最近のアクティビティの詳細が表示されます。ウィンドウの [Recent Activity] スライドには、アクティビティの最近の履歴が表示されます。
  - ファイル名
  - ユーザ
  - タイプ
  - 時間
  - ステータス
- **[Filter]** : クリックしてフィルタオプションを表示します。表示される [Filter] スライドインウィンドウで、[Locations] ドロップダウンリストからロケーションを選択し、必要なフィルタオプションを選択し、[Apply] をクリックします。フィルタオプションは、[Source]、[# of Floors]、[Location Metadata] です。

## Microsoft Excel シートからの建物のインポート

Microsoft Excel (.xlsx) ファイルをインポートしてロケーションを追加するには、[Import buildings from Excel sheet] オプションを使用します。Cisco Spaces アプリケーションに重要な建物、ロケーションメタデータ、タイムゾーン、アドレスなどを含むロケーションをインポートするには、この方法を選択することを推奨します。

### 手順

**ステップ 1** Cisco Spaces にログインします。

**ステップ 2** Cisco Spaces ダッシュボードで、[Menu] アイコン (☰) をクリックし、[Setup > Locations and Maps] を選択します。

[Locations and Maps] ウィンドウは、[Locations] タブが選択された状態で表示されます。

**ステップ 3** [Locations] タブで、[Add Locations] をクリックします。ロケーションがすでにインポートされ利用可能な場合は、[Import Locations] オプションが表示されます。

[Upload Building Details] ウィンドウには、ロケーションをアップロードするためのさまざまな方法が表示されます。

**ステップ 4** [Import buildings from Excel sheet] をクリックし、[Next] をクリックします。

**ステップ 5** [Import Location Details] ウィンドウで、Microsoft Excel (.xlsx) ファイルをドラッグアンドドロップするか、[Click here to upload] をクリックして、インポートするビジネスロケーションの詳細を含む Microsoft Excel (.xlsx) ファイルをアップロードします。

(注)

テンプレートがない場合は、[Import Location Details] ウィンドウにあるリンクからテンプレートをダウンロードし、建物の詳細とともに正しい形式でアップロードできます。

**ステップ 6** [Next] をクリックします。

[Import Location Details] ウィンドウでは、左側の列に Microsoft Excel (.xlsx) ファイルのロケーション情報が、右側の列に既存のロケーションレベルおよびグループレベルの情報が表示されます。

**ステップ 7** [Import Location Details] ウィンドウで、[Column from CSV] 列のインポートされたロケーションメタデータを、[Link to] ドロップダウン下の対応する階層およびグループレベルにマッピングし、それに応じて、それぞれのロケーションメタデータ値を割り当てます。

[Link to] ドロップダウンで使用できるオプションは次のとおりです。

- **[Location Info]** : 国、市区町村、占有率、バンド、アドレス、タイムゾーンなどのロケーションのメタデータ情報に使用します。対応するメタデータ値も割り当てる必要があります。
- **[Hierarchy Level]** : Microsoft Excel (.xlsx) ファイルから [Level] 列の値をマッピングするには、これを使用します。Microsoft Excel (.xlsx) ファイルには、複数の [Level] 値を設定できます。Microsoft Excel (.xlsx) ファイルからのレベル値は、ロケーション階層の [Hierarchy Level] としてマッピングされます。

[Hierarchy Level] ごとに、グループ化レベルの値を割り当てることができます。オプションは、[Grouping Level1]、[Grouping Level2]、および [Grouping Level3] です。

Microsoft Excel (.xlsx) ファイルでは、**NYC1 Campus** を [Level1]、**NYC2 Campus** を [Level2] に設定できます。[Import Location Details] ウィンドウでは、[Level1] および [Level2] を [Link to] ドロップダウンリストの [Hierarchy Level] にマッピングできます。[Level1] の場合、グループ化値を [Grouping Level1] に割り当て、[Level2] の場合は [Grouping Level2] を割り当てられます。

- **[Location Name]** : Microsoft Excel (.xlsx) ファイルの [Location] 列の値にマッピングするには、これを使用します。

(注)

[Location Name] に値を割り当てる必要はありません。ロケーション名は Excel ファイルから直接取得されるため、変更することも、ヘッダー列にマッピングすることもできません。

- **[Location ID]** : ロケーションIDは、ロケーションのインポートが正常に完了すると自動生成されます。

**ステップ 8** [Next] をクリックします。

[Merge Locations] ウィンドウが表示されます。

- Cisco Spaces のロケーション階層が、Microsoft Excel (.xlsx) ファイルをインポートすることによって検出された新しいロケーションを含めるように更新されたことを示すメッセージ。
- [Merge Locations] ウィンドウには、**Excel シートから建物をインポートする** メソッドを使用してインポートされた新しいロケーションの数とそのレベルが表示されます。
- [Merge Locations] ウィンドウには、[Locations found in CSV]、[Actions]、[Existing Locations] の3つの列が表示されます。
- 階層を確認し、[Action] ドロップダウンリストを使用して必要なアクションを実行する必要があります。
- [Search Location] フィールドを使用して、検索条件を入力し、ロケーション名を検索できます。

**ステップ 9** [Locations found in CSV] で、プラス記号をクリックしてロケーションを展開します。

**ステップ 10** [Actions] ドロップダウンリストから、インポートしたロケーションを、右側に表示される既存のロケーション階層とマージするために必要なアクションを選択します。

次のオプションがあります。

- [Create New] : インポートしたロケーションを既存のロケーション階層内の新しいロケーションとして作成する場合は、このオプションを選択します。
- [Merge With] : Microsoft Excel (.xlsx) ファイルからインポートされたロケーションが繰り返されており、そのロケーションがロケーション階層にすでに存在する場合は、このオプションを選択します。ロケーションをマージすると元に戻せないため、このアクションは注意して実行することを推奨します。
- [Skip] : ロケーション階層へのロケーションのインポートをスキップする場合は、このオプションを選択します。ロケーションをスキップすると元に戻せないため、注意してこのアクションを実行することを推奨します。

(注)

既存のロケーション階層には次の機能があります。

- 既存のキャンパスまたは建物がない場合、新しくインポートされたロケーションが新しいエントリとして追加されます。
- 類似の名前のロケーションがある場合、新しいロケーションを既存のロケーションとマージできます。

**ステップ 11** [Next] をクリックします。

[Merge Locations] セクションに表示されるマージロケーションの更新を確認する必要があります。処理されたロケーションの数を表示できます。

**ステップ 12** [Submit] をクリックします。

ロケーションの詳細が正しくアップロードされたことを示すメッセージが表示されます。

[**Add Digital Maps**] をクリックして **デジタルマップを追加**するか、[**View Locations**] をクリックしてロケーションを表示できます。

- ステップ 13** [**Close this window**] をクリックして [**Locations**] タブに戻ります。  
[**Locations**] タブの [**Building**] セクションには、名前、パス、フロア数、送信元などのロケーションの詳細が表示されます。[**Summary**] セクションには、建物、フロア、欠落しているロケーションメタデータ情報、および確認が必要なロケーションの詳細が表示されます。

## Cisco Prime Infrastructure からのロケーションのインポート

[**Import locations from Prime Infrastructure**] オプションで、エクスポートファイルを使用して Cisco Prime Infrastructure から Cisco Spaces へロケーションを追加します。Cisco Prime Infrastructure からネットワーク階層をインポートし、ビジネスロケーションに接続できます。

### 手順

- ステップ 1** Cisco Spaces にログインします。
- ステップ 2** Cisco Spaces ダッシュボードで、[**Menu**] アイコン (☰) をクリックし、[**Setup > Locations and Maps**] を選択します。  
[**Locations and Maps**] ウィンドウは、[**Locations**] タブが選択された状態で表示されます。
- ステップ 3** [**Locations**] タブで、[**Add Locations**] をクリックします。インポートされたロケーションがすでに利用可能な場合、[**Import Location**] オプションが表示されます。  
[**Upload Building Details**] ウィンドウには、ロケーションをアップロードするためのさまざまな方法が表示されます。
- ステップ 4** [**Import locations from Prime Infrastructure**] をクリックし、[**Next**] をクリックします。  
[**Import Location Details**] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** [**Import Location Details**] ウィンドウで、Cisco Prime Infrastructure マップファイルを .GZ ファイル (圧縮アーカイブファイル) としてドラッグアンドドロップするか、[**Click here to upload**] をクリックして、Cisco Prime Infrastructure マップ情報を含む .GZ ファイルをアップロードします。
- ステップ 6** [Next] をクリックします。  
[**Import Location Details**] には、マップデータが処理中であることを示すメッセージが表示されます。Map Service は、同じ処理を行うために時間がかかります。[**Recent Activity**] セクションでマップデータの処理ステータスを確認できます。  
マップデータが正常に処理されたら、マップデータをロケーションとマージする必要があります。
- ステップ 7** [**Close this window**] をクリックして、ウィンドウを閉じます。

[Locations] タブの [Building] セクションには、新しくインポートされたロケーションの詳細が表示されます。同じロケーション情報が Cisco Spaces ロケーション階層にも表示されます。

Cisco Prime Infrastructure からのマップのインポートによってロケーション階層に新しいロケーションが追加されたことを示すアラートメッセージが [Location] タブに表示されます。

**ステップ 8** [Review] をクリックして確認し、必要なアクションを実行します。

[Merge Locations] ウィンドウが表示されます。

- Cisco Spaces のロケーション階層が、Cisco Prime Infrastructure マップのインポートによって検出された新しいロケーションを含めるように更新されたことを示すメッセージ。
- [Merge Locations] ウィンドウには、[Import locations from Prime Infrastructure] 方式を使用してインポートされた新しいサイトと建物の数が表示されます。
- [Merge Locations] ウィンドウには、[Locations from Prime Map]、[Actions]、および [Existing Locations] の 3 つの列が表示されます。
- 階層を確認し、[Action] ドロップダウンリストを使用して必要なアクションを実行する必要があります。
- [Search Location] フィールドを使用して、検索条件を入力し、ロケーション名を検索できます。

**ステップ 9** [Locations from Prime Map] で、プラス記号をクリックしてロケーションを展開します。

ロケーション階層には、キャンパス、建物、およびフロアが含まれます。

**ステップ 10** [Actions] ドロップダウンリストから、インポートしたロケーションを、右側に表示される既存のロケーション階層とマージするために必要なアクションを選択します。

次のオプションがあります。

- [Merge With] : Cisco Prime Infrastructure からインポートされたロケーションが繰り返されており、そのロケーションがロケーション階層にすでに存在する場合は、このオプションを選択します。ロケーションをマージすると元に戻せないため、このアクションは注意して実行することを推奨します。
- [Delete] : インポートしたロケーションを既存のロケーション階層から削除する場合は、このオプションを選択します。ロケーションを削除すると元に戻せないため、このアクションは注意して実行することを推奨します。
- [Create New] : 既存のロケーション階層に新しいロケーションを作成または追加する場合は、このオプションを選択します。
- [Accept] : Cisco Prime Infrastructure からインポートされたロケーションを、既存のロケーション階層と同様に受け入れる場合は、このオプションを選択します。

(注)

既存のロケーション階層には次の機能があります。

- 既存のキャンパスまたは建物がない場合、新しくインポートされたロケーションが新しいエントリとして追加されます。

- 類似の名前のロケーションがある場合、新しいロケーションを既存のロケーションとマージできます。

ステップ 11 [Next] をクリックします。

[Locations] セクションに表示されるマージロケーションの更新を確認する必要があります。処理されたロケーションの数を表示できます。

ステップ 12 [Submit] をクリックします。

ロケーションの詳細が正しくアップロードされたことを示すメッセージが表示されます。

[Add Digital Maps] をクリックしてデジタルマップを追加するか、[View Locations] をクリックしてロケーションを表示できます。

ステップ 13 [Close this window] をクリックします。

[Locations] タブの [Building] セクションには、名前、パス、フロア数、送信元などのロケーションの詳細が表示されます。

[Summary] セクションには、建物、フロア、欠落しているロケーションメタデータ情報、および確認が必要なロケーションの詳細が表示されます。

---

## Cisco Catalyst Center からロケーションをインポート

[Import locations from DNA Center] オプションを使用して、Catalyst Center からロケーションを追加します。Cisco Spaces を Catalyst Center に接続でき、Catalyst Center で定義されたすべてのサイトまたは建物が Cisco Spaces と同期されます。

### 手順

---

ステップ 1 Cisco Spaces にログインします。

ステップ 2 Cisco Spaces ダッシュボードで、[Menu] アイコン (☰) をクリックし、[Setup > Locations and Maps] を選択します。

[Locations and Maps] ウィンドウは、[Locations] タブが選択された状態で表示されます。

ステップ 3 [Locations] タブで、[Add Locations] をクリックします。ロケーションがすでにインポートされ利用可能な場合は、[Import Locations] オプションが表示されます。

[Upload Building Details] ウィンドウには、ロケーションをアップロードするためのさまざまな方法が表示されます。

ステップ 4 [Import locations from DNA Center] をクリックし、[Next] をクリックします。

Catalyst Center からロケーションをインポートするには、Catalyst Center マップを Cisco Spaces と統合する必要があります。

**ステップ 5** (オプション) **[View How to Integrate DNA Center Maps]** をクリックします。

**[Cisco DNA Center Integration]** ウィンドウが表示されます。

Cisco Spaces はマップ同期のために Catalyst Center と統合され、デバイスのロケーションの更新が Catalyst Center に提供されます。Cisco Spaces を Catalyst Center と統合するには、**[Create Token]** をクリックしてトークンを作成し、Catalyst Center でトークンを構成します。

(注)

Catalyst Center での Cisco Spaces の統合機能は、一部のユーザーが使用できます。追加のサポートについては、[Cisco Spaces サポートチーム](#) にお問い合わせください。

**ステップ 6** **[Next]** をクリックします。

**[Import Location Details]** ウィンドウが表示されます。

**ステップ 7** 指示に従って Catalyst Center に接続します。

**ステップ 8** **[完了 (Finish)]** をクリックします。

**[Locations]** タブの **[Building]** セクションには、ロケーションの詳細が表示されます。**[Summary]** セクションには、建物、フロア、欠落しているロケーションメタデータ情報、および確認が必要なロケーションの詳細が表示されます。

---

## Cisco Meraki からのロケーションのインポート

**[Import locations from Meraki]** オプションを使用して、Cisco Meraki からロケーションを追加します。Cisco Meraki を展開している場合は、この方法を使用して Cisco Meraki Cloud アカウントに接続し、ネットワーク階層、マップ、アクセスポイント、Meraki ビデオデバイスを同期します。

### 手順

---

**ステップ 1** Cisco Spaces にログインします。

**ステップ 2** Cisco Spaces ダッシュボードで、**[Menu]** アイコン (☰) をクリックし、**[Setup > Locations and Maps]** を選択します。

**[Locations and Maps]** ウィンドウは、**[Locations]** タブが選択された状態で表示されます。

**ステップ 3** **[Locations]** タブで、**[Add Locations]** をクリックします。ロケーションがすでにインポートされ利用可能な場合は、**[Import Locations]** オプションが表示されます。

**[Upload Building Details]** ウィンドウには、ロケーションをアップロードするためのさまざまな方法が表示されます。

ステップ4 **[Import locations from Meraki]** をクリックし、**[Next]** をクリックします。

**[Import Location Details]** ウィンドウが表示されます。

Cisco Meraki からロケーションをインポートするには、Cisco Meraki を Cisco Spaces に接続する必要があります。

ステップ5 (オプション) **[View How to Integrate Meraki]** をクリックして、手順を表示します。

ステップ6 **[Import Location Details]** ウィンドウで、**[Next]** をクリックします。

ステップ7 Cisco Meraki の接続手順を読み、**[Next]** をクリックします。

**[Connect your wireless network]** ウィンドウが表示されます。このオプションを使用して Cisco Meraki に接続できます。

ステップ8 すでに接続している場合は、ロケーション階層を使用してロケーションを追加します。

---

## 手動によるロケーションの追加

Microsoft Excel (.xlsx) ファイルまたはネットワークマップをインポートせずに、**[Add locations manually]** オプションを使用して、ルートロケーションの直下に独立した建物を追加します。

### 手順

---

ステップ1 Cisco Spaces にログインします。

ステップ2 Cisco Spaces ダッシュボードで、**[Menu]** アイコン (☰) をクリックし、**[Setup > Locations and Maps]** を選択します。

**[Locations and Maps]** ウィンドウは、**[Locations]** タブが選択された状態で表示されます。

ステップ3 **[Locations]** タブで、**[Add Locations]** をクリックします。ロケーションがすでにインポートされ利用可能な場合は、**[Import Locations]** オプションが表示されます。

**[Upload Building Details]** ウィンドウには、ロケーションをアップロードするためのさまざまな方法が表示されます。

ステップ4 **[Add locations manually]** をクリックし、**[Next]** をクリックします。

図 30: ロケーションの追加

**Add Location** ×

Location name\*  
  
 0/100 characters

Address

Brand  
  
 0/50 characters

Total area

Max capacity

Time zone

Latitude  Longitude

Click/drag the marker to choose the location from map

[Previous](#) [Add](#)

**ステップ 5** [Add location] ウィンドウで、次のロケーションの詳細を入力して新しいロケーションを追加します。

- **[Location Name]** : 新しいロケーションの名前。
- **[Brand]** : 新しいロケーションのブランド。
- **[Total Area]** : 新しいロケーションの総面積詳細。
- **[Max Capacity]** : 新しいロケーションの最大キャパシティ情報。
- **[Address]** : 新しいロケーションのアドレス。アドレスを手動で入力するか、マーカーをドラッグして、右側に表示されるマップからアドレスを選択できます。
- **[Time Zone]** : ドロップダウンリストでタイムゾーンを選択します。
- **[Latitude]** : 新しいロケーションの緯度。
- **[Longitude]** : 新しいロケーションの経度。

**ステップ 6** [Add] をクリックします。

新しいロケーションが追加されたことを示す成功メッセージが表示されます。手動でロケーションを追加する場合は、**[Add Another Location]** をクリックします。

**ステップ 7** [Done] をクリックします。

[Locations] タブの [Building] セクションには、ロケーションの詳細が表示されます。[Summary] セクションには、建物、フロア、欠落しているロケーションメタデータ情報、および確認が必要なロケーションの詳細が表示されます。

## ロケーション情報の更新

インポートされたロケーションのロケーションメタデータが欠落している場合、[Locations] タブにアラートメッセージが表示されます。

### 手順

ステップ 1 Cisco Spaces にログインします。

ステップ 2 Cisco Spaces ダッシュボードで、[Menu] アイコン (☰) をクリックし、[Setup > Locations and Maps] を選択します。

[Locations and Maps] ウィンドウは、[Locations] タブが選択された状態で表示されます。

ステップ 3 [Essential Location Info] フィールドの横にある [Buildings] セクションで、[Alert] アイコンをクリックして、欠落しているロケーションメタデータを更新します。

[Update Location Info] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [Update Location Info] ウィンドウで、必要に応じて次のロケーションの詳細を更新します。

- [Location Name] : 新しいロケーションの名前。
- [Brand] : 新しいロケーションのブランド。
- [Total Area] : 新しいロケーションの総面積詳細。
- [Max Capacity] : 新しいロケーションの最大キャパシティ情報。
- [Address] : 新しいロケーションのアドレス。アドレスを手動で入力するか、マーカーをドラッグして、右側に表示されるマップからアドレスを選択できます。
- [Time Zone] : ドロップダウンリストでタイムゾーンを選択します。
- [Latitude] : 新しいロケーションの緯度。
- [Longitude] : 新しいロケーションの経度。

ステップ 5 [Save] をクリックします。

## 場所を確認

[Locations and Maps] ウィンドウには、インポートされたロケーション階層を確認する必要がある場合にアラートメッセージが表示されます。場所を確認し、必要なアクションを実行する必要があります。

### 手順

**ステップ 1** [Locations and Maps] ウィンドウで、[Preview] をクリックしてロケーションレビューを表示し、続行します。

[Review Locations] ウィンドウには、ロケーションのインポート元となるすべてのソース（Cisco Meraki や Catalyst Center など）が表示されます。各ロケーションでインポートされたサイト、建物、およびキャンパスの数を表示することもできます。

**ステップ 2** 確認する送信元のロケーションを選択し、[Next] をクリックします。

[Review Locations] ウィンドウには、左側の列に選択した送信元のインポートされたロケーション階層レベルが、右側の列に既存の接続先ロケーション階層レベルが表示されます。特定のロケーションを検索するには、[Search Locations] フィールドを使用します。

**ステップ 3** [Action] ドロップダウンリストにあるオプションを使用し、推奨アクションを選択して、送信元ロケーション階層の各レベルを、右側の列の関連する接続先ビジネス階層レベルとマージします。

デフォルトでは、Cisco Spaces はインポートされたロケーション階層を確認するためのいくつかのアクションを推奨します。使用可能なアクションは、マージ、承認、新規作成、および削除です。

- 送信元ロケーション階層で最上位ノードに選択したアクションは、下位のノードに自動的に順次適用されます。
- キャンパスノードの下レベルが関連する接続先のビジネス階層レベルとすでにマージされている場合、送信元ロケーション階層からそのキャンパスノードを削除することはできません。
- 送信元ロケーション階層の建物を接続先のビジネス階層のキャンパスにマージすることはできません。
- 送信元ロケーション階層のサイトを、接続先のビジネス階層のキャンパスにマージできます。
- 送信元ロケーション階層の名前が Cisco Spaces ロケーション階層で使用可能なビジネス階層と一致する場合、Cisco Spaces は一致する接続先レベルを自動的に表示し、マージアクションを続行します。
- 送信元ロケーション階層が新しい場合は、[Create] アクションを選択すると、Cisco Spaces ロケーション階層に新しいビジネス階層が自動的に作成されます。

**ステップ 4** [Existing Locations] ドロップダウンリストから、関連する接続先レベルを選択し、Cisco Spaces ロケーション階層で使用可能なビジネス階層を使用して、任意の送信元ロケーションからインポートされたロケーション階層をマージして統合します。

[Existing Locations] ドロップダウンリストには、Cisco Spaces ロケーション階層で使用可能なすべての接続先ノードが表示されます。ドロップダウンリストで、ビジネス階層のインポート元を表示できます。

ステップ5 [Next] をクリックします。

[Merge Locations] ウィンドウには、関連する分析データに関して、アクションの概要とその意味が表示されます。続行する前に、このアラート情報を確認することを推奨します。

(注)

削除対象として選択したロケーションに、関連付けられたルールが含まれている場合、削除アクションを続行できません。アクションを見直し、それに応じてマージ設定を更新する必要があります。

削除対象として選択したロケーションに、関連付けられたレポートが含まれている場合は、削除アクションを続行できます。ロケーションがマージされた後に、レポートが再度生成されます。

ステップ6 [Agree and Continue] をクリックします。

選択したレビューアクションが処理され、ロケーションがレビュー済みとしてマークされます。送信元ロケーションレベルを、関連する接続先ノードとマージする場合、送信元ロケーションレベルのすべてのプロパティがビジネス階層の接続先ノードに適用されます。

## ネットワークマップの追加

[Network Maps] タブを使用してネットワークマップを追加し、関連付けられたネットワークマップとともにロケーションを表示します。ロケーションをインポートできるのは、送信元はそのロケーションに関連付けられているネットワークマップがある場合のみです。現在、Cisco Prime Infrastructure、Catalyst Center、Cisco Meraki、および Cisco Connected Mobile Experiences にはネットワークマップが含まれています。

### 手順

ステップ1 Cisco Spaces にログインします。

ステップ2 Cisco Spaces ダッシュボードで、[Menu] アイコン (☰) をクリックし、[Setup > Locations and Maps] を選択します。

[Locations and Maps] ウィンドウが表示されます。

ステップ3 [Network Maps] タブをクリックします。

ステップ4 [Add Network Map] をクリックします。

[Upload Building Details] ウィンドウが表示されます。

ステップ5 ネットワークマップを含む次の方法を使用してロケーションをインポートします。

- [Cisco Prime Infrastructure](#) からロケーションをインポート
- [Catalyst Center](#) からロケーションをインポート
- [Cisco Meraki](#) からロケーションをインポート

- [Cisco CMX からロケーションをインポート](#)
- [手動によるロケーションの追加](#)

インポートされたロケーションの詳細は、[Locations and Maps] の [Network Maps] タブの下に表示されません。

**ステップ 6** [Preview] をクリックして表示し、ロケーションレビューを続行します。詳細については、「[ロケーションを確認](#)」を参照してください。

**ステップ 7** (オプション) [Network Maps] タブで、必要に応じて次のオプションを使用します。

- **[Export]** : インポートされたビジネスロケーションの詳細を Microsoft Excel ファイル (.xls) にエクスポートします。[Download] をクリックすると、同じものをダウンロードできます。
- **[Recent Activity]** : クリックすると、最近のアクティビティの詳細が表示されます。[Recent Activity] スライドインウィンドウには、次の情報が表示されます。
  - ファイル名
  - ユーザ
  - タイプ
  - 時間
  - ステータス
- **[Filter]** : クリックしてフィルタオプションを表示します。[Filter] スライドインウィンドウで、[Locations] ドロップダウンリストからロケーションを選択し、必要なフィルタオプションを選択し、[Select] をクリックして適用します。

---

## Cisco CMX からのロケーションのインポート

[Import locations from CMX] オプションを使用して、Cisco CMX からロケーションをインポートします。ロケーションをインポートするには、Cisco CMX を Cisco Spaces とテザリングする必要があります。

### 手順

---

**ステップ 1** Cisco Spaces にログインします。

**ステップ 2** Cisco Spaces ダッシュボードで、[Menu] アイコン (☰) をクリックし、[Setup > Locations and Maps] を選択します。

[Locations and Maps] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** [Network Maps] タブをクリックします。

ステップ 4 **[Add Network Map]** をクリックします。

**[Upload Building Details]** ウィンドウには、ロケーションをアップロードするためのさまざまな方法が表示されます。

ステップ 5 **[Import locations from CMX]** をクリックし、**[Next]** をクリックします。

**[Import Location Details]** ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 (オプション) **[Learn how to tether CMX]** をクリックすると、Cisco CMX を Cisco Spaces とテザリングする手順が表示されます。詳細については、「[Cisco CMX Tethering](#)」を参照してください。

ステップ 7 **[Import Location Details]** ウィンドウで、**[Next]** をクリックします。

ステップ 8 Cisco CMX を接続する手順を読み、**[Next]** をクリックします。

**[Connect your wireless network]** ウィンドウが表示されます。このオプションを使用して Cisco CMX に接続します。

ステップ 9 すでに接続している場合は、ロケーション階層を使用してロケーションを追加します。

---

## デジタルマップの追加

**[Digital Maps]** タブを使用して、ロケーション階層内に建物のデジタルマップを追加します。フロアのコンピュータ支援設計 (CAD) ファイルをアップロードして、3D フロアプランに変換する必要があります。

**[Summary]** エリアには、デジタルマップがインポートされた建物の数、マップレビューが保留中の建物の数、およびエラーのある建物の数が表示されます。

**[Buildings]** エリアには、利用可能なロケーションが表示されます。

### 手順

---

ステップ 1 Cisco Spaces にログインします。

ステップ 2 Cisco Spaces ダッシュボードで、**[Menu]** アイコン (☰) をクリックし、**[Setup > Locations and Maps]** を選択します。

**[Locations and Maps]** ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 **[Digital Maps]** タブをクリックします。

ステップ 4 **[Actions]** 列で、**[Add Digital Maps]** をクリックします。

**[Add Digital Map: Support DNA]** ウィンドウが表示されます。

- 表示される CAD ファイル (.dwg) またはベクター PDF の関連情報を読み取ります。
- [続行 (Proceed)]** をクリックします。

- ステップ 5** アドレスを確認するには、次の手順を実行してから、**[Confirm Address]** をクリックします。
- ロケーションを選択するには、**[Search]** フィールドに建物名を入力するか、マップを直接クリックすることでマーカーを配置します。
  - または、必要に応じて、マーカーをクリックしてドラッグし、マップ上のロケーションを調整します。  
マップ上の建物のロケーションが正しいことを確認します。  
(注)  
右側のパネルに表示されるマップからロケーションを選択する場合は、現在のロケーションを使用して地理座標を入力する権限を **Cisco Spaces** に付与する必要があります。
- ステップ 6** デジタルマップに追加するフロアを選択し、**[Next]** をクリックします。**[Floor Name]** の横にあるチェックボックスをオンにして、リストされているすべてのフロアを選択します。  
続行する前に、すべてのフロアが対応するレベル番号と短縮名で正確にリストされていることを確認してください。レベル番号と短縮名は、フロアラベルに基づいて自動生成されます。この手順は、さまざまなサイネージのユースケースを有効にするために重要です。  
(オプション) 新しいフロアを追加するには、**[Add New Floor]** をクリックし、次の詳細を入力します。
- [Floor Name]** : 新しいフロアの名前を入力します。
  - [Level Number]** : 新しいフロアのレベル番号を選択します。
  - [Short Name]** : 新しいフロアの短縮名を入力します。
- ステップ 7** デジタルマップの生成に使用するソースファイルをアップロードします。指定されたアップロードセクションにファイルをドラッグアンドドロップするか、**[Upload attachment]** をクリックしてローカルにあるファイルを参照してアップロードできます。  
**[Bulk Upload]** をクリックすると、CAD ファイルまたはベクトル化された PDF のアップロードを短時間で実行できます。  
**[Additional Info]** セクションを活用して、アップロード情報を入力します。  
変換するあらゆる要素のすべてのレイヤ（構造、家具、名前、ID など）が含まれている CAD ファイルを使用することを推奨します。名前または ID を持つ要素のみがセンサーの割り当てに対応できます。  
(注)
  - フロアごとに1つのCADファイルのみをアップロードします。相互参照(XREF)はサポートされていません。
  - サポートされているファイルタイプは、ZIP、AutoCAD 描画ファイル (DWG)、AutoCAD 描画相互変更ファイル (DXF)、ポータブルドキュメントフォーマット (PDF) です。
- ステップ 8** **[Submit]** をクリックします。  
各 CAD ファイルとロケーションメタデータが処理され、マップがデジタル化されます。**[Digital Maps]** タブにアラートメッセージが表示されます。
- ステップ 9** **[レビュー (Review)]** をクリックします。
- ステップ 10** **[Review Digital Maps]** ウィンドウで、確認する建物を選択し、**[Next]** をクリックします。

デジタル化されたマップが表示されます。

**ステップ 11** (オプション) フロアまたはスペースを選択し、必要に応じてクリックして更新します。

ポップアップウィンドウが表示され、名前を編集したり、タイプカテゴリを更新したりできます。

**ステップ 12** [**Publish this Building**] をクリックします。

デジタル化されたマップは公開され、Cisco Smart Workspaces、環境メトリックアプリケーションなど、他のアプリケーションで使用できます

Cisco Spaces ロケーション階層では、選択したロケーションについて、そのロケーションにデジタルマップがある場合、デジタルマップがデフォルトで表示されます。

変更を破棄する場合は、[**Skip this building**] をクリックします。

## [Map Service] の設定

Cisco Spaces の [**Map Service**] を使用して、異なるサイトにある同じ名前の複数のキャンパスを Catalyst Center から Cisco Spaces [**Location Hierarchy**] にインポートまたは同期します。Catalyst Center 内のサイト間でキャンパスを移動し、これらの変更を Cisco Spaces [**Location Hierarchy**] にシームレスにインポートして同期できます。

Cisco Spaces の [**Map Service**] には、インポートされたマップデータと [**Location Hierarchy**] の同期を維持するための次の機能が含まれています。

- Cisco Prime Infrastructure または Catalyst Center からエクスポートされ、[**Map Service**] を使用して Cisco Spaces にインポートされたマップは、[**Location Hierarchy**] に自動的に表示されます。
- さまざまなソース、Catalyst Center、Cisco Prime Infrastructure、または Cisco Meraki からマップをインポートまたは同期する場合、サポートが拡張され、ネットワーク階層が単一のビジネス指向の階層に正規化および統合されます。
- [**Location Hierarchy**] からロケーションを削除すると、[**Map Service**] からも削除されます。
- [**Map Service**] UI からゾーンのロケーションを削除すると、同じものが [**Location Hierarchy**] からも削除されます。
- AP インポート制限は、Cisco Spaces アカウントの AP ライセンス制限に基づいて導入されています。

[**Recent Activity**] セクションに表示される GPS マーカーの警告メッセージには、無効な GPS マーカーがあるフロアの [**Recent Activity**] セクションの階層全体が表示されます。



- (注)
- マップを操作するときは、Google Chrome ブラウザを使用することをお勧めします。マップの操作は、Google Chrome で最もよくサポートされています。他のブラウザでのマップアクションは制限されています。
  - ロケーションにマップがある場合は、マップベースのロケーション階層を作成します。ただし、[WLC Direct]>[AP prefix]、[CMX On-Prem Auto-Sync]、または [CMX Manual Upload] を使用してロケーション階層をすでに作成しており、重複する AP を含むマップをインポートしている場合、AP はマップベースの階層に移動されます。
  - [Map Service] からロケーションを削除すると、対応するアクセスポイントのみが [Location Hierarchy] から削除されます。
  - Map Service API のパフォーマンスが強化され、最近のアクティビティとステータスを取得できるようになりました。

**Cisco Prime Infrastructure から Catalyst Center へのマップ階層移行のサポート**：Cisco Spaces ロケーション階層は、Cisco Prime Infrastructure から Catalyst Center へのネストされたサイトの移行データのインポートをサポートします。

**Cisco DNA Center のネストされたサイト階層のサポート**：新しいサイトを Catalyst Center から Cisco Spaces の既存のサイト階層の上にインポートまたは同期できます。

**計画されたアクセスポイント (AP) インポートのサポート**：計画された AP をマップサービスにインポートできます。

#### マップのアップロード

[Maps Upload] をクリックして、Cisco Prime Infrastructure または Catalyst Center からマップをアップロードします。[Maps Upload] ポップアップウィンドウで、必須アクションを選択し、[Select File] をクリックして、送信元からダウンロードしたマップをアップロードします。



- (注) [Upload History] をクリックして、マップのアップロード履歴の詳細を表示します。

#### Cisco Catalyst Wireless 9164I Wi-Fi 6E シリーズ アクセスポイント (AP) サポート

Cisco Catalyst Wireless 9164I Wi-Fi 6E シリーズ AP サポートが [Map Service] に追加されました。

[Map Service] を使用して、Cisco Catalyst Wireless 9164I Wi-Fi 6E シリーズ AP を Cisco Spaces にインポートできるようになりました。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。